

プラットフォーム構築事業

事業報告書

2019年度 - 2023年度



h₁ps

History in the
Public Sphere



Imaging and Light in
Extended Reality



J E M A R O

Japan-Europe Master on
Advanced Robotics

事業報告書発行にあたって

慶應義塾大学 常任理事（国際担当）土屋大洋

プラットフォーム事業報告書の発行に際し、ご挨拶申し上げます。

本事業は、大学の世界展開力強化事業の一環として2019年に採択された日-EU 戦略的高等教育連携支援を受ける3つの大学コンソーシアムを代表して本学が取り組み、全体の魅力を国内外に発信し、ジョイントプログラムの普及を図ることを目的としています。この報告書には事業期間中に本学の主催で開催された国際シンポジウムとならんで国際会議の場でこの取り組み全体を世界に向けて発信した活動などがまとめられています。報告書の内容が、日本国内で同様の取り組みを目指す高等教育ご関係各位にとって意義あるものとなるよう希望しております。

本学理工学部・理工学研究科は、国際化のけん引役として学内外の様々な組織との連携活動を行ってきました。関係各位のご協力に感謝申し上げます。特に、本プラットフォーム事業の開始と相前後して東海国立大学機構の先導で設置された全国JDP協議会からは、本学主催のシンポジウムへの講師派遣などご協力を賜りましたので、この場を借りて御礼申し上げます。

慶應義塾大学 理工学研究科委員長 齋木敏治

本学大学院理工学研究科が幹事校となり2019年度に設置されたJEMAROプログラムは、文部科学省と欧州連合の協力体制の下で審査を受け、支援対象として採択されたものであります。同時に採択された他の2つのコンソーシアムであるIMLEXプログラム（豊橋技術科学大学）、HIPSプログラム（東京外国語大学）との緊密な情報交換や交流の下、日本と欧州の高等教育の有機的な連携を実現するべく、様々な問題解決へ向けた努力をしてきました。欧州という点では共通しているものの、異なる国のパートナー大学との教育活動を通じて、共同プログラムへの日本との取り組みの違いや欧州内の複雑な高等教育事情について多くの学びがありました。

このプラットフォーム事業報告書は、そのような苦勞の足跡を振り返りつつ、国際的な大学間連携の意義とともにその実現への障害についても具体的なかたちで国内高等教育機関関係者と共有するものです。高等教育の長い発展の歴史からみればごく限られた期間の活動ではありますが、多くの方々にとって意義のある情報としてご活用いただければ幸いです。

IUEP EU-JAPAN とは

大学の世界展開力強化事業（INTER-UNIVERSITY EXCHANGE PROJECT）は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において 2011（平成 23）年度から開始された事業です（独立行政法人日本学術振興会ウェブサイトより一部抜粋）。

その中で IUEP EU-Japan は EU 諸国と日本の大学との連携や学生交流を深めることを目的としています。日本と EU 諸国の複数の大学院による共同学位プログラム（ダブルディグリープログラム／ジョイントディグリープログラムなど）を通じて、日本と EU が協力してグローバル人材の育成に寄与するものです。



図 i : 大学の世界展開力強化事業（EU）プラットフォーム事業ウェブサイト



History in the Public Sphere
公共圏における歴史

東京外国語大学

HIPS (History in the Public Sphere)

公共圏における歴史

東京外国語大学と中央ヨーロッパ大学（ハンガリー／オーストリア）が中心となり、日本とヨーロッパの間で共同に展開する2年半の博士前期課程（修士課程）ダブルディグリープログラム

東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies

<https://www.tufs.ac.jp/hips/>



Imaging and Light in Extended Reality
光イメージング情報学
国際修士プログラム

豊橋技術科学大学

IMLEX (Imaging and Light in Extended Reality)

光イメージング情報学国際修士プログラム

拡張現実技術 (XR) の基盤となるイメージング、レンダリング、ライティング技術とその認知科学的作用を理解・習得し、ロボティクス、AI等と組み合わせることで、拡張現実技術を社会実装可能なアプリケーションとして展開し応用できる国際的人材を目指す、2年半の修士プログラム

豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology

<https://imlex.tut.ac.jp/>



J E M A R O

Japan-Europe Master on Advanced Robotics

Japan-EU 高度ロボティクス
マスタプログラム

慶應義塾大学

JEMARO (Japan-Europe Master on Advanced Robotics)

Japan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム

慶應義塾大学大学院理工学研究科と欧州の三大学

(Ecole Centrale de Nantes, France; University of Genoa, Italy; Warsaw University of Technology,

Poland) の連携で設定されたロボティクスに関する2年間の修士課程のダブルディグリープログラム

慶應義塾大学 Keio University

<https://jemaro.st.keio.ac.jp/>

1章 ジョイント・ディグリー導入へ向けたガイドライン	6
1-1 ガイドラインの概要	6
1-2 共同学位プログラム導入の経緯.....	7
1-3 IUEP EU-JAPAN 採択プログラムの取り組み	8
1-4 JD 導入に当たっての具体的な検討事項の例	9
1-5 1章のまとめと報告書の構成について.....	12
2章 国際シンポジウムの開催.....	13
2-1 日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム	13
2-2 日-EU 国際共同学位プログラムの質保証について	14
2-3 日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践.....	16
3章 国際会議等における発表と情報収集.....	17
3-1 Inter-consortia meeting about EMJMDs joint degree #1	17
3-2 Inter-consortia meeting about EMJMDs joint degree #2	18
3-3 EAIE 2023 【国際共同学位プログラムに関するワークショップ参加報告】	18
3-4 EAIE 2023 セッション報告.....	27
3-5 APAIE 2024 セッション報告	29
4章 採択校連携活動.....	30
4-1 採択校との連携	30
4-2 IUEP EU-Japan ブランディング.....	33
4-3 全国大学 JDP 協議会との連携.....	35

資料-1 日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム発表スライド	37
資料-2 シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの質の保証について 発表スライド	58
資料-3 シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践 発表スライド	72
資料-4 INTER-CONSORTIA MEETING ABOUT EMJMDS JOINT DEGREE AND EA #1 発表スライド	84
資料-5 EAIE 2023 発表スライド	87
資料-6 APAIE 2024 発表スライド	94
資料-7 HIPS プログラムの取組内容.....	103
資料-8 IMLEX プログラムの取組内容.....	110
資料-9 JEMARO プログラムの取組内容	117

1章 ジョイント・ディグリー導入へ向けたガイドライン

中央教育審議会大学分科会が大学のグローバル化に関するワーキンググループ名で2014年に発行した「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」（以下、ガイドライン）は、ジョイント・ディグリー（JD）を実現するための制度が施行されるにあたり、大学が国際共同学位等の教育連携体制の構築に際して参照すべき指針として策定されたものである。平成5年には柔軟に国際連携教育課程を設けることができるような制度の見直しが行われ、ガイドラインの改訂第二版が文部科学省高等教育局から発行されている。

ガイドラインの提供による制度普及の期待に反して、2023年の6月時点では日本国内の大学でJDの設置数は27件で、ダブル・ディグリー（DD）の349件に比較するとかなり少ない。その主な理由はプログラム設置基準の厳密さにあると言われているが、JDが生まれた背景をさかのぼって概観することで、設置基準の理解の一助とするとともに、導入へ向けたプロセスを示すことがこの報告書の目的である。以下に、文部科学省の示すガイドラインの概略と、JDを早期から提案してきた欧州連合（EU）の実情の対照を軸に、日本の大学の取り組みの実例を紹介しながら、JD導入へ向けた手順をできる限り簡便に紹介する。

1-1 ガイドラインの概要

文部科学省が発行した[ガイドライン（改訂第二版）](#)は以下に示す全4章から構成される：

第1章 総論

第2章 制度の概要

第3章 実際のJDプログラム設置にあたっての留意点

第4章 ダブル・ディグリー等共同教員プログラム

指針を示すうえで留意点が例示された第3章は以下の4つの節から構成される：

1. 基本的事項

2. プログラムの基本設計

学位のレベル・対象学問分野・名称、学位記、連携外国大学、協定、プログラム
対象者の選定・選抜等、学籍、規模

3. カリキュラムの設計・学位審査等

人材像、使用言語、教育の形態、多様なメディアを高度に利用した授業、卒業・修了要件、単位の取得、共同開設科目、成績評価、論文、学位審査、指導体制、教員、校地・校舎・施設・設備等、学生の移動（留学・在学期間）等、学習環境

4. その他

学費・奨学金等、評価・質保証、社会における認知・評価

以上の指針は、学位を授与する主体（大学・大学院）のあり方を基本的に大学設置基準に則って定めていて、その上で JD を授与する場合の留意点が追記された構造となっている。従って、日本の教育機関が新たに JD を導入する際は、まず既存の学位プログラムを基盤として、そこに新たな要素を加えるという手順が想定される。ガイドラインが提示されている[文部科学省のウェブサイト](#)には[国際連携学科等の設置の認可申請等に係る提出書類の作成の手引](#)も併せて掲載されている。

1-2 共同学位プログラム導入の経緯

ジョイント・ディグリー（JD）の概念は、EU 当局が高等教育機関の域内連携を進展させる方策の一つとして位置付けられており、1987 年のエラスムスプログラムに代表されるような、EU 統合の以前から進んでいた欧州域内高等教育のモビリティ（流動性）の高まりが背景にある。2003 年開催のベルリン高等教育サミットに設置された委員会において、JD を高等教育政策として推進することが合意された。そして 2004 年に設置されたエラスムス・スンドゥスでは EU 域内の高等教育のショーケースとしての JD 制度の導入が推奨された。さらに 2014 年から 2020 年まで続いた Erasmus+ ではエラスムス・スンドゥスジョイントマスターディグリー（EMJMD）という名称で JD 導入の姿勢が継続され、続いて 2021 年から 2027 年の期間で展開している Erasmus+ ではエラスムス・スンドゥスジョイントマスターズ（EMJM）として継承された。

このように JD の導入は EU 域内では高等教育政策として段階的に進められてきた経緯がある。その一方で、本報告書第 2 章にある EU の高等教育政策関係者を交えたシンポジウムでの議論や、第 3 章の 3-3 節に記した EAIE で開催されたワークショップでの説明にもありとおり、EU 域内での JD 普及にも大きな障害があることも事実である。とくに、EU 加盟国の間でも国ごとに学位記の形式が異なることなどから、複数の大学の署名を 1 枚の学位記に併記することが困難なケースが多い。しかしその一方で、高等教育の連携を深める目的で導入された EMJMD では、ガイドラインに示されたような教育の質保証も含めた事項が満たされている場合がほとんどであり、JD の授与という一点を除けば実質的な連携は参加各国で浸透している。

表 1-1：日本と EU の高等教育機関が提供する修士課程の相違（本事業の枠組みにおける）

項目	日本	EU
学習時間	2年で30単位	4セメスターで120ECTS
学年の開始時期	4月	10月
コースの性質	研究活動重視	講義科目中心
学習の流動性	低い、例外的	高い
JD導入の考え方	専攻の新設	プログラム単位の認証
奨学金	留学部分のみ JASSO の協定派遣	2年間のフルサポート

以上のような事情から、EUはJDに代わるものとして「ジョイントディグリーラベル」の発行をEMJMDの共通ルールとすることを模索している（2023年現在）。つまり、高等教育の連携が実質的になされることを優先し、高等教育機関の連携の象徴ともいえるJDそのものの発行については猶予を与えたものと言える。日本国内の大学でも2019年に採択された後述する3つのコンソーシアムの中では、DDプログラムの扱いで各大学が発行する学位記に、サプリメント（サーティフィケート）を合わせて発行することで修了生を認定する方法がとられている。

1-3 IUPEP EU-JAPAN 採択プログラムの取り組み

大学の世界展開力強化事業（2019年）に採択された3つのコンソーシアムは、いずれもEUが主導するErasmus+の枠内で、EUの複数の大学と共同プログラムを実行している。その際、日本とEUの共同学位プログラムを実現する上で、双方の制度上の相違を克服する必要があった。ここではそれらについて概略をまとめるにとどめる。個別の取り組みの詳細は本報告書の資料7-9として添付する。

この事業で対象とされたのは修士課程の共同学位プログラムの設立なので、以下の観点はいずれも修士課程に関する事項である。双方のプログラムで相違が目立った主な項目を表1-1に示す。学位取得までの標準的な学習時間は等しいが修了要件の取得単位数は計算方法が異なるため単純な数値の比較は困難である。学年の開始時期の相違は日本側の開始を半年遅らせるこ

とで譲歩している。コースの性質が日本では研究（修士論文）重視、EU では講義科目に吸収される形でプロジェクトが設けられるケースが多い。また、もともと EU において流動性が高く、JD 導入の考え方もプログラムベースで行われていて、日本のように大学設置基準に強くしぼられることはない。

今回の3つのコンソーシアム運営で日本人学生から寄せられた不満は奨学金支給のポリシーの相違にあった。また、EU 側は既存のエラスムス・スミドゥスマスタープログラムをベースとしているため学生の募集は全世界に対して開かれており、実際、南アジアなどからの出願が非常に多かった。一方、日本側はコンソーシアムに参加する日本の大学の在學生に限られており、そのことが双方の派遣学生の人数の大きな差となって現れた。ただし、これらの諸点は今回の事業が、異なる目的のもので導入された制度が組み合わせられたという、特殊な事情にある。今後、EU と日本の高等教育連携をさらに推進する場合は、制度のマッチングがより詳細にわたって見直されるべきである。

プラットフォーム事業を含む本事業が2019年度に開始した後に、スーパーグローバル大学創生支援事業から派生した大学の国際化推進フォーラムの一環として「[我が国の大学教育国際化に資するジョイント・ディグリープログラムの促進～全国大学ジョイント・ディグリー協議会による推進～](#)」（名古屋大学）および「[学士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラム等の国際連携による学位プログラムの質向上と高大連携の促進](#)」（立命館大学）が開設され、EU 地域に限らず有力な協定校を相手にそれぞれ成果をあげている。また、[JD の開設に特化したウェブサイト](#)が文部科学省によって提供されており、上に挙げたような様々な障壁への対策が日本国内の高等教育機関の間でも協調的に進展すると期待される。

1-4 JD 導入に当たっての具体的な検討事項の例

JD を「学位課程」として大学設置基準に基づいて設置する日本の考え方に対して、EU では1980年代に端を発しEU 統合を経て盛んになっていた「モビリティプログラムの質保証をベースとした高等教育機関の国際連携のツール」と見る考え方では、その発達の経緯が異なる。とはいえ、設置を目指すJDプログラムでは、双方の合意のもとに障害を一つ一つ取り除いてゆく必要がある。ここではまずJDプログラムの性質を様々な留学形態の比較によって整理したい。

今日、留学制度には様々な種類があり、その形態によってプログラムを提供する大学側で必要とされる事務作業にも大きな違いがある。その概略を図1-1に示す。最も伝統的な形態は個人の留学で、海外（留学生の場合には日本）の大学での学位取得を目的としている場合が一般的だ。この場合、日本の大学に求められる事務手続きは、送り出す学生に対して証明書を発行



図 1-1：留学形態ごとに求められる管理項目（右のものほど事務的な負荷が高い）

する程度の軽微なものと言える。ただし、留学生を受け入れる場合には通常の学位プログラムの提供に加えて奨学金や宿舎といった生活支援が必要となる。交換留学では海外大学との協定締結、派遣・受入れ学生人数の管理、学籍や成績管理といった手続きがさらに加わる。また、共同学位プログラムを導入する場合は、修了要件の評価が必要となる。ダブル・ディグリーであればこの作業はそれぞれの大学のルールに従って行われるが、ジョイント・ディグリーでは教育機関同士でカリキュラムの内容や成績評価などについて綿密な打合せがさらに必要となる。制度設計によっては入試選考も合同で行われるなど、教育機関に求められる作業の負荷は最も高い。このことに加えて、共同で1つの学位を授与するための種々の調整が求められる。

プログラムで提供する学術分野に着目すると、DD では既存の課程を流用するので比較的広い分野の派遣・受入れが可能だが、それに対して JD の場合はプログラムの専門性が高いケースのほうが適しているように見受けられる。実際、EMJMD に採用されたプログラムは一般的な専攻よりも比較的狭い分野にフォーカスされたものが多い。いずれにしても、設置するプログラムの目指す方向についてはパートナー間で時間をかけて考えをすり合わせる必要がある。

このように、JD プログラムは留学に代表される学びの流動性のなかで質保証の様々なしくみを組み合わせた、最も高度な形態であるので、これを導入しようとする大学は、それよりも単純な、例えば大学間協定に基づく交換留学や、研究者のグループまたは部局単位で共同の短期教育プログラム（数週間から1年程度まで）を運用した経験があることが望ましいだろう。その上で、JD の導入に際しては以下の項目が重要な検討事項として考えられる。

1. パートナー校の選定

交換留学や短期研修を共同で運用した経験のある海外協定校が JD 導入の際の相談相手となりうるが、先方が JD について十分な理解があり、導入に前向きであることをよく確認すべき。あいまいな理解で準備を始めないことが肝心。また、実際に学位プログラムそのものを提供する教員グループと運用を行う事務組織が相互に信頼関係を築いていることが最低条件といえる。

2. プログラム構築の基本的な考え方

JD プログラムを開始したとして十分な数の学生を集められるか、また、修了生の就職先として魅力的な選択肢があるかが準備の初期段階で検討すべき重要事項だ。

また、使用言語、学習時間、学習の方法や形態、モビリティのタイミング、クラスのサイズ、徴収する授業料など、ガイドラインに記されている事項をまんべんなく検討すべき。

3. 3つのポリシーとの整合性

カリキュラムポリシーだけでなく、アドミッションポリシーは併せて定義しておくべき事項である。とくに、JD では入学者の選考を参加大学が共同で行うなど手続き上の詳細の検討が求められる。ディプロマポリシーは共同学位を授与するにあたり、パートナー校の学位授与要件とのすり合わせ、さらには学位記の形式や授与の時期まで含めたプランが求められる。

4. 質保証と認証評価について

とくに EU では包括的な質保証の仕組みとして認証評価（ア krediyteeshon）の導入が検討されており、JD プログラムもその対象となる。ア krediyteeshon は日本の大学での普及はまだ限定的であり、この点についてはパートナー校と質保証の要件と審査の方法について入念な対応策の策定が求められる。

5. 継続性について

エラスムス・ムンドゥスのような大規模な奨学金制度を前提として開始したプログラムを、自走させるための資金的な見通しを最初に立てるべきである。とくに、奨学金に加えて旅費などの運用上の資金について詳細な検討が求められる。また、外部資金の獲得にはア krediyteeshon の取得が重要な要件になり得ることも指摘されている。

以上の項目に加えて、大学当局からのサポートの下に、JD の特殊性を考慮した入学広報戦略や修了生の進路の整備等、通常の学位課程との比較等を通じた JD の仕組みそのものの周知へ向けた取り組みが求められる。

1-5 1章のまとめと報告書の構成について

以上、ガイドラインの記述を基本としながら、慶應義塾大学大学院理工学研究科におけるDDPやJEMAROプログラムの運用などを通じて、また国際会議での発表・議論を経て得られた知見を交えながら、JD導入へ向けての基本的な考え方を述べた。EUの域内高等教育の連携をきっかけとして提唱されたとはいえ、JDは多様な地域間での高等教育の連携のツールとして活用できる普遍性をもつ仕組みでもある。ただし、前節でも述べたように、海外のパートナーとの協力をベースとするため、相互の信頼関係と制度への深い理解を前もって醸成しておくことが肝心である。形式的には開設できても運用で躓く危険も大きい仕組みなので、長期的な視点に立って段階的な発展を継続することが望ましい。

この報告書の次章以降には、ここで述べた内容の基本となる情報をまとめた。2章はプラットフォーム事業の一環で開催した、とくに欧州における質保証の考え方にフォーカスをおいた一連の国際シンポジウムの議論をまとめている。3章は採択された取り組みを中心に、国際的な場で発信した情報をまとめている。4章には3つのコンソーシアム関係者の中でその都度発生した問題への対処などの記録が残されている。とくにCOVID-19によって学生の派遣・受入れが計画通りに運ばなかった時期の記録が貴重といえる。最後に、資料として国際シンポジウムで使用された発表スライド、各コンソーシアムの活動概要がまとめられている。

2章 国際シンポジウムの開催

世界展開力強化事業～日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムとして、合計3回、国際シンポジウムを実施した。国際共同学位プログラムを主軸とし、各回テーマを設け、国際的な共同学位プログラムに関心のある国内外の高等教育関係を対象に最新の情報を届けることができた。また、開催内容は、ウェブサイトにて公開し、後日閲覧も可能である。

2-1 日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム

2021年3月18日に「[世界展開力強化事業～日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム](#)」をオンラインで実施した。日本やEU諸国を含む世界各地から、国際的な共同学位プログラムに関心のある高等教育関係者など、のべ196名が参加した。

第一部（14：30－16：00）は「『共同学位プログラム協議会』設立に向けて」と題し、まず、実際に海外の大学と共同学位プログラムを実施している植松美彦岐阜大学グローバル推進機構長、粕谷英樹名古屋大学副総長補佐・国際機構副機構長、前川一郎立命館大学グローバル教養学部教授・学部長が、各プログラムの現状と課題について発表した。これに続く討議と質疑応答のセッションでは、小尾晋之介慶應義塾常任理事がモデレーターを務め、3大学の発表者に、本事業を所掌する文部科学省から佐藤邦明国際企画室長を交え、学位の質の保証や共同学位プログラムを拡充する上でのより柔軟な制度のあり方などについて意見を交わした。

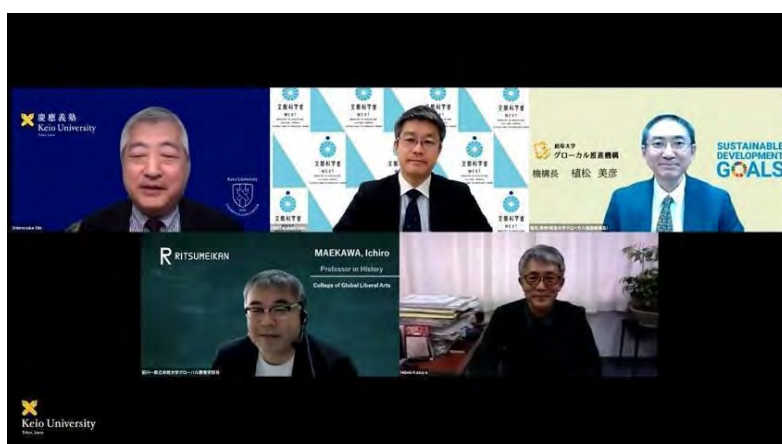


図 2-1：第一部の様子



図 2-2：第二部パネルディスカッションの様子

第二部（17：00–18：30）は、日-EU 戦略的高等教育連携支援に採択された 3 つの大学院修士課程共同学位プログラムである HIPS、IMLEX、JEMARO による第 2 回採択校連絡会を関係者以外にも公開する形で実施し、コロナ禍における各大学の取り組みや課題を広く共有した。第二部は英語で実施され、HIPS から東京外国語大学青山 享教授とヨーロッパ中央大学 Balázs Trencsényi 教授、IMLEX から豊橋技術科学大学中内茂樹教授と東フィンランド大学 Laura Hurmalainen プログラムコーディネーター、JEMARO から慶應義塾大学大学院理工学研究科村上俊之教授と三木則尚教授、エコール・セントラル・ナント（ECN）Fouad Bennis 教授が発表した。なお、すべての内容をオンデマンドの形で、随時聴講できるようウェブサイトにて公開している。

シンポジウムウェブサイト：https://jemaro.st.keio.ac.jp/iuep-eu/council/2020_symposium/

2-2 日-EU 国際共同学位プログラムの質保証について

2022 年 3 月 10 日に「[日-EU 国際共同学位プログラムの質保証について](#)」をテーマに、[大学の世界展開力強化事業日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム](#)を実施し、日本や EU 諸国を含む世界各地から 137 名が参加した。欧州委員会教育文化総局（EACEA）からの登壇者による欧州における質保証の動向に関する講演が行われた後、採択 3 プログラムそれぞれについて質保証の観点から取り組みの紹介が行われた。パネルディスカッションでは、全国 JDP 協議会からの登壇者も加え、国がそれぞれ独自にもつ学位の質保証制度において、国境を越える「共同」学位をどう評価すべきかといった本質的な課題への欧州での

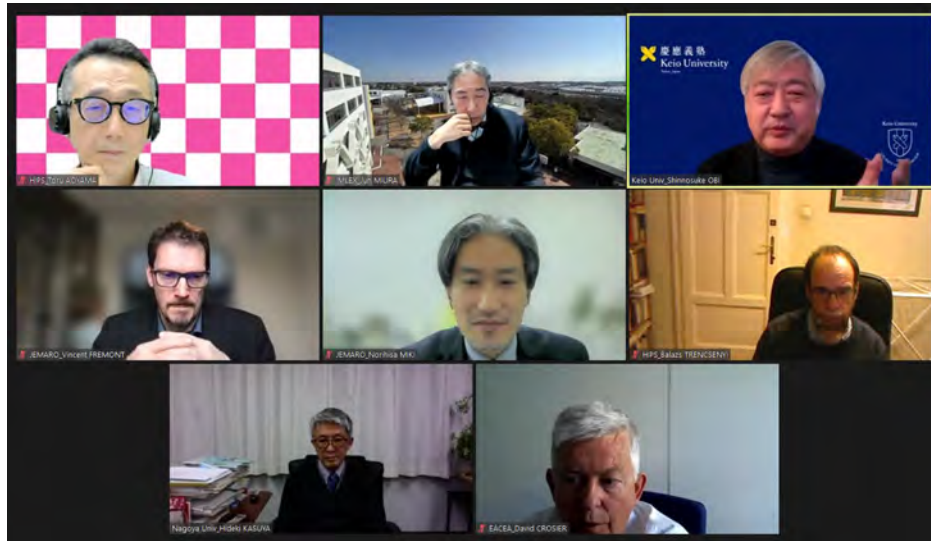


図 2-3：シンポジウム・パネルディスカッションの様子

取り組みや、JD プログラムとダブル・ディグリー（DD）プログラムの運用の違い、学生の視点からみた共同学位プログラムの利点と学位の質保証の関係性などについて議論を深めた。

以下は、参加者アンケートの抜粋であるが、日欧の相互理解、今後の共同学位プログラムの設計に向けた理解を深める機会となった等、反響が大きかった。

- ・ 情報やコメントの質が高く、共同学位プログラムの価値と課題がよく理解できた。
- ・ 共同学位に関する、ヨーロッパの現在の状況が良くわかった。文科省からの情報提供もよかった。
- ・ 共同プログラムでは先にカリキュラムの特徴に注目してしまうが、今回のシンポジウムでもっと質保証についての認識を持つべきということがわかった。JD が構成大学間で育成したい人材像・カリキュラム・質保証等多くの協議を必要とし、大変だが、最も魅力的だと感じた。
- ・ 質保証を主たるテーマとしたシンポジウムは少ないので、今後も EU の動向とともにこのようなシンポジウム・パネルディスカッションの開催を期待したい。

なお、すべての内容をオンデマンドの形で、随時聴講できるようウェブサイトにて公開している。

シンポジウムウェブサイト：<https://jemaro.st.keio.ac.jp/iuep-eu/council/20220310/>



図 2-4：シンポジウム・パネルディスカッションの様子

2-3 日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践

2022年10月7日に「[日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践](#)」をテーマに、[大学の世界展開力強化事業～日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム](#)を実施し、日本やEU諸国を含む世界各地から101名が参加した。第1部では、欧州委員会教育文化総局（EACEA）から専門官を招き、欧州における国際共同学位プログラム（JDP）について、その経緯や特徴、質保証の考え方についての紹介およびJDP実例紹介を行った。第2部ではフランスの研究・高等教育評価高等審議会（HCERES）から専門官を招き、欧州地域における高等教育の質保証に関するガイドラインについての内容紹介、具体的な評価プロセスや評価基準の紹介を行った。第1部、第2部ともにそれぞれ活発なパネルディスカッションが行われ、日欧の高等教育、国際共同学位の設置に関する課題を共有した。

事後の参加者アンケートでは、97%が非常に良い・良い内容であったと回答し、「日欧両方の具体的な課題等とてもよく理解することができた」、「質保証について考慮すべきであることを理解でき、有意義だった」等のコメントが寄せられたことから、国際共同学位プログラムについての適切な情報提供ができたと考える。なお、すべての内容をオンデマンドの形で、随時聴講できるようウェブサイトにて公開している。

シンポジウムウェブサイト：<https://jemaro.st.keio.ac.jp/iuep-eu/council/20221007/>

3章 国際会議等における発表と情報収集

海外大学との連携をより活発にさせることに資する活動として、国際教育関係者が集う国際会議の場で本事業の取り組みを発表した。とくに、日本の大学における国際共同学位プログラム開発の動向について広く紹介した。加えて、国際会議等における海外の大学との協議を通じて、国際共同学位についての動向について情報収集を行った。また、本学主催の国際シンポジウムでもテーマとして取り上げ、広く国内外の大学へ紹介することができた。また本報告書やウェブサイトにて、紹介し、今後、国際共同学位プログラムを検討する関係者にとってもアクセシブルな形で情報を公表している。本章において主な国際会議として、4つの会議における発表や参加報告を紹介する。

3-1 INTER-CONSORTIA MEETING ABOUT EMJMDS JOINT DEGREE #1

2021年11月16日に、Inter-Consortia Meeting about EMJMDS Joint Degree #1（第1回 EU-日本 国際共同学位情報交換会）をオンラインで行った。参加大学を図3-1に示す。

EMJMD（Erasmus Mundus Joint Master Degree）ならびに「大学の世界展開力強化事業による日-EU 戦略的高等教育連携（IUEP EU-Japan）に関わる国際共同学位（修士）プログラムを行う日欧の大学関係者が参加の関係者が参加、それぞれのプログラムについて理解を深め、各大学、各国における修士号に関わるルールや国際共同学位とする際の障害について話し合い、相互理解を深めた。ラウンドテーブル・ディスカッション形式にて、オープンな議論を行い、関係者間の交流の機会となった。プラットフォーム構築大学として、日本の学位授与について紹介を行った。発表スライドは、資料4に掲載する。

PROGRAM
1. Presentation of the institutions by all universities on Masters' double degree and masters' accreditation system
2. Presentation of the European Approach for Quality Assurance of Joint Programmes
3. Joint degree: implementation, limitation and obstacles
4. Question and answer session
参加大学 （欧州6校、日本3校）
- Ecole Centrale de Nantes: (JEMARO & EPiCo, France)
- Keio University: (JEMARO, Japan)
- Tokyo Universities of Foreign Studies: (HIPS, Japan)
- Toyohashi University of Technology: (IMLEX, Japan)
- University of Genoa: (JEMARO, Italy)
- Warsaw University of Technology: (JEMARO, Poland)
- Christian Albrechts Universitaet Zu Kiel: (EPiCo, Germany)
- Universita Degli Studi dell'Aquila: (EPiCo, Italy)
- Universitatea Politehnica din Bucuresti: (EPiCo, Romania)

図3-1：プログラム・参加大学

3-2 INTER-CONSORTIA MEETING ABOUT EMJMDS JOINT DEGREE #2

2022年7月13日にEU-日本国際共同学位情報交換会（第2回）をハイブリッド形式で行った。EMJMD（Erasmus Mundus Joint Master Degree）ならびに「大学の世界展開力強化事業（Inter-University Exchange Project）」による日-EU 戦略的高等教育連携に関わる国際共同学位（修士）を実施する日本・欧州の大学関係者を中心に、各大学、各国、各プログラムにおける修士号に関わるルールや国際共同学位の設置、質保証に関する理解を深めるため、情報交換会を開催した。参加者を図3-2に示す。フランスの質保証機関（HCERES）による欧州における質保証の動向紹介/European Approach for Quality Assurance of Joint Programmes (EA) の講演に続き、質疑応答を行った。

PROGRAM
1. Introduction
2. European Approach (EA): Introduction, Process of the EA, Process of the EA
3. Process of the EA: Process of the EA
4. Questions and answers session
参加大学 (欧州6校、日本3校関係者、発表者HCERESならびに文部科学省担当)
- Ecole Centrale de Nantes: (JEMARO & EPiCo, France)
- 慶應義塾大学Keio University: (JEMARO, Japan)
- 東京外国語大学Tokyo Universities of Foreign Studies: (HIPS, Japan)
- 豊橋技術科学大学Toyohashi University of Technology: (IMLEX, Japan)
- University of Genoa: (JEMARO, Italy)
- Warsaw University of Technology: (JEMARO, Poland)
- Christian Albrechts Universitaet Zu Kiel: (EPiCo, Germany)
- Universita Degli Studi dell'Aquila: (EPiCo, Italy)
- Universitatea Politehnica din Bucuresti: (EPiCo, Romania)
- 文部科学省担当

図3-2：プログラム・参加大学

3-3 EAIE 2023 【国際共同学位プログラムに関するワークショップ参加報告】

2023年9月26日-29日にオランダロッテルダムで開催されたEAIE（European Association of International Education）2023において、会議開催に先立ち企画された国際共同学位プログラムに関するワークショップに参加した。この節では、ワークショップへの参加を通じて知りえた国際共同学位プログラムに関する欧州の動向に加えて、これまで欧州協定校との面会で得た情報や大学の世界展開力強化事業（日-EU 戦略的高等教育連携支援）IUEP EU-Japan プラットフォーム構築事業で得た知見も織り交ぜて紹介する。

Trainers




Mirko Varano, KTH Royal Institute of Technology

- Senior advisor for international projects, International Relations Department
- 30 year experience in the field of internationalization of higher education
- Project manager for the Unite! EUI Alliance
- Co-Chair of the FOREU 1 subgroup on the Joint European Degree
- Coordinator of a number of studies on the impact of JPs
- Chair of the EAIE Expert Community on European Collaborative Programmes
- Involved in the ED-AFFICHE Project (Joint European Degree Label)
- Long-term experience of working as a team with Alessandra Gallerano

Alessandra Gallerano, University of Padua

- Head of Projects & Mobility Office, International Relations Division
- Extensive knowledge of HE policy, internationalization and the EU
- Long-term experience in Joint Programmes in different roles (student & alumnae; project manager; consultant; etc.)
- Part of the SC of Arqus European University Alliance
- Involved in the EDLab Project (Joint European Degree Label)
- EAIE Trainer & speaker since 2013
- Founder of the EAIE JP Network
- Long-term experience of working as a team with Mirko Varano



図 3-3 : ワークショップ講師

国際共同学位プログラムの今後について議論するワークショップ

EAIE 会議初日の 26 日に“Future Scenario: Effective development and implementation of joint programmes”と題する EAIE のワークショップへ参加の機会を得た。ワークショップの講師は Mirko Varano (スウェーデン・王立工科大学、KTH)、Alessandra Gallerano (イタリア・パドヴァ大学、University of Padua)である。両大学は国際プログラムを数多く実施する著名な大学であり、両氏は国際教育の分野で 20~30 年のキャリアを持ち、欧州政府の教育政策についての最新の動向についても明るい実務家であった。

朝 9 時に開始され 17 時まで行われたワークショップには 24 カ国（欧州域外 13 各国を含む）の 31 名（教員 6 名、職員 25 名）が参加した。4 つのセッションからなるプログラムの詳細を以下に示す。

Session 1 JPs Setting the framework（背景と定義）

- 定義
- ボローニャ・プロセスと JPs
- 欧州政策と JPs
- 優先事項
- なぜ JPs か
- グループ討議

Session 2 Developing JPs; from policy to practice (構築、政策と実施)

- JPs の構築
- JPs の実施
- 主な課題
- 主な可能性と最新の動向
- グループワーク (World Cafe)

Session 3 Innovating JPs: making best use of digital tools (デジタルの活用)

- JPs でのデジタル活用
- イノベーティブな JPs モデル
- 活用すると良いツール
- 関係者のトレーニングリソース
- ガイドライン
- グループワーク(シミュレーション)

Session 4 Future perspectives: towards a Joint European Degree? (今後の動向)

- The European Universities Initiative (EUI) と JPs
- The European Strategy for Universities(2022)
- Joint European Degree Label という Pilot Call (試験公募)
- 二つの Joint European Degree Label 試験採択プログラムの暫定的結果
- グループワーク
- まとめ

なお、JPs は Joint Programme の略称で、このワークショップでは次のように定義された：

Integrated study programme at any level developed and managed jointly between two or more HEIs¹ from two or more different countries leading to the award of a joint or multiple degree, attested by one or more diplomas.

2つ以上の国に所在する2校以上の高等教育機関が共同で開発し管理する、ある課程における統合された学位プログラムで、1つまたは複数の学位記(ディプロマ)により認証された1つの共同学位(ジョイントディグリー)、あるいは、複数学位(マルチプルディグリー)が授与されるもの。(以上、和訳は仮訳)

¹ HEIs は高等教育機関、Higher Education Institutes の略

ここで注意したい点として、Joint Programme は必ずしも JD プログラム²を指すものでないことである。欧州において Joint Programme は、複数大学が共通のカリキュラム、共通の入試選考、協同での卒業・学習成果の確認を行うプログラムを指す。実際には、プログラムの作りとしては JD プログラムと同じであるが、大学の所在国毎で法的なプロセスが踏めていない為、学位記をプログラムとしてまとめて1枚とできないプログラムが少なからずあるようである。よって、Joint Programme は、JD のみならず、ダブルディグリー (DD) 等の形で運営される、複数の大学が共同で運営する共同学位プログラムを広く指し示している³。

日欧における JD プログラムの設置

日本では、現時点⁴では大学が JD を授与するためには大学設置基準により定められた方法で大学院の課程を新設することが求められる (国際連携教育課程制度)⁵。既存の専攻と学位の種類・分野が同一であれば、施設・教員等を兼ねることは一定程度認められるが、専攻の新設が必須条件となっている。合同で発行する学位記についても専攻設置に先立ちパートナー大学間で各国の法律に準拠する形で調整が必要である。

欧州において、国によって違いはあるものの、各大学の中心的な教員がプログラムを設計し、各大学の同意が得られれば、Joint Programmes の設立は可能である。Joint Programmes を設立するにあたっては、実現可能性調査(フイージビリティ・スタディ)を実施し、カリキュラ

² 欧州会議の Yerevan 宣言 (2015) の定義は下記である。

Joint programme : understood as an integrated curriculum coordinated and offered jointly by different HEIs, leading to multiple or joint degrees

Joint Degree : A single document awarded by HEIs offering the joint programme and nationally acknowledged as the recognized award of the joint programme

Multiple Degree : Separate degrees awarded by issuing separate diploma by the participating HEIs. If two degrees are awarded, it is a “double degree”

³ 例としては、後出のエラスムス・ムンドゥス共同修士課程 (Erasmus Mundus Joint Masters (EMJM)) の要件

⁴ 2023 年 11 月

⁵ 文部科学省ウェブサイト ジョイント・ディグリー・プログラム

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/mext_00001.html

[ガイドライン 我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン\(改訂版\)](#)

ムやモビリティ・パス（どの大学にどの期間留学するか）を検討し、財源・事業計画や学費の方針を検討することが肝要である。その後、プログラム内部の調整と在籍大学の承認、提携大学間の協定締結を並行して行い、ある程度具体化した段階でプログラムを開始し、学生を募集する。

プログラム発足段階で、実現可能であれば、プログラムとして合同で学位を出す JD プログラムとするが、実現不可能な場合は DD プログラムとして開始、継続する。欧州委員会の下で国際的な JD 実施についての各国国内法制の調整の動きはあるが、実際には、いくつかの齟齬が存在している。実現可能な場合には、共同で一枚の学位記を発行する。共同学位に記入される書式やデータは、各国の規定が定めるテンプレートに従って、プログラムごとに異なる。共同プログラムの開始時に JD プログラムとすることが不可能な場合は、プログラムを走らせながら、その手順を検討し、手続きを進める。同様に、（質保証のための European Approach (EA) の枠組みの下での）最初の Accreditation（認証）を、プログラム設立の過程でいつ、どこで取得するかも検討される。

このように日欧の JD プログラムの構築プロセスでは、重きを置く点が異なる。日本では、届出での設置に向け、カリキュラムの確定に加え、全参加大学について広範囲かつ詳細にわたる情報を集約し、プログラムごとに専攻の設置認可を受ける（その後は変更があれば一旦廃止して設置）。つまり、設置時に非常に重点が置かれている。これに対して、欧州で発展・定着してきた形は、数年かけて調整しつつプログラムを構築していき、試行を重ねつつ、大学毎のタイミングで JD 化を実現し、質を担保し、国際共同学位プログラムとしての特殊性を踏まえた認証評価（Accreditation）を受けていく、走りながらブラッシュアップし、質を担保していくことに重点が置かれている。

欧州におけるディプロマ（学位記）

学位授与に関しては、欧州においても各大学が所在する国・地域の学位授与に係わる法律等に準拠する必要がある。JD プログラムは、プログラムとして合同で一枚の学位を授与するが、これを実現するには、各国・大学毎に相当量の調整が必要となる。そのため、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、ベルギーに所在する本学の協定校の多くからは、国際共同学位プログラムにおいて JD プログラムを創設することには後ろ向きの意見が聞かれた。イタリア・ミラノ工科大学では、5つの JD プログラムを実施するが、全てイタリア国内の大学との JD であるとのことだ。当大学の国際担当者はイタリア国外の大学との間の JD は障壁が大きいため検討していないと言っていた。また、スウェーデン・王立工科大学（KTH）やフランス・グルノーブル理工科大学（Grenoble INP – UGA）の国際担当理事からは、学生から見ても、

JD がマルチプルディグリーとの比較において、とりわけ歓迎されることはなく、むしろその価値が学生や雇用者に十分に伝わらないという意見さえも聞かれた。

広範囲で実施されているのは、学生が就学した大学の従来の学位を授与する、いわゆる DD を含むマルチプルディグリーとした上で、プログラムの関係大学からなるコンソーシアムが共同で作成するディプロマ・サプリメントを発行する方式である。本学が参画する JEMARO プログラムも現時点でこの方式をとっている。ディプロマ・サプリメントとは、学位記に添付される証明文書で、欧州では、共同学位に限らず、一般的に学位記と共に修了学生に発行・付与することが必須である。ディプロマ・サプリメントには、個々の学生がどの時期にどのパートナー校で学んだか、学生が受講した授業・コースや試験の内容、学位論文に関する詳細な情報が記載されており、プログラムとしての学習成果を証明するものである⁶。

これまでの欧州における共同修士課程の推進の道—エラスムス・ムンドゥス

欧州では国際共同学位プログラムはエラスムス・ムンドゥスの資金援助を通じて実施されるのが一般的である。エラスムス・ムンドゥスは、これまで約 20 年間にわたり実施され、第 1 期は Erasmus Mundus Master Courses (2004 年-13 年)、第 2 期は Erasmus+ のもと Erasmus Mundus Joint Master Degrees (2014 年-2020 年)、第 3 期は Erasmus+ のもと Erasmus Mundus Joint Masters (2021 年-2027 年) と発展してきた。現在、European Universities (欧州大学イニシアティブ) やエラスムス・ムンドゥスの共同修士プログラムが実施されている。

ワークショップでは、エラスムス・ムンドゥスの共同修士課程は、総勢、535 プログラムを数え、33 カ国 (プログラム国)、610 の高等教育機関が参画、24,500 名の学生が就学、総額 17 億ユーロ⁷が投入されたという数字が示された。

エラスムス・ムンドゥス共同修士課程 ([Erasmus Mundus Joint Masters \(EMJM\)](#)) に採択されることで、プログラムの価値と質を保証することができ、潤沢な奨学金が支給されるため、学生募集にあたって有利となる。ただし、採択期間が 6 年間と有限でありプログラムの継続 (サステナビリティ) が課題である。EMJM の応募要件としては、JD (推奨) あるいは、マルチプルディグリーとなっており、JD に限定されていない。現在、EMJM ウェブサイトの

⁶ ディプロマ・サプリメントについて日本語詳細資料

https://www.niad.ac.jp/media/008/201912/DS_report_summary.pdf

⁷ 1.7billion Euro (1 ユーロ 160 円で換算すると日本円で 2720 億円)

[Erasmus Mundus Catalogue](#) には、203 プログラム掲載が有り、日本が参加国に含まれるのは JEMARO を含む 7 プログラムであった⁸。

欧州における JD プログラムの限定的な広がり⁹

日本においては、2023 年 6 月時点では JD プログラム 27 件¹⁰、DD プログラム 349 件であり、圧倒的に後者が広く運用されている¹¹。欧州においては、欧州で 2003 年より進展してきたボローニャ・プロセスにより、域内の教育改革により流動化（モビリティ）を促進してきたため、これを凌駕する数であることは想像に難くない。しかしながら、JD プログラムの具体的な数字の把握は難しいようである。欧州政府機関が発行する欧州高等教育圏（European Higher Education Area, 以下 EHEA と略）の報告書（[The European higher education area in 2020 – Bologna process implementation report 2020](#)）には、Bologna Process Implementation Report 2018¹²からの引用として、Joint Degree（JD）を授与する高等教育機関は EHEA において 5%にとどまるとのことが紹介されている。同報告書には Joint Programme 実施数についての包括的な情報源が無いと示されており、実数は把握されていないようである。これに近い情報として存在するのは、U-Multirank tool であり、これには 2019 年以降の 24 分野における 12,500 個の Joint study programmes が掲載されているということだ。同報告書に示された二つの見解、一つは欧州には数多くの国際共同学位プログラムがあるが、その中において JD プログラムの広がりが極めて限定的であるということ、二つ目に欧州の大学にとっても設置に当たっての障壁があるということについては、欧州の協定校から聞いた内容を裏付けるものであった。

認証評価（Accreditation）

認証評価（Accreditation）については、欧州では従来より、各国（あるいは州、分野）ごとに定期的に行う仕組みがある。国際共同学位プログラムについては、参加大学の国ごとに認証評価を受ける必要があったため、事務的な負担も大きいことが複数国にまたがるプログラムを実施する障壁となっていた。2015 年欧州 Yerevan 会議にて [European Approach\(EA\)](#) が正式に承認され、主に EHEA 圏内の JD, DD 等を含む各種国際共同学位プログラムの質保証を推進す

⁸ 2023 年 11 月 19 日検索

⁹ この項目は、筆者が本稿の執筆に際して調べた内容である。

¹⁰ 12 大学 27 プログラム(内：国立 11 大学 26 プログラム・私立 1 大学 1 プログラム)

¹¹ 文部科学省公表資料（2023）参照

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/mext_00001.html

¹² 発行元：Eurydice (European Education and Culture Executive Agency) 2018

る仕組みとして、導入された¹³。各国がこの EA を承認すれば、プログラム単位で EA による認証評価を受ければ、個別に各国の認証評価を受けなくてもよいこととなる。現在、イタリアをはじめ EA 未承認の国も残っている。このイタリアでの承認の遅れは顕著であったが、ワークショップ講師のイタリア・パドヴァ大学担当者によると、2024 年以降に承認される方向で国内の動きがあるようである。

JD から Label へ—欧州政府の政策焦点の遷移

今回ワークショップで新たに詳しく知り得た情報として挙げられるのは、“Joint European Degree Label”への動きである。国境を越える複数大学のプログラムが、共通の基準に基づく認証評価をクリアした場合、学習成果を証明する証書として、任意で発行することができる仕組みである。国際共同学位プログラムにおけるカリキュラム、マネージメントなど各層での Joint-ness が重要であることは広く認知されている。このような国際共同学位プログラムの中で、欧州政府機関（European Education and Culture Executive Agency 以下、EACEA と略）が推進しようとしていた複数国の大学にまたがる JD を目指すプログラムについては各国の法律等の障壁があり、前ページにて JD を実施している大学が全体の 5%と紹介したとおり、必ずしも多くの大学から受け入れられず、また、プログラムの増加は大きく期待できない状況のようである¹⁴。

そうした中で、2023 年 2 月に EACEA は Joint European Degree Label のパイロットプログラム 6 件を選定し、欧州共同学位ラベルの検討、試験、実施を促進する方針を示した。これは、欧州の大学など複数の高等教育機関が国境を越えて協力し、共同プログラムを卒業する際に学生が取得する資格を補完するものとして、プログラムあるいは Degree に Joint European Degree Label をラベル付けするものである。このラベルは、EHEA 圏内の複数の国にまたがる大学による欧州共同学位への一歩と位置づけられ、学生の流動性と協力を促進することを目的としている。Joint European Degree Label を付与する基準（複数のクライテリア）をどう設定

¹³ EA については、本報告書の 2 章で紹介した本学開催のプラットフォーム構築事業シンポジウムでも詳しく紹介した。<https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/20221007/>

¹⁴ 根拠：The European University Association (EUA)による POLICY INPUT [Considerations for a “European degree” \(May 2022\)](#)

するかも知れ、このパイロットプログラムを通じて得られる結果を経て検討されるとのことである¹⁵。

エラスムス・プラス 2021–2027 の下で推進されている EHEA 圏内での国境を越えた大学間コンソーシアムの形成及び発展を支援するプロジェクトである“[European University Alliance](#)”（「欧州大学」）の動きと比較すると“Joint European Degree Label”はまだ調整段階であり、ビジブルではないが、今後どのような形になるか、EHEA 圏外でどのような影響があるか、引き続き注視する必要がある。

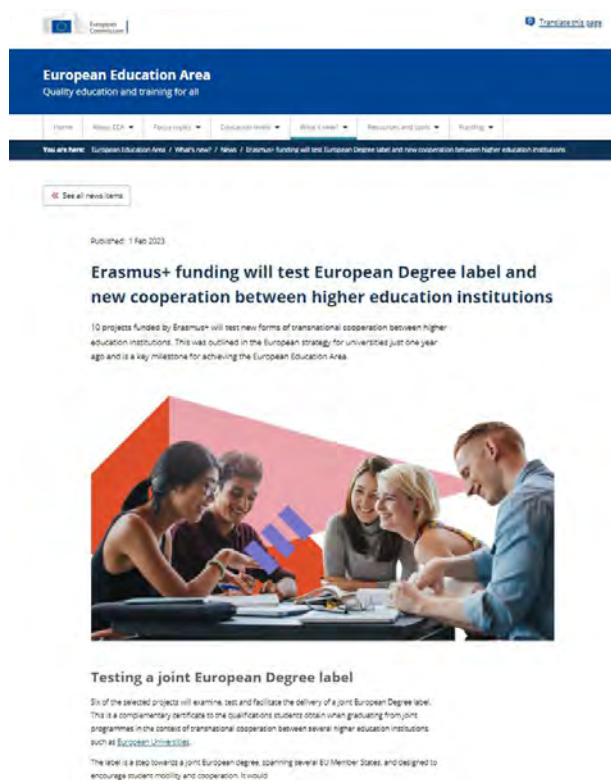


図 3-4：Joint European Degree Label のパイロットプログラムについて EACEA ウェブサイト

¹⁵ [Erasmus+ funding will test European Degree label and new cooperation between higher education institutions | European Education Area \(europa.eu\)](#)

3-4 EAIE 2023 セッション報告

2023年9月26日-29日にオランダロッテルダムで開催されたEAIE (European Association of International Education) 2023において、IUEP EU-Japanのプラットフォーム構築事業の一環として、“Challenges and opportunities in establishing joint degree programmes between the EU and Japan”と題したセッションを9月28日に行った。セッションでは、Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム (JEMARO) ならびにプラットフォーム構築事業を通じた知見や成果を報告した。当セッションの発表者は、本学理工学研究科小尾晋之介教授並びにJEMAROのパートナー大学のローカルコーディネーターであるVincent Fremont教授(フランス・エコールサントラルナント、Ecole Centrale de Nantes), Teresa Zielinska教授(ポーランド・ワルシャワ工科大学、Warsaw University of Technology)であった。

発表では、JEMAROや、その前身であるEMAROプログラムの経験を通じて得られた国際共同学位プログラム運営に関わる知見を示した他、とくにJDプログラムの設置と認証評価に関わる日欧の違いを紹介し、今後日欧の国際共同学位プログラムを実施する際の参考点を示した。50席ほどの会場は、各国からの参加者で満席となり、発表後の質疑応答も活発に行われた。聴衆には、JEMAROと並んでIUEP EU-Japanに採択された豊橋技術科学大学のIMLEX(光イメージング情報学国際修士プログラム)の欧州側参画校であるベルギーのルーヴェン・カトリック大学(KU Leuven)のIMLEX事業推進担当者も含まれた。同担当者からは、日欧間の国際共同学位の実施上の課題などの発表内容へ強い共感が示され、IMLEXからの経験の共有もあった。

EAIE website: <https://www.eaie.org/>



図 3-5：質疑応答の様子



図 3-6：講演者、JEMARO・IMLEX 関係者

3-5 APAIE 2024 セッション報告

2024年3月4日-8日にオーストラリア・パースで開催されたAPAIE 2024 (Asia-Pacific Association for International Education Conference) において、IUEP EU-Japan のプラットフォーム構築事業の一環として、“Challenges in Implementing Joint Degree Programs Across Continents”と題した45分のセッションを設けた。7日早朝に行われた当日のセッションでは、東京外国語大学の歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム (HIPS)、慶應義塾大学のJapan-EU 高度ロボティクスマスタプログラム (JEMARO) ならびにプラットフォーム構築事業を通じて得られた知見や成果を報告した。当セッションの司会進行は本学理工学部 小尾晋之介教授が務め、HIPS の東京外国語大学副学長 篠原琢教授並びに JEMARO のパートナー大学のローカルコーディネーターである Vincent Fremont 教授 (フランス・エコールサントラルナント、Ecole Centrale de Nantes) がそれぞれのコンソーシアムの状況について発表した。

二つのコンソーシアムの発表に先立ち、JD プログラムの設置と認証評価に関わる日欧のこれまでの検討の道筋を紹介し、国際共同学位プログラムを実施する際の参考点を紹介した。会場には各国からの参加者40名ほどが足を運び、発表後の質疑応答ではJDの持つ意味や導入に際しての諸問題に関する質問が寄せられ、活発な議論が行われた。

APAIE website: <https://www.apaieconference.net/>



図 3-7：講演者 3 名 (JEMARO・HIPS)

4章 採択校連携活動

プラットフォーム構築大学として、採択校同士の情報共有を目的として連絡会・情報交換会を定期的に開催し、事業の進捗、課題を共有する機会を設け、相互から工夫・グッドプラクティスを学び合い事業を発展させることができた(4-1)。また、プラットフォームとしての発信力、「日本とEU」の連携事業の認知度・プレゼンスを高めるため、プラットフォーム事業合同ウェブサイトとしての共通のロゴとキー・メッセージを合同のブランドとして開発、3プログラム合同のウェブサイト、動画を作成した(4-2)。東海国立大学機構の主導で全国大学JDP協議会が設置されたため、大学の世界展開力強化事業日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築大学としての本学の役割について文部科学省へ確認を行った。本学は、欧州を中心とした海外への発信や連携を行い、これを通じて得た、国際共同学位構築に関する知見・経験を広く国内にも共有することに注力することが示された。全国大学JDP協議会においては、国内の横連携を主軸とし、ジョイントディグリーに関する情報発信や意見集約を行っており、双方の活動において連携を行った(4-3)。詳細について以下項目で紹介する。

4-1 採択校との連携

プラットフォーム構築大学として、採択校同士の情報共有を目的として連絡会・情報交換会をオンライン・対面で開催し、事業の進捗と課題を共有した。以下が、連絡会8回、情報交換会9回、合計17回の会議の開催実績である。なお、3プログラムの取組内容については、資料7~9に年度ごとの進捗を掲載した。

表 3-1：採択校連絡会・情報交換会開催実績一覧

日付	内容	議題
2020年7月20日	第1回連絡会	・各コンソーシアムの進捗状況の確認と情報共有
2020年9月28日	第1回情報交換会	・各担当者紹介及び各プログラムの概要説明 ・現時点での各プログラム実施状況、受入予定人数等の確認 ・JDについて
2020年12月16日	第2回連絡会	・3プログラム合同のウェブサイト、動画作成、ブランディング、ロゴ作成について ・シンポジウムに向けた検討
2021年2月10日	第2回情報交換会	・現時点での各プログラム実施状況(受入・派遣)

2021年3月2日	第3回連絡会	・プラットフォーム構築事業シンポジウム、学生交流会等の進捗状況共有
2021年3月18日	第4回連絡会	・コロナ禍における各大学の取り組みや課題を国内外からの聴衆へ広く共有
2021年6月28日	第3回情報交換会	・派遣生の渡航準備状況、オンライン授業実施体制 ・受入生の宿舎および隔離期間の対応について ・現時点での受入生に関する検討事項洗い出し
2021年8月26日	第4回情報交換会	・学生派遣-ワクチン接種 ・出発状況・学生受入れ-現状及び来日後のサポートについて ・学生交流会開催に向けた協力依頼 ・共同学位についての勉強会開催について
2021年11月9日	第5回情報交換会	・11/5 発令の留学生の入国緩和について各大学での昨年対応状況および今後の展開に関する情報共有 ・11/16 開催の EU-日本国際共同学位情報交換会について事前確認
2021年12月15日	第6回情報交換会	・JD（ジョイント・ディグリー）の国内外の動向（国内：中教審大学分科会における議論、欧州：European Approach） ・2022年3月プラットフォーム構築事業シンポジウムについて ・世界展開力強化事業 コロナ禍の活動について
2022年3月10日	第5回連絡会	・「国際共同学位による質保証」をテーマに各大学の取り組みを国内外からの聴衆へ広く共有
2022年10月7日	第6回連絡会	・「日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践」をテーマに各大学の取り組みを国内外からの聴衆へ広く共有
2023年2月1日	第7回連絡会	・双方プログラムの進捗状況の確認、課題共有、ならびに最終年度に向けた計画等の情報共有
2023年2月8日	第7回情報交換会	・2022年度学生交流（受入・派遣）人数（推移） ・展開力事業期間終了後（EU側事業期間継続中）の活動について ・最終成果報告について ・最終年度の計画 ・企業との連携（活動・就職）について ・国際共同学位の運用について ・補助金の使用手続きについて

2023年2月22日	第8回連絡会	・EUプログラムとしての最終年度に向けた計画の検討
2023年6月21日	第8回情報交換会	・国際会議 EAIE・APAIE における発表について ・事業報告書 ・各事業の進捗
2023年11月17日	第9回情報交換会	・国際会議 EAIE ワークショップ・発表内容の報告 ・APAIE における発表について ・事業報告書進捗報告 ・EM Regional Seminar in Tokyo ・各事業の進捗 (JASSO 奨学金、継続)

コロナ禍、日本人留学生は海外渡航ができず、オンラインで留学先大学の授業への参加を求められた。2021年3月21日に HIPS,IMLEX,JEMARO の3プログラムの学生7名が集い、想定とは異なる形でのリモート留学に際した苦労やその中での各学生の工夫について語り合う、学生交流会を開催した。

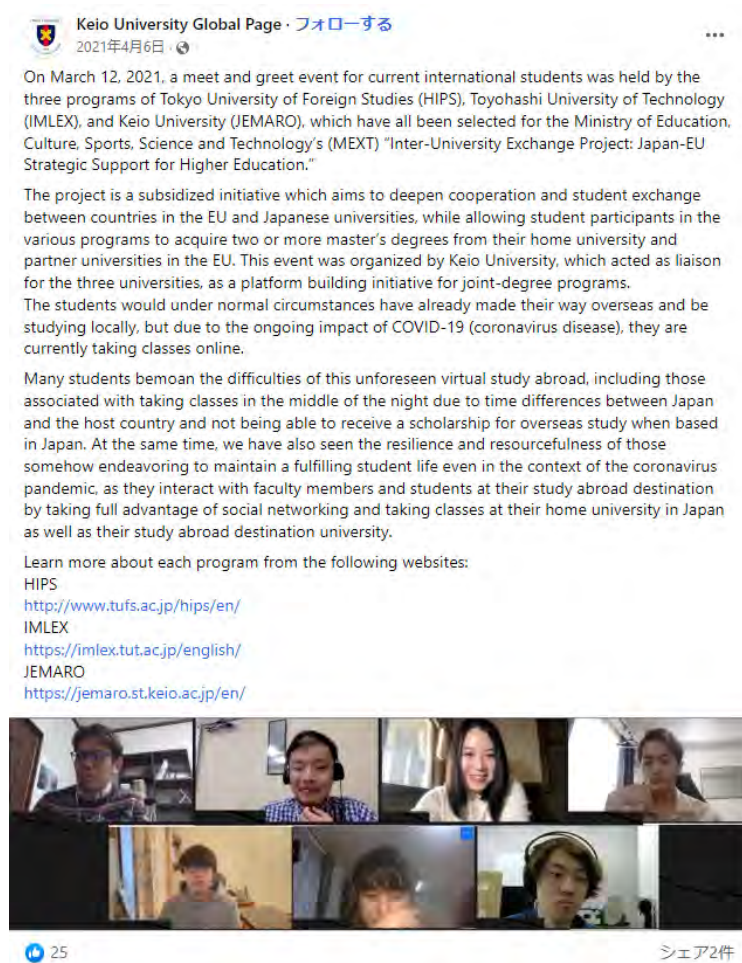


図 3-8 : 採択校 3 大学学生交流会 SNS 紹介記事

4-2 IUEP EU-JAPAN ブランディング

大学の世界展開力強化事業（EU）プラットフォーム事業として、採択3大学の認知度向上と発信力強化を目指す中で、当初は、対面での国際会議や交流イベントを中心に計画し、ネット上の成果の報告の場としての合同ウェブサイトの構築を検討していた。しかし、2020年の初めに発生したコロナ禍により、学生の渡航さえままならない中で、対面でのイベントは再開の目処が立たなくなった。公開シンポジウムなどのイベントのうち可能なものは、オンラインに切り替えることとした。

一方、合同ウェブサイトに関しては、2020年12月に実施した採択校連絡会での話し合いを経て、3つのプログラムを集めて発表する単なるポータルサイトではなく、プラットフォームとしてのブランディングを強化することで合意した。3大学からは、各プログラム情報の一覧性の確保に加えて、「日本とEU」の連携事業であることがわかること、3プログラム共通の課題も含め、今後EUと連携してプログラムを実施する日本の大学の参考になるものを目指すこと、海外での認知度・プレゼンスを高めることなどの要望が挙げられた。そこで、プラットフォーム事業合同ウェブサイトとしての共通のロゴとキー・メッセージを合同のブランドとして開発することになった。

結果として、このブランディングの作業工程は、3大学それぞれのプログラムの特色を認識すると同時に、3大学の関係者が共通してこの事業に寄せる期待を再確認する作業ともなった。公共圏の歴史という観点から地域や世界の歴史を問い直す東京外国語大学のプログラム、拡張現実技術の社会実装を担う人材育成に焦点を当てる豊橋技術科学大学のプログラム、ロボティクス分野の研究開発を主導するエンジニアの養成を目指す慶應義塾大学の3つのプログラムは、コンテンツとしての接点は少ないが、3大学共通の目的は、EUと日本の間の学生交流を活発にし、高度人材を育成することである。そのために、3つの取り組みの一体感、連帯感を醸成しながら各大学の認知度も向上させ、EUと日本双方の学生から共感してもらえる、一貫したメッセージを発することを目指した。

具体的には、数ヶ月にわたり、各大学の教職員、参加学生の個別インタビューや、オンライン上での意見交換の場を設け、そこで、3つの取り組みの共通点や目指すところ、コロナ禍でのオンライン留学についての学生・教員の課題、なおもこのプログラムに期待するものなどについて、関係者各自が語り、それらの言葉を拾い集め、これらを分析し整理した。その結果に基づいて「大学の世界展開力強化事業（EU）プラットフォーム事業」としての概念化を行なった。

最終的に、3大学の合意のもと、ロゴマーク「IUEP EU-JAPAN」と、キー・メッセージ「The Experience 自分をひらく。世界が変わる。」を合同ブランドとして採用することを決定した。また、このブランディングに即して、個々のプログラムの紹介動画ならびに3プログラム合同の紹介動画も掲載している。

<https://jemaro.st.keio.ac.jp/iuep-eu/>



図 3-9：大学の世界展開力強化事業（EU）プラットフォーム事業ウェブサイト

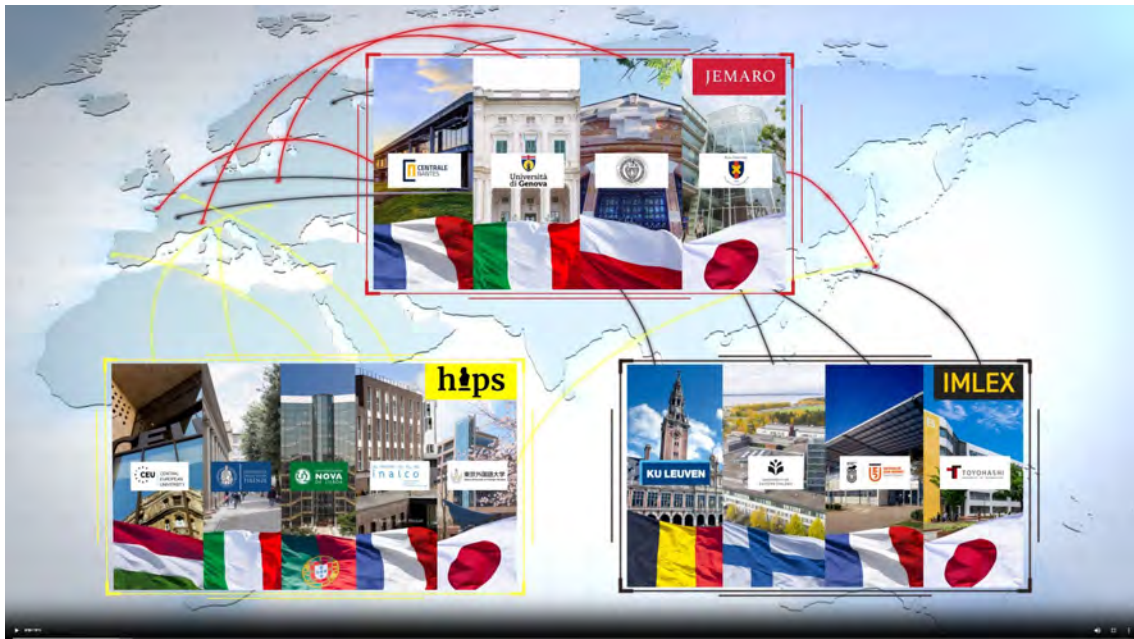


図 3-10：IUEP EU-Japan 3 プログラム合同紹介動画から

4-3 全国大学 JDP 協議会との連携

全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会（全国大学 JDP 協議会）は、大学の国際化推進フォーラムの取組の一つである「我が国の大学教育国際化に資するジョイント・ディグリープログラムの促進～全国大学ジョイント・ディグリー協議会による推進～」(名古屋大学)の活動の一環として2022年4月に設置された。その目的は、全国の大学におけるJDPに係る運用に関する課題の改善、活用の方策の検討、今後の展望についての検討、情報の共有、文部科学省に対する意見・要望等のとりまとめ・提言及びJDPの設置を検討・予定している大学への助言等の支援を図ることとしている。

本学は、発足当初から、オブザーバーとして参加するとともに、双方の活動への参加や双方のウェブサイトへのリンクを張り連携を行っている。第1回全国大学JDP協議会総会やJDに関するシンポジウムへの参加、「ジョイント・ディグリー・プログラム (JDP) の実態把握に係る調査」への回答を通じ、本学の現状について情報提供、国内大学の取り組みの聞き取りを行った。また、本学開催のプラットフォーム構築事業シンポジウムには全国大学JDP協議会からのパネリストを招待し、国内の既存JDP実施校を束ねる全国大学JDP協議会の立場から意見交換を行なった(詳細は第2章参照のこと)。



図 3-11：全国大学 JDP 協議会ウェブサイト

資料

資料-1 日-EU 戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウム発表スライド

資料-2 シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの質の保証について 発表スライド

資料-3 シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践 発表スライド

資料-4 INTER-CONSORTIA MEETING ABOUT EMJMDS JOINT DEGREE AND EA #1 発表スライド

資料-5 EAIE 2023 発表スライド

資料-6 APAIE 2024 発表スライド

資料-7 HIPS プログラムの取組内容

資料-8 IMLEX プログラムの取組内容

資料-9 JEMARO プログラムの取組内容

資料-1

日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム 構築事業シンポジウム発表スライド

2021年3月18日

慶應義塾大学工学部・理工学研究科

岐阜大学ジョイント・ディグリー（JD）4専攻の概要と JD協会の設置について

An Overview of Four Joint Degree Programs Running in Gifu University and Foundation of Joint Degree Council

岐阜大学・グローバル推進機構長 植松 美彦
 岐阜大学の国際化を担う機関：**グローバル推進機構（平成31年）**

岐阜大学の理念と目標より

3)国際化
 岐阜大学は、**地域に根ざした国際化と成果の地域還元**によって**グローバル化**を実現する。
 特に、多文化共生型による国際教養コースの設置、日本人学生と留学生の混在型教育の充実、留学生の組織化や就職支援の充実など、国際化につながる施策を推進する。
 （目標より抜粋、<http://www.gifu-u.ac.jp/>）

岐阜大学の国際化を担う機関：グローバル推進機構

Global + Local ⇒ GLOCAL
 地域に根ざした国際化・成果の地域還元

日本国内の一定地域（岐阜、東海地方）と海外の一定地域（北東インド、マレーシア etc...）とが教育、研究、社会・経済活動についてマッチする課題を共有、認識し、それらを解決することによって得られる成果が、双方の地域振興に結実する。

→ 実践的な国際化、すなわちグローバル化
 地域と世界をつなぐ「グローバル・リーダー」の育成

→ 本学におけるJDの概念と密接に関連
 単なる教育プログラムにとどまらない、地域を巻き込んだ人材育成・研究協力・産学連携

岐阜大学のJDプログラム（計4プログラム）

国際連携専攻（JD）4専攻の設置：平成31年4月

レベル	専攻名	設置母体	定員	H31	R02
修士(2年)	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 (IITG) 国際連携食品科学技術専攻	自然科学技術研究科	10名	8	3
博士(3年)	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 (IITG) 国際連携食品科学技術専攻	連合農学研究科	2名	2	1
博士(3年)	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 (IITG) 国際連携統合機械工学専攻	工学研究科	2名	2	1
博士(3年)	岐阜大学・マレーシア国民大学 (UKM) 国際連携材料科学工学専攻	工学研究科	2名	2	2

- 岐阜、東海地区と北東インド、マレーシアの地域振興
- 地域企業を含めたJDコンソーシアムの形成
- 単なる教育プログラムにとどまらない、地域を巻き込んだ人材育成・研究協力・産学連携

At IITG (19 July, 2019): 修士課程

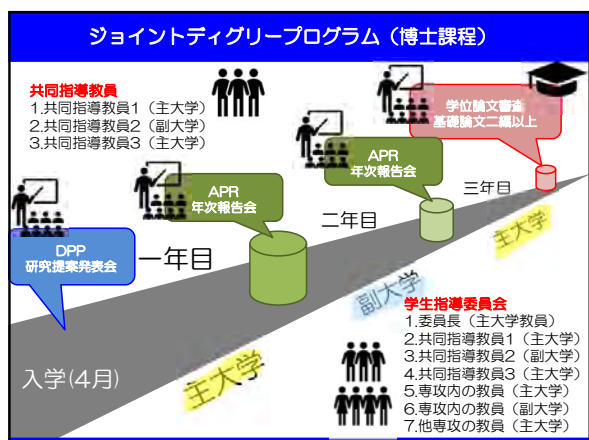
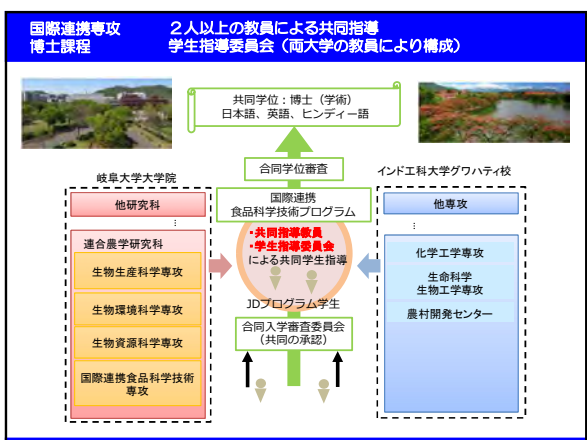
国際連携食品科学技術専攻（修士）の例

2019 入学年度 入学人数 4名
 2019 入学年度 入学人数 4名
 2020 入学年度 入学人数 0名
 2020 入学年度 入学人数 3名

海外インターンシップ (オンライン)

講義名	単位数	講義形態
先端食品加工学	3	講義
膜工学	3	講義
生活環境管理と農業技術【地域開発指向型】	3	講義と実習
修士論文研究	4	実務
デザイン思考実践演習	1	演習
インターンシップ	3	演習と実習

全員、単位を取得できた！（インド工科大学の大学院生としての力があつた）



JD PhD学生の研究テーマ 異分野の教員による多彩な国際共同研究

食品科学	統合機械工学	材料科学工学
GU 生物生産科学 食品生命科学 応用植物科学 ・ ・ ・	GU ロボット工学 環境・エネルギー工学 再生エネルギー 半導体工学 ・ ・ ・	GU 分析化学 有機化学・無機化学 材料合成 磁性材料 ・ ・ ・
IITG 生命科学 生物工学専攻 化学工学専攻 農村開発センター ・ ・ ・	IITG 流体力学 計算工学 熱工学 医療装置 ・ ・ ・	UKM 有機合成化学 生体センサー 排水処理 高分子膜 ・ ・ ・

GU-UKM 材料科学工学専攻 MSE

CO₂回収用の深共溶媒-アミノ酸 (DES-AA) ベースの固体吸着剤の合成 (2019)

Synthesis of Deep Eutectic Solvent-Amino Acid (DES-AA) Based Sorbents for CO₂ Capture

Detection of malaria biomarker, β -hematin, computational study

マラリアバイオマーカーの検出と新規抗マラリア剤の開発 (2019)

共同研究先
 マレーシア医療研究所
 マレーシア国立健康研究所
 マレーシア保健省

マラリア原虫ノウレシ感染症に対する抗マラリア剤としての4-アミノキノリン骨格を含む遷移金属 Schiff 塩基 (2020)

Transition Metal Schiff Base containing 4-Aminoquinoline Scaffold as Potential Antimalarial Agents against Plasmodium falciparum

JD活動の地域・産業界への波及効果

～JD活動を基盤とする日本企業のID相手国への進出支援と食品及び関連産業の推進～

岐阜県経営者協会、マレーシア・地域産業界 (マレーシア農林大学(UKM))、大学内に2つのホールディングス

バイオインダストリー協会、中部経済連合会、各種企業団体

10都府県を介した産学官連携の交差点を築けるシンポジウムを「岐阜」で毎年開催

インドとの初のJD

岐阜 (東海) 地域産業界のJD相手国進出へのゲートウェイとなる

日本語・日本(企業)文化を理解する留学生の育成・活用

再大学の人的ネットワークを活用して地域産業をつなぐ

農・工連携の初のJD

両国の企業が参加して 北東インド及びマレーシアで 食品及び加工食品製造

食産業システム創成、国際大学連携による社会貢献モデル

健康増進食品

岐阜大学出IITGの活躍による経済効果の事例
 H30年度に「アジア・太平洋」北東インドにおける生物資源利用の将来構想 (JSPS二国間交流事業) を実施
 ・日本企業の三菱ケミカルフーズ(株)、オリエンタル酵母(株)、イビデン(株)が参加
 ・北東インド農産物マーケティング協同組合、北東インド商工会議所主催のセッションの実施
 ・アッサム州の投資促進「アドバンテージ・アッサム」(モディ首相、平松大使等が出席)に参加【写真】
 ※インド北東部の開発と日本(インド)政府との協力
 【日印北東部開発フォーラムJH29】、「アジア・イースト・フォーラムJH29」

JDを中軸とした人材育成・共同研究・産学連携

マレーシア 産・官、インド 産・官

UKM, IITG

学生交流 短期派遣・専入、ウィンタースクール

人事交流 教員受入・派遣

国際共著論文 2編/JD学生 (4編/年以上)

国際共同研究 1件/JD学生 (6件/年)

JD国際連携専攻 FST, IME, MSE FST (修士)

国際学術交流 シンポジウムの開催

JDコンソーシアム

岐阜大学、東海地域産官学金

岐阜ジョイント・ディグリー国際シンポジウム2019・2020

2019年10月, 2020年12月

2019年: 参加者のべ220名

- IITG: ティー・ジー・シタラム学長
- IITG: ガウタム・ビスワス前学長
- UKM: ムハマド・ハムディ・アップドゥール・シュコール学長
- インド政府北東インド評議会: シュリ・ラムガニング・ムイバ長官

→ シンポ後、岐阜県副知事と面談

- アカデミックシンポジウム
- 日印産官学パネルディスカッション (北東インド地域商工会 (FINER) からのビデオメッセージ)

2020年 (Webinar): 参加者のべ325名

- 文部科学省高等教育局長 伯井 美徳氏による基調講演
- メインシンポジウム
- 学術セッション
- 産官学金連携セッション


ポストJDシンポジウム2019: 2019年11月10～15日

北東インド地域商工会 (FINER) 代表団来日


- 岐阜県羽島市のテキスタイルマテリアルセンターにて、羽島市長および羽島商工会と面談。
- その後、岐阜県、愛知県、三重県および東京都内の13企業等を視察。

岐阜商工会議所、中部経済連合会、羽島商工会議所@テキスタイルマテリアルセンター

国際学術交流シンポジウムの合同開催



IITG&GU合同ウェビナー
「食品科学技術におけるトランスレーショ
ナルリサーチ（橋渡し研究）の新展開」
2020.10.16



UKM&GU国際シンポジウム
食品科学に関する国際シンポジウム
2020.9.22-23

人事交流：教員受入・派遣

Himanshu Shekhar Jha, New Faculty

Dr. H.S. Jha IITG卒業生
岐阜大学工学部 助教




2017年4月から岐阜大学工学部・情報工学科助教
コースの助教として勤務しました。2019年インド工
科大学(IITG)で博士号(工学)取得してまい
ました。北東インド工科大学の帰国後、岐阜大学
のグローバル化に貢献したいと考えています。岐阜大
学のグローバル化に貢献したいと考えています。私
の主な研究分野は、太陽電池の有機材料のフ
ィルム形成と有機材料の合成です。
得意な分野は、有機材料のフィルム形成のフ
ィルム形成と有機材料の合成です。

岐阜大学工学部ニュース
2018 No.18

人事交流：教員受入・派遣

UKM卒業生の教員
リムリーワ教授
1999年卒



岐阜大学で活躍する女性の紹介
岐阜大学で活躍する女性からあなたへのメッセージ

リムリーワ教授は、2019年10月に岐阜大学に赴任し、現在は工学部 情報工学科 助教として勤務しています。2019年10月に岐阜大学に赴任し、現在は工学部 情報工学科 助教として勤務しています。2019年10月に岐阜大学に赴任し、現在は工学部 情報工学科 助教として勤務しています。

リムリーワ教授は、2019年10月に岐阜大学に赴任し、現在は工学部 情報工学科 助教として勤務しています。2019年10月に岐阜大学に赴任し、現在は工学部 情報工学科 助教として勤務しています。

JD活動の地域・産業界への波及効果

～JD活動を基盤とする日本企業のID相手国への進出支援と食品及び関連産業の推進～

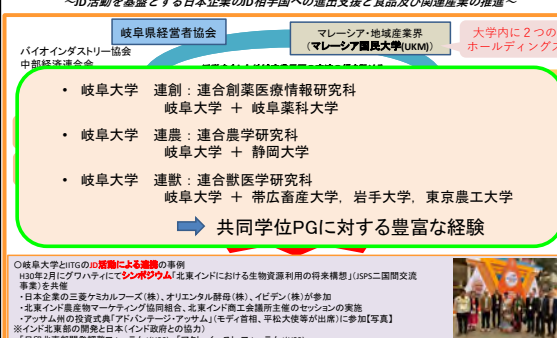


岐阜県経営者協会、マレーシア・地域産業界 (マレーシア国民大学(UKM))、大学内に2つのホールディングス、バイオインダストリー協会、各種企業団体、岐阜大学、インドとの初のJD、農・工連携の初のJD、国際大学連携による社会貢献モデル

○岐阜大学とIITGのJD活動による連携の事例
H30年2月にグワハティにて「シンポジウム」北東インドにおける生物資源利用の将来構想 (ISSP2国際交流
事業)を共催
・日本企業の三菱ケミカルフーズ(株)、オリエントル食品(株)、イビデン(株)が参加
・北東インド農産物マーケティング協同組合、北東インド農工会館所主催のセッションの実施
・アッサム州の投資促進「アドバンシングアッサム」(モディ首相、平松大使等が出席)に参加[写真]
※インド北東部の開発と日本(インド)政府との協力
「日印北東部開発協議フォーラム」(H29)、「アクトーイーストフォーラム」(H29)

JD活動の地域・産業界への波及効果

～JD活動を基盤とする日本企業のID相手国への進出支援と食品及び関連産業の推進～



岐阜県経営者協会、マレーシア・地域産業界 (マレーシア国民大学(UKM))、大学内に2つのホールディングス、バイオインダストリー協会、各種企業団体、岐阜大学、インドとの初のJD、農・工連携の初のJD、国際大学連携による社会貢献モデル

岐阜大学とIITGのJD活動による連携の事例
H30年2月にグワハティにて「シンポジウム」北東インドにおける生物資源利用の将来構想 (ISSP2国際交流
事業)を共催
・日本企業の三菱ケミカルフーズ(株)、オリエントル食品(株)、イビデン(株)が参加
・北東インド農産物マーケティング協同組合、北東インド農工会館所主催のセッションの実施
・アッサム州の投資促進「アドバンシングアッサム」(モディ首相、平松大使等が出席)に参加[写真]
※インド北東部の開発と日本(インド)政府との協力
「日印北東部開発協議フォーラム」(H29)、「アクトーイーストフォーラム」(H29)

全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会(案)の設置に向けて

名古屋大学 (アデレード大学 国際連携総合医学専攻 (D))
(エディンバラ大学 国際連携理学専攻 (D))
(ロンドン大学 国際連携総合医学専攻 (D))
(カセサート 大学国際連携生命農学専攻 (D))
(フライブルク大学 国際連携総合医学専攻 (D))
(西オーストラリア大学 国際連携生命農学専攻 (D))

東京医科歯科大学 (チリ大学 国際連携医学系専攻 (D))
(チュラロンコーン大学 国際連携歯学専攻 (D))
(マヒン大学 国際連携医学系専攻 (D))

京都工業繊維大学 (チェンマイ大学 国際連携建築学専攻 (M))

筑波大学 (ポルドー大学、国立台湾大学 国際連携食料健康科学専攻 (M))
(マレーシア工科大学マレーシア 日本国際工科院 国際連携持続環境科学専攻 (M))

京都大学 (ハイデルベルク大学 国際連携文化越境専攻 (M))
(マギル大学 ノム医学 国際連携専攻 (D))

名古屋工業大学 (ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻(D))

立命館大学 (アメリカン大学 国際連携学科 (学部))

長崎大学 (ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻 (D))

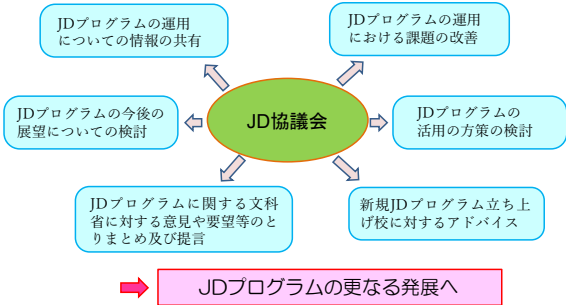
山口大学 (カセサート大学 国際連携農学生命科学専攻 (M))

広島大学 (ライプツィヒ大学 国際連携サステイナビリティ学専攻 (M))
(グラーツ大学 国際連携サステイナビリティ学専攻 (M))

岐阜大学 (インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (M))
(インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (D))
(インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻 (D))
(マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻 (D))

全国大学ジョイント・ディグリープログラム協議会（案）の設置に向けて

本協議会は、ジョイント・ディグリー（JD）プログラムを開設、あるいは開設を予定している大学が、以下の目的のために一堂に会し（オンラインによる開催を含む）、各大学の取組み及び課題等について協議するものである。





次世代に向けた国際連携教育としてのJDPの推進

Promotion of international cooperative education,
JDP, for the next generation

名古屋大学 副総長補佐 粕谷英樹

10-20年後の名古屋大学の姿

世界最先端研究大学

高い国際競争力を持ち
Sustainableな世界を築く人材を育成する魅力ある
世界屈指の研究大学へ

戦略1 世界Topレベルへ
先端的研究強化

WPI、学内WPIの実施
若手・女性・外国人支援

戦略2 海外Top大学と
Joint Degree実施

国際共同教育研究ユニット設立
国際共著論文・外国人教員の増加
世界屈指の研究大学を目指す

戦略3 世界を牽引する
人材の育成

留学生受入・定着
日本人学生派遣
国際適用性のある教育



戦略4 アジアにおける
拠点の展開

各国中核人材育成
アジア・サテライトキャンパス始動
優秀な留学生の獲得

戦略5 世界の大学との
学術連携の拡大


世界トップ大学との連携強化
AC21, RENKEI, MIRAI, APRU

名古屋大学におけるジョイント・ディグリープログラム (JDP) の拡大推進

指定国立大学構想
知識基盤社会をリードする卓越した博士人材を育成

国際共同研究を推進し、**世界トップ大学との研究ネットワークを基盤としたJDP**を開始

- ◆ 学生は世界を知り、世界にネットワークを獲得
- ◆ 大学は連携大学の教育体系や先進的な取組を取り入れ、更に発展
- ◆ 連携大学との共同審査により、学位は国際的にも質を保障



知識基盤社会をリードする博士人材を育成


NU MIRAI 2020 名古屋大学戦略イニシアティブ

名古屋大学を**世界屈指の研究大学**に

- ◆ 人類の幸福に貢献する「勇気ある知識人」の育成
- ◆ ノーベル賞受賞者輩出など人類の知を持続的に創出
- ◆ 世界の誰もが選びたいくなるキャンパスの実現
- ◆ アジアと世界に競む人材の育成

etc...

Academic Consortium 21



沿革

国際学術コンソーシアム (Academic Consortium: AC21) は、2002年6月24日に発足された名古屋大学国際フォーラムにおいて、世界的教育・研究・産業組織により構成された国際的な学術ネットワーク構築を目的として設立されました。国際フォーラムには、世界の24主要大学・教育研究機関の学長および代表者が参加し、新しく活かされた世界的な高等教育の協力手段として、国際学術コンソーシアム (AC21) の結成を採択しました。

激動する時代のなかで、多様に変化する社会の要求に応えるために、高等教育機関が協力を発揮する必要がある。知識の蓄積、専門知識や経験を共有する高等学術機関の国際的なネットワークは、その役割を果たす有効な手段です。AC21は、その活動を通じて、世界の知識領域に貢献していきます。

理念

AC21の理念は、教育と研究の発展のために会員が相互に協力するとともに、世界の異なる地域社会の架け橋となり、21世紀にあってあらゆる人が活躍や発展の機会を越えて共有しつつ豊かな生活を送ることができるよう、相互に理解し固有の知識や文化の価値を共有する英知を磨き育むことです。

AC21 基本活動

3つの柱「教育」、「研究」および「地域連携」に基づいたAC21の目的を達成するために、全メンバーは、以下の基本活動を推進する。

学生および教職員の活発な交流

研究上の関心および学術上の活動に関する情報の共有、適切と認められる範囲内での連携教育プログラムの開発、異文化の地域間交流支援

2年毎のAC21国際フォーラムの開催

教育

- ・ 多文化の理解と国際的視野の涵養や文理両面の素養の養育
- ・ 生涯教育の推進
- ・ 世界水準の知識と雇用価値の涵与

研究

- ・ 国際的に活躍できる優れた研究者の育成
- ・ 国際共同研究の推進
- ・ 技術移転のための国際的枠組の構築
- ・ 国際競争力のある産業創出

AC21 Members (17 Universities)

アメリカ	中国	ニュージーランド
・ ノースカロライナ州立大学	・ 吉林大学	・ カンタベリー大学
・ ミネソタ大学	・ 上海交通大学	・ フランス
インドネシア	・ 東北大学	・ ストラスブル大学
・ ガジャマダ大学	・ 同濟大学	・ ラオス
オーストラリア	・ 南京大学	・ ラオス国立大学
・ アデレード大学	ドイツ	南アフリカ
タイ	・ フライブルク大学	・ ステレンボッシュ大学
・ カセサート大学	日本	
・ チュラロンコン大学	・ 名古屋大学	

海外Top大学とJoint Degree実施

> 中央教育審議会審議に供し、設備等の整備を経て、H27.10に我が国初の国際連携専攻を開設
 > Top大学と専攻レベルでの研究・教育の本格的な連携化、合学位置画による学位の国際的質保証
 > 共同修得カリキュラム（専任教員履用）⇒ 1年単位以上併学で研究（専任教員・助教等教員を履用）
 > 国際共修履修、共同論文発表が可能である

アゾール大学(ポルトガル)


大学: 109席
工学: 51-100席
設置: H27.10

名古屋大学

大学: 116席、医学: 151-200席
理学: 51-100席、工学: 49席
生物: 101-150席、農学: 51-100席

チュラロンコン大学(タイ)

大学: 245席
工学: 201-250席
設置: H3.4



エディンバラ大学(英国)

大学: 23席
工学: 51-100席
化学: 51-100席
医学: 26席
設置: H28.10

メルボルン大学(オーストラリア)

大学: 78席
工学: 51-100席
設置: H29.4

ローストランド大学(ニュージーランド)

大学: 116席、医学: 151-200席
理学: 51-100席、工学: 49席
生物: 101-150席、農学: 51-100席

ライプツィヒ大学(独)

大学: 171席
工学: 101-150席
設置: H30.10

カセサート大学(タイ)とのJDP協力を皮切りに、研究レベルで国際共同研究を推進している東京アゾール大学、パリ、ロンドン、香港の大学とJDP協力の可能性を研究している

世界を牽引する人材の育成

外国人教職員・学生が生活しやすいキャンパスへ

G30プログラムの背景と現状

- 外資系のみで卒業可能な入学のコース
- 学部カリキュラムとして1プログラム開設
 - ⇒ 日本国内で最大規模の学部による学部教育機関
- 海外リクルート活動による応募者の増加 (左記グラフ参照)
 - ⇒ 海外、特に東アジアの高校で説明会や模試開催を実施

G30プログラムの成果

- G30プログラムにおける日本教育を強化
 - ⇒ 本専攻はグローバル人材として日本国外で活躍 (IT/コンサル、IT/IT企業、実務経験、ソフトウェア等)
- 学部卒業生の25%が海外の大学院に進学 (オックスフォード大学、MIT、ミシガン大学、シカゴ大学等)
 - ⇒ 本学の教育が国際通用性を持った高いレベルにあることの証左

年度	学部	大学院
H23	157	54
H24	185	55
H25	250	58
H26	329	60
H27	396	64
H28	410	69
H29	496	70

G30教員任期満了後の学内への定着にむけた取組

- 取組後のG30専攻終了後、専攻内専攻で雇用性確保
- 教育・研究について評価の高い教員は、任期の定めの無い雇用へ
- 職次転換予定

日本人学生の国際化促進

- 日本人学生のG30専攻履修促進 (G30 for Everyone)
- 国際共同学位プログラム推進
 - ⇒ 世界の舞台で活躍する学生の育成 (Joint Degree Program等)

G30 for Everyone の実態

次世代に向けた国際連携教育の推進

ジョイントディグリープログラム

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイントディグリーとは

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。今般の学位設置基準等の改正により可能となるJDは、所定のプログラムの修了者に対し、連携する外国の大学との連名による学位の授与を認めることとするもの(第二号以下では後者の定義による。)

文部科学省

平成 26 年 11 月 14 日に大学設置基準の一部改正が行われ、「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」が公表された。

世界的なグローバル化の進展を背景に、高等教育においても、世界規模で国境を越えた学生や教員の流動化をはじめとする高等教育全般の国際化が年々加速しており高等教育を取り巻く世界の諸情勢を鑑み、実施された。

JDP設置の目的について

1. 国際連携により、強みを活かした新たな研究の推進
2. 医学知識だけでなく、海外適応力や経歴の体得
3. 海外大学の学位を活かした海外へのキャリアパスを容易に
4. 国際協働研究の推進と世界的地位の向上を促進
5. 交流のさらなる発展と国際共同研究の推進、海外ネットワークの構築

初めての挑戦と課題

- 海外大学との信頼関係の構築
- 国際共同シンポジウムの開催
- 文部科学省による設置承認
- 手探りの設置申請

沿革

2004年、名古屋大学はアデレード大学と正式に学術交流協定を締結した。また、名古屋大学はAC21において、アデレード大学との強いパートナーシップを構築した。

また、アデレード大学とは、学部生の学生交換を開始した。

名古屋大学は、大学間の交流だけでなく、研究レベルでの交流と共同研究の実施を推進するため、2013年、5月にアデレードにて合同シンポジウムを開催した。

ジョイントスーパービジョンプログラム調印式 (2014年3月19日)

この協定を元に、初めて本学の大学院生がアデレード大学の健康科学部への派遣が行われた。これが礎となり、ジョイントディグリープログラムの設立へと大きく前進した。

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

FAN Joint Symposium (3大学合同会議)

- Kenji Kadomatsu, M.D., Ph.D. (Nagoya University)
- Andrew Zannettino, M.D., Ph.D. (University of Adelaide)
- Christoph Peters, M.D., Ph.D. (University of Freiburg)
- Andrew Zannettino, M.D., Ph.D. (University of Adelaide)
- Daniel Worthley, M.D., Ph.D. (University of Adelaide)
- Takashi Takahashi, M.D., Ph.D. (Nagoya University)
- Atsushi Natsume, M.D., Ph.D. (Nagoya University)
- Michael Wirsching, M.D., Ph.D. (University of Freiburg)
- Hiroaki Kimura, M.D., Ph.D. (Nagoya University)
- Jozsef Gecz, Ph.D. (University of Adelaide)
- Branko Atkisk, M.D., Ph.D. (Nagoya University)
- Kuni Ohno, M.D., Ph.D. (Nagoya University)

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

連携の歴史について

- 2013.3 第1回3大学合同国際シンポジウム(名古屋)
- 2013.9 第2回3大学合同国際シンポジウム(アデレード)
- 2014.9 第3回3大学合同国際シンポジウム(アデレード)
- 2015.3 第4回3大学合同国際シンポジウム(フライブルク)
- 2015.10 第5回3大学合同国際シンポジウム(名古屋)
- 2016.10 第6回3大学合同国際シンポジウム(アデレード)
- 2017.10 第7回3大学合同国際シンポジウム(フライブルク)
- 2018.11 第8回3大学合同国際シンポジウム(名古屋)

初めてフライブルク大学にて合同シンポジウムを開催した。

3大学にフレブルク大学を加えて、初めて4大学にてシンポジウムを開催した。特にJDPについて、各大学関係者が集い今後の戦略について話し合いを行った。

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

初めての挑戦と課題

- 文部科学省による設置認可
- 手探りの国際連携専攻設置申請

厳しい設置審査

本専攻の設置には、文部科学省による厳しい審査が必要であった。2015年に無事に審査に合格し、本邦初、海外大学との共同博士課程プログラム(1つの学位を授与するジョイント・ディグリー・プログラム)が設置された。

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

専攻名	設置研究科	開設認可
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (名古屋・アデレード, JDP)	医学系研究科	2015年(平成27年)6月
名古屋大学・フレブルク大学国際連携総合医学専攻 (名古屋・フレブルク, JDP)	医学系研究科	2016年(平成28年)11月
名古屋大学・ライプツィヒ大学国際連携総合医学専攻 (名古屋・ライプツィヒ, JDP)	医学系研究科	2018年(平成30年)6月

本邦初を含む3つのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP) 名古屋大学大学院医学系研究科は海外の大学と共同で博士課程プログラムを運営し1つの学位を授与する、ジョイント・ディグリー・プログラムを2015年に本邦で初めて開設しました。

連携するのはランキングにおけるトップ100レベルの名門大学です。4年間の博士課程のうち1年間は上海外灘に滞在し、1つのテーマを日本と海外の多角的視点から研究することで国際的視野を育みます。両大学からの共同学位はあなたの国際経験の証となります。海外渡航へは経済的支援を行います。

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

1年次 10月 4月 2年次 10月 4月 3年次 10月 4月 4年次 10月 4月

名古屋大学 海外連携大学

共同設置科目

専門科目

研究(名古屋大学) 研究(連携大学) 研究(名古屋大学)

2年時から4年次 少なくとも1年

共同博士課程プログラム

Joint single PhD Degree

主大学 連携大学

名古屋大学大学院医学系研究科
Nagoya University Graduate School of Medicine
国際連携総合医学専攻 ジョイント・ディグリー・プログラム

Toward the Global Research initiative

革新的な研究の推進へ

1. 神経領域
2. がん領域
3. 再生領域
4. 免疫・感染症

新たな挑戦
名古屋・フライブルク・アデレードの3大学からフレブルクを加えた4大学の国際連携へ

名古屋大学ジョイント・ディグリープログラム学生状況

ジョイント・ディグリープログラム入学者数

区分	専攻名	主大	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
			名大	他大	名大	他大	名大	他大	名大	他大
修士	名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻	NU	2	1	2	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	LA	1	1	1	1	1	1	1	1
博士	名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻	NU	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	LA	1	1	1	1	1	1	1	1
修士	名古屋大学・セントラル大学国際連携総合医学専攻	NU	2	1	1	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	CU	1	1	1	1	1	1	1	1
修士	名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻	NU	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	LA	1	1	1	1	1	1	1	1
修士	名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻	NU	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	LA	1	1	1	1	1	1	1	1
修士	名古屋大学・セントラル大学国際連携総合医学専攻	NU	1	1	1	1	1	1	1	1
	国際連携総合医学専攻	CU	1	1	1	1	1	1	1	1

修士論文: 46本
 名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻 1名 (NUを主大) 2020年3月
 名古屋大学・アテレード大学国際連携総合医学専攻 2名 (LAを主大) 2020年7月
 名古屋大学・セントラル大学国際連携総合医学専攻 1名 (NUを主大) 2021年7月

国際共著論文
30件以上 (9名)

名古屋大学ジョイント・ディグリープログラム 課題と計画

【課題】

- 学生の確保(定員充足)
- 学生への説明の充実(必要な英語力、経済的サポート)
- 広報等を充実し、入試における周知不足を解消
- 学生の英語力を上げる

【計画】

- 2019年10月、イギリス・ウォリック大学と本学人文学研究科との間でジョイント・スーパービジョンによる共同教育研究コースを設置。一定期間コチュテルプログラムとして実施した後、ジョイント・ディグリープログラムに移行する方向で調整中。
- 2022年4月、タイ・チュラロンコン大学と工学研究科との間で共同教育研究コースを設置。(申請予定)

20

名古屋大学ジョイント・ディグリープログラム 規制緩和と要望

設置許可申請の簡略化

- 相手大学ごとに設置認可審査を経た上で、国際連携学科・専攻の設置を義務づける現行の方式を改め、各学部・研究科において初めて国際連携専攻を設ける場合にのみ設置認可審査を受けることとし、学位の種類・分野に変更がない場合には、以降は既設の当該国際連携学科・専攻内にコースを設定することによりJD連携校を増やすことができる制度としてほしい。

学位記の制約の緩和

- JDの学位記について、事実上の国際共通語である英文を正文とし、大学の責任において作成した和訳を添付することによる設置認可手続きを認めてほしい。また、記載事項が設置申請内容と整合していれば、大学ごとに別の様式とすることを認めてほしい。

21

名古屋大学ジョイント・ディグリープログラム 規制緩和と要望

学部及び学科に係る入学定員の弾力化

- 名古屋大学では、英語により学部・大学院を卒業・修了できるG30プログラムを実施しており、最近では、学部希望者は合格者の8倍に上るとともに、卒業生についても欧米の一流大学の大学院へ進学するなど、質の高い学生を育成している。この10月入学のG30プログラムの合格者数は通常入試の日本人合格者数と合わせて定員枠に含まれているが、留学生は、入学辞退者数の予測が困難で定員管理がきわめて難しいことから、入学定員を厳守するためには受入を低く抑えざるを得ない。ついては、入学定員超過率の緩和、又は留学生数の定員の外出しを検討いただきたい。

Connecting Swedish and Japanese universities through research, education and innovation

沿革
 2015年「日本・スウェーデン学長サミット」をきっかけに形成された日本・スウェーデン全15大学の国際学術コンソーシアム
 ・ 2017年から2019年「MIRAI Project」
 ・ スウェーデン研究・高等教育国際協力財団(STINT)のパイロットプロジェクトとして採択(3年助「国際化のための戦略的助成金」にルンド大学が申請(スウェーデン側に約460万クローナ(約5,400万円)の支援)

目的
 日本・スウェーデン間の学術交流・連携の発展を目指す

理念
 AC21の理念は、教育と研究の発展のために会議が相互に協力することにも、世界の異なる地域社会の架け橋となり、21世紀に向けてあらゆる人々が国や地域の境を越えて共有しつづける豊かな生活を築くことができるように、相互に理解しあふる知識や文化の価値を共有する英知を磨き続けることである。

活動概要とメンバー大学一覧

MIRAIセミナーの実施(毎年、秋、スウェーデンと日本で交互に開催)

- Subject Scientific Sessionの実施
- 5分野: Ageing, Materials Science, Sustainability, Innovation & Entrepreneurship, AI

ワークショップの開催

- 5分野: Ageing, Materials Science, Sustainability, Innovation & Entrepreneurship, AI

PhDショートコース

- 研究者・PhD学生の交流

メンバー大学: 名古屋大学, 東京大学, 早稲田大学, 東北大学, 広島大学, 北海道大学, 九州大学, 上智大学, l.u., 京都大学, 大阪大学, 岡山大学, 広島大学, 九州大学, 上智大学, ヨーテボリ大学, ルンド大学, ウツラフ大学, リンショープン大学, カルスタット大学, ウメオ大学, ルメア大学, オスロロ大学, オックスフォード大学, ヨンショーピン大学

Japan-UK Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives (RENKEI)

沿革と目的
 2012年 教育と研究における大学間あるいは大学と産業界の連携を目的とし、本学を含む日英それぞれ6大学、計12大学によって学術コンソーシアムRENKEIが設立された。British Councilが主導でメンバー大学のワーキンググループをつくり、各々の行事を企画実施。

2013~2017年 RENKEI 第一フェーズ：学生交流がメイン

2018~2022年 RENKEI 第二フェーズ：若手研究者交流がメイン（共同研究seedsにシフト）

Theme
 1. Climate Change 「気候変動」
 2. Health 「健康」

研究者交流を通じて：
 ① 共同研究のきっかけを提供
 ② 国際的にプレゼンスを高める

RENKEI 活動内容 気候変動と健康

Sub-theme:

- Low carbon societies and green infrastructure
- Future risks and adaptation in floods and water shortage
- Future risks and adaptation in food production and security
- Managing future risks and building resilience in urban areas
- Future risks and adaptation in ecosystems
- Future risks and adaptation in human health

2019年		
12/4-5	Annual RENKEI Steering Committee Meeting 2019*	Newcastle University
12/2-4	Researcher Workshop and Networking event	
2018年		
11/26	Annual RENKEI Steering Committee Meeting 2018	九州大学
11/28	Japan-UK Forum "RENKEI"	駐日英領大使館 大使公邸
11/29-30	Researcher Workshop and Networking event ; "Building Japan-UK Research Collaboration on Climate Change"	東京ベルサール九段

2019		
4月-5月	Health Workshop	Japan
9月-5月	Health Kick-off, Distant meeting Organizing Committee Meeting	---
2018		
11/26	Annual RENKEI Steering Committee Meeting 2018	九州大学
11/28	Japan-UK Forum "RENKEI" Researcher Workshop and Networking event ; "Building Japan-UK Research Collaboration on Climate Change"	駐日英領大使館 大使公邸 東京ベルサール九段

Sub-theme:

- Dementia (認知症)
- Patient safety (患者学)
- Antimicrobial resistance (抗菌耐性)
- Social care (介護学)
- Non-communicable diseases (非感染性疾患)
- Nutrition (栄養学)

APRU The Voice of Knowledge & Innovation

沿革と目的
 環太平洋大学協会 (Association of Pacific Rim Universities, 略称APRU) は環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。

各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な課題(例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等)に対し取り組むことを目的とする。

現在は、環太平洋地域から約50大学が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。

APRU The Voice of Knowledge & Innovation

沿革
 本学は2017年に加入し、2018年、初めて年次学長会議に出席した。2018年のAPRU年次学長会議は、「Our Digital Future in a Divided World」をテーマとして、国立台湾大学主催で開催された。

国際大学ネットワークの拡大
 環太平洋地域を網羅する広大な大学間ネットワークを構築している。前年、学長会議を開催し、そのネットワークの維持を促進している。この国際大学連合は、学術の分野にとどまらず、その広いネットワークと影響力を利用して国境を越えた問題に取り組むなどさらなる発展を続けている。

多様な社会問題へ挑戦

- Annual APRU Research Conference on Population Aging (高齢化社会)
- APRU Multi-Hazards Summer School and Symposium (災害)
- Sustainable Cities and Landscapes Conference Design Field School (持続可能な社会)
- APRU Global Health Conference (健康)

オーストラリア (4)	オーストラリア国立大学、シドニー大学、メルボルン大学、ニューカースト大学
カナダ (1)	ブリティッシュコロンビア大学
チリ (1)	チリ大学
中国 (10)	復旦大学、南京大學、北京大學、香港中文大學、香港科技大學、華東師範大學、清華大學、中國科學院大學、中國科學院技術大學、浙江大學
台湾 (2)	國立台灣大學、國立清華大學
インドネシア (1)	インドネシア大学
日本 (5)	慶応義塾大学、名古屋市大学、大阪大学、東北大学、早稲田大学
韓国 (5)	KASIST、高麗大学校、漢陽工科大学校、ソウル大学校、延世大学校
マレーシア (1)	マラヤ大学
メキシコ (1)	モンテレイ工科大学
ニュージーランド (1)	オークランド大学
フィリピン (1)	フィリピン大学
ロシア (1)	薩賓連科大学
シンガポール (2)	南洋理工大学、シンガポール国立大学
タイ (1)	チャロロンコン大学
アメリカ (11)	カリフォルニア州立大学、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校

Founding members of GAME

The University of Nottingham
 University of Alberta
 Erasmus MC
 MU
 Monash University



GLA(RU)とCAP(ANU)間DDの現状と課題 The present and challenge of GLA-CAP's DD

2021年3月18日
立命館大学グローバル教養学部(GLA)
学部長 前川一郎

Beyond Borders

R 立命館大学におけるDD/JD

- 1992年：修士DD、1994年学士DDを開始、以後、毎年派遣・受入を実施
- 2018年：学士JD(AU)を国際関係学部設置
- 2019年：学部全体をDDとするグローバル教養学部を設置

	学士	修士
DD	<ul style="list-style-type: none"> American University Suffolk University Australian National University (グローバル教養学部) 	<ul style="list-style-type: none"> American University University of East Anglia Kyung Hee University National Chengchi University The International Institute of Social Studies of Erasmus University Rotterdam(ISS) Royal Holloway, University of London The University of York
JD	<ul style="list-style-type: none"> American University (国際関係学部国際連携学科) 	

Beyond Borders

R DDを目的としたGLAの設置

- 学部基本情報
 - 開設年度：2019年度
 - 入学時期：4月/9月
 - キャンパス：大阪いばらきキャンパス
 - 入学定員：100名(オーストラリア国立大学(ANU)で履修を開始する10名を含む)
 - 学費：RU入学者は4年間RUへ納入。230万円/年。



Beyond Borders

3

R 学部生全員がDD取得を目指すための取り組み

デュアル・ディグリー履修要件

- 1年終了時にハードルを設け、全員がクリアするための支援
 - Academic Hurdle：ANUが求める学力基準、成績など
 - English Hurdle：TOEFL iBT® 80点以上 / IELTS 6.5以上

Academic Advising Center

- 全員を対象にアカデミック・アドバイザーを実施
- 特にGPAが低い学生には回数を増やして実施

オンキャンパスの混住型国際寮

- キャンパス内に200室の国際寮を開設、全員が入寮

ANUスタッフのキャンパス常駐

- ANUから派遣されたConvenerとスタッフがキャンパスに常駐、常時連携

年3回の公式会議実施

- APC：両大学の教育担当副学部長を責任者とし、各学生の履修状況を確認
- JMC：両大学の学部長を責任者とし、プログラム全体の課題と方向性を確認

Beyond Borders

R 多様な学生が集うGLA

19ヶ国・地域から学生が集う (2019年-2021年の入学者の国籍に基づく)



Beyond Borders

R AY2020-21の諸課題

- ハードルを越えられずSDに切り替える学生の対応
 - 今後の入学予定者については早めの英語検定対策を実施(入学前)
- COVID-19による学生派遣の延期
 - 国際学生のなかには、まだキャンパスに来ていない学生もいる
 - ANU⇒RU：2020年4月に1期生受入予定、見直し立たず
 - RU⇒ANU：2021年2月に1期生派遣予定、見直し立たず
- オンライン授業における質保証
- 学生の日本就職支援
 - 留学時期 3年次秋～4年次春をどこで過ごすか
 - 日本語の問題
- 学生のリクルート
 - 学部単位DD 国内入試と国際入試 マスマーケットとニッチマーケット戦略
 - 日本語の問題
- 教育面以外の交流
 - 研究分野での交流も含めて、連携を強化 パートナーシップのありかた
- グローバル戦略の未来
 - 日本の大学の国際的価値をどう高めるか

Beyond Borders

HIPS: A Humanities program in the time of COVID-19

Toru Aoyama, TUFS

2ND JAPAN-EU INTER-UNIVERSITY EXCHANGE PROJECT LIAISON MEETING ON STRATEGIC COOPERATION AND SUPPORT FOR HIGHER EDUCATION
 PART 2: LESSONS AND CHALLENGES— 2ND JAPAN-EU INTER-UNIVERSITY EXCHANGE PROJECT LIAISON MEETING ON STRATEGIC COOPERATION AND SUPPORT FOR HIGHER EDUCATION
 18 MARCH 2021

Mobility Tracks of HIPS Program



Four Main Themes

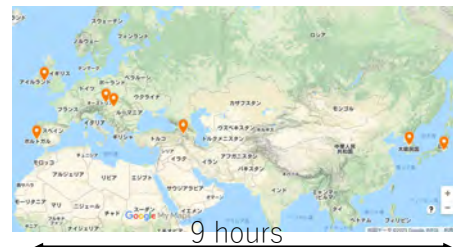
- 1 History and the institutionalization of memory
- 2 Visual representations and medialization of history
- 3 Histories of inclusion and exclusion
- 4 Entanglement between national, regional, and global frameworks of history

Prospectus Workshop

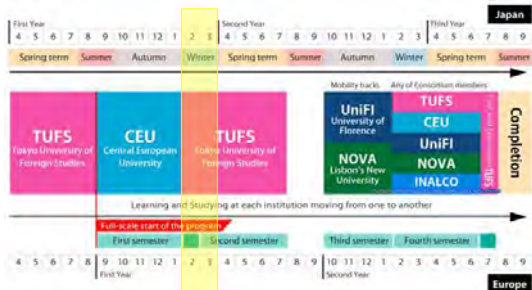
- 27 February 2021
- Students to decide their research titles and themes, possible mobility tracks, and supervisors
- However, cross-border travel was not permitted
- 11 students in 7 places
- Online

Format	Proposed title	Theme 1	Theme 2	Proposed institution for Term 3	Proposed institution for Term 4
3 Capstone project	Migratory Lives: Movement histories of Southeast Asian care workers in Japan	4	3	NOVA	TUFS
2 MA Thesis	Wool trade in northwest China from 1911-1949	2	4	NOVA	CEU
3 MA Thesis	Sayat-Nova: an 18th-century Caucasian Troubadour: Shifting Historical Interpretations in the South Caucasus	1	2	UniFI	CEU
4 Capstone Project	(Youth Forum) : Voices of "others" in historical dispute between South Korean and Japan	4	2	NOVA	TUFS
5 MA Thesis	The independence of Mozambique (1975) from the perspective of the Portuguese media	3	2	UniFI	NOVA
6 MA Thesis	"Visualization of Tanah Air in the Home": Art Collections of the 1965 Indonesian Exile Community in Central-Eastern Europe (working title)	2	1	UniFI/NOVA	CEU
7 MA Thesis	"Remember, Reflect, Reimagine": Commemorating the 1916 Easter Rising in Ireland and the Diaspora	4	1	NOVA	TUFS
8 MA Thesis	Monumentalizing Memories, Memorializing Monuments: Rizal Monument and American Colonial Philippines, 1898-1946	1	4	UniFI	INALCO/TUFS
9 MA Thesis	The Transition of the Appearance of Japan/Japanese in Japanese English Textbooks	4	3	UniFI	TUFS
10 Capstone project	Where no birds fly: A historical novella on the guerrilla insurgency in 1950s Malaya	2	1	NOVA	NOVA
11 MA Thesis	There and Back Again: The Hybrid Neo-Medievalism of Japanese and North American Video Games in the 1980's in the Context of their Public Medievalism	2	4		

Time Difference



Mobility Tracks of HIPS Program



HIPS Winter Semester at TUFs

Started in February

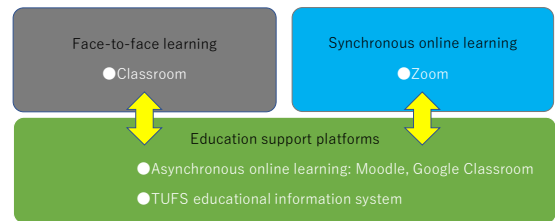
- Mandatory Courses
 - [online] Core Course: Comparative Approach to Memory politics in Europe and East Asia
 - [online] Practical Experience and Skills: Preparation for the Study Tour to Nagasaki (hopefully in Summer)
 - [online] Academic English
- Elective Course
 - [online] Social Situation and Changes of Hong Kong after the Handover

Language Courses at TUFs

Optional Courses

- [online] Intensive Japanese for Beginners (=CEFR A1 level)
- [online] Intensive Japanese for Beginners (=CEFR A2 level)

Education Infrastructure at TUFs

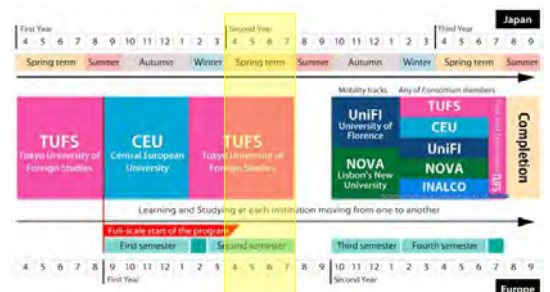


Plan for the possible re-opening of cross-border travel

1. Applying for visa (1 week)[online]
2. Booking flight & preparation for travel (1-2 week) [online]
3. Flight to Japan, arriving on Sat. or Sun.
4. Staying at a hotel for 14-days during quarantine [online]
5. Arrival at TUFs on Mon. [face-to-face/online]

- About four weeks for transition
- Minimal disruption to the courses

Mobility Tracks of HIPS program



Spring Semester at TUFS

Starts on 12 April

- **Mandatory Courses**
 - Core course: Seminar History on Public Sphere
 - Academic English
- **Mandatory Elective Courses**
 - 7 courses
- **Elective Courses**
 - more than 30 courses
- **Optional Courses**
 - Japanese for Beginners (=CEFR A1 level)
 - Japanese for Intermediate Learners (=CEFR A2-B1 levels)

Course Title	Instructor	Theme
Understanding Cross-Cultural Issues of Collective Memory: The "History Issue" in East Asia	SEATON, Philip	Historical Discourses
The History Issue and Historical Consciousness	SEATON, Philip	Historical Discourses
A Critical Overview of the Japanese Cinema 1	HAUKAMP, Iris	Visual Representations
Japanese Film and Social Issues: A Survey	HAUKAMP, Iris	Visual Representations
Jewish Studies European and American Studies	ROCHA DE SOUSA, Lucio Manuel	Inclusion and Exclusion
The Iberian World and the Japanese Diaspora	ROCHA DE SOUSA, Lucio Manuel	Entanglements
Southeast Asia: History and Culture 1	AOYAMA, Toru	Entanglements

Examples of Elective Courses (2020)

- Migration Linguistics
- Chaitanya and His Impact on Bengali Literature and other Arts
- Contemporary African politics
- Research seminar on International Economics
- Topics in Religion and Popular Culture in Japan
- Management and Culture in Japan
- Reading Japanese Literature in English translation
- Topic in Film Analysis
- Japanese Youth and Popular Culture
- Reading Space in Contemporary Japanese Literature: Reality and Beyond
- Body and Japanese Literature since 1945
- The Birth of Modern Japanese Poetry: From Meiji to Showa
- Topics in Japanese Food Culture
- Japan's Capital: Tokyo and Kyoto
- Multiculturalism in Japan
- Naturalism and the Emergence of Human Rights Discourse in Japan
- Women in Japanese Religious History
- Research Methods in Sociolinguistics 1
- Gen-Culture Intersection
- Central European Emigration and Semiotic Literature
- Slovene Culture in Central European Context
- 19th-century American Literature
- American Literature I: African-American Literature and Culture
- Thai Literature and Movie
- Culture of Turkey, Palimpsest Survey
- Modern and Contemporary Japanese Literature A
- Japanese performative culture
- Basque history, culture, and society (A)
- Catalan history, culture and society
- Slovene History in Central European Context
- The Allied Occupation of Japan
- China's Economic Reform and Globalization
- Gender and Globalization
- Theory and practice on international cooperation A

Time Table for Spring Semester at TUFS

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
10:10-11:40	Understanding Cross-cultural Issues of Collective Memory (ME:Seaton)			Jewish Studies European and American Studies 15 (ME:Sousa)	Southeast Asia (ME:Aoyama) The History Issue and Historical Consciousness (ME:Seaton)
12:40-14:10	A Critical Overview of the Japanese Cinema (ME:Haukamp)			The Iberian World and the Japanese Diaspora (ME:Sousa)	
14:20-14:50	Japanese Film and Social Issues (ME:Haukamp)				
16:00-17:30	Core Course (M:Shinohara)		English (M:Chen)		Japanese for A1 (Optional)

Challenges

- Ensuring the virtual "mobility"
 - Learning experience in a cultural and social context
- Time difference in online courses
 - Zoom and on-demand classes
- Uncertainty regarding the cross-boarder travel
 - Flexible plan for the possible re-opening of the cross-boarder travel
 - Minimal disruption to the courses during the change of places

Thank you for your attention

ver 2021-03-16

EU-Japan Inter-University Exchange Project
Symposium March 18, 2021

IMLEX

Lessons learned and issues in implementing IMLEX

Master of Science in Imaging and Light in Extended Reality (IMLEX)

Shigeki Nakauchi
Professor, IMLEX Academic Coordinator
Toyoashi University of Technology
<http://imlex.org>
<https://imlex.tut.ac.jp/>

IMLEX at a glance

IMLEX program aims to train experts who in addition to a solid **theoretical understanding of virtual reality** will also possess strong practical skills in **virtual reality applications**. Students on the IMLEX programme will benefit from European research expertise combined with Japanese expertise in research addressing **robotics, cognitive science, lighting and imaging**.

- Eye-tracking for monitoring training effects and for novel VR interface @University of Eastern Finland
- Image rendering for material appearance reproduction @University of Jean Monnet
- Human-centric Lighting for well-being enhancement @KU Leuven
- Cognitive Science for understanding the reality for human @Toyoashi Tech

IMLEX as a Team

 University of Eastern Finland	 KU Leuven	 Université Jean Monnet Saint-Etienne	 Toyoashi University of Technology
 Markku Hauta-Kasari	 Peter Hanselae	 Philippe Colantoni	 Shigeki Nakauchi
 Laura Hurmalainen	 Hilde Lauwereys	 Amélie Genvrin	 Kiyohiko Kuroda

Program Structure

Semester 0 (April-August)	Semester 1 (September-December)	Semester 2 (January-June)	Semester 3 (October-March)	Semester 4 (April-September)
TUT @Japan Preparatory course English Debate Class (for Japanese students)	8 Japanese students 5 core courses 2 courses both for lighting/imaging tracks 1 language course (30 ECTS)	5 core courses 2 courses both for lighting/imaging tracks 1 language course (30 ECTS)	5 core courses 2 courses both for lighting/imaging tracks 1 language course (30 ECTS)	Master Thesis (30 ECTS) under the supervision of the IMLEX consortium (incl. academic associate partners, industrial partners)
UEF @Finland	8 Japanese students	Lighting track 5 courses 1 language course (30 ECTS)		
KUL @Belgium	8 Japanese students	Imaging track 5 courses 1 language course (30 ECTS)		
UJM @France				

IMLEX Consortium

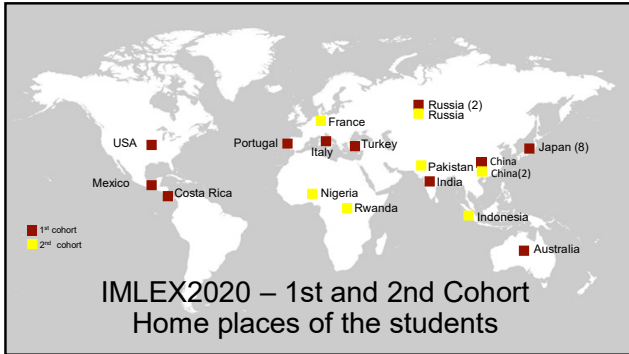
Full Partner Universities

Academic Associate Partners

Industrial Partners

Student Recruitment 2020-2021

2019	2020	2021
November	December	January 22
Application Open (EU side)	Application Open (EU side)	Application Open (EU side)
116 applicants	108 applicants	108 applicants
Application Open (Japan side)	Application Open (Japan side)	Application Open (Japan side)
8 applicants	8 applicants	2 applicants
Student Selection Meeting @KU Leuven, Belgium	Student Selection Meeting @KU Leuven, Belgium	Student Selection Meeting (On-line meeting)
19 students selected (EU:8 + 3, Japan:8)	19 students selected (EU:8 + 3, Japan:8)	10 + 4 students selected (EU:8; Japan:2) + 25 students on reserve list



Progress in 2020

- Recruited students
 - 8 Japanese and 9 international students
- Impact of the COVID-19 prevalence
 - Spreading of COVID-19 infection in the world 2020 have made it difficult for students to move across countries
 - Even in this situation, EU partners have accepted the IMLEX students from abroad for study purposes
 - Nevertheless, Japanese IMLEX students are still not allowed to leave the country due to the safety information level of 3, corresponding to "travel cancellation recommendation"

Study at EU Partners

- September in 2020, EU-recruited students have started studies at UEF in Finland (as almost scheduled)
- February in 2021, students moved to UJM in France or KU Leuven in Belgium depending on their study track
- In principle, classes are provided remotely (online), and some lab sessions are in face-to-face or hybrid mode (on-site classroom teaching + remote teaching)
- UEF and the industrial partner are developing the remote lab session system, "SmartLab (Sm4rtlab)"

SmartLab

Control the physical experiment facilities remotely

Hybrid Class mode

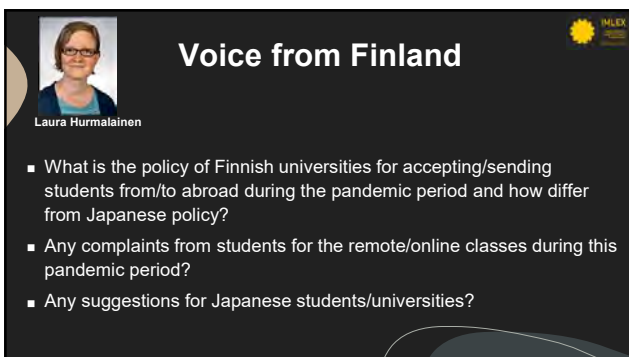
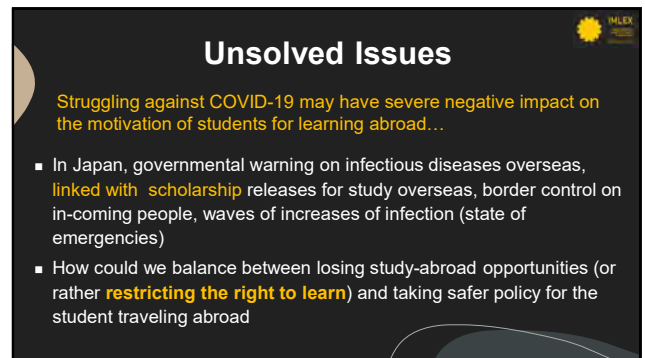
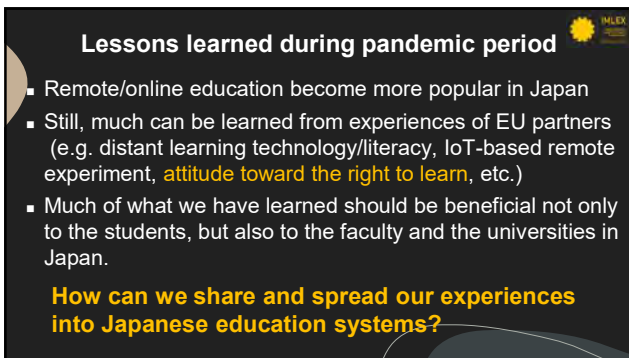
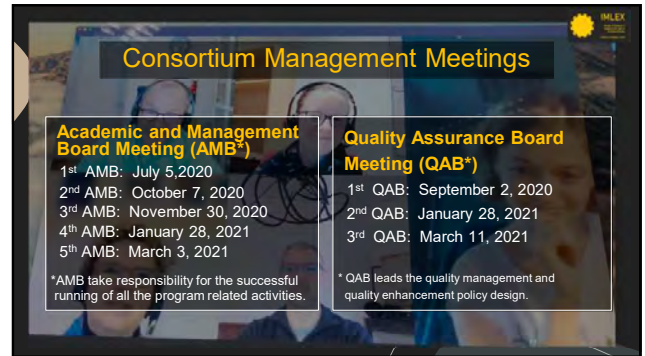
Teaching by a teacher in a classroom

Taking the class remotely using a PC by a student

Study in Japan (TUT)

- April-September in 2020
 - intensive English classes (preparatory classes at TUT)
- September –
 - students are taking all classes / exams remotely
 - rather hard than usual due to time difference (6-7 hours)

Remote on-line courses provide by EU partners Group on-line class



Shigeki Nakauchi
 Vice President (International Affairs and Strategy)
 Professor at the Department of Computer Science and Engineering
 Toyohashi University of Technology
 e-mail: nakauchi@tut.jp http://www.vpac.cs.tut.ac.jp/

Research Interests : Vision Science, Cognitive Science, Vision Technology

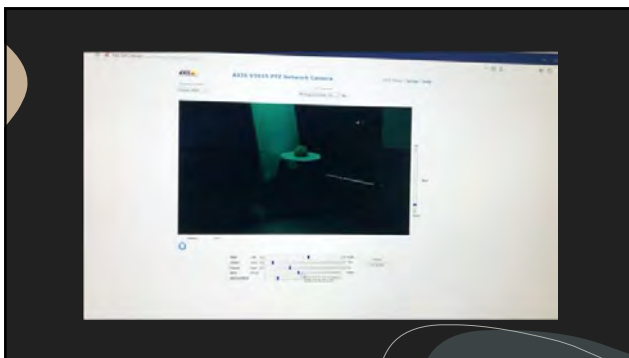
Kimzuka, Y., Mizumoto, T. & Nakauchi, S. Pupill dilation reflects English L2/L1 discrimination ability for Japanese learners of English: a pilot study. Sci Rep 10, 8052 (2020). https://doi.org/10.1038/s41598-020-65290-3

My Personal Connection to Finland has lasted for more than 20 years
 1998-1999 Visiting Scientist at Lappeenranta Univ Tech in Finland

- At UEF, teaching with **"SmartLab (Sm4rtlab)"**, a kind of virtual lab setting, is build. NOT because the COVID-19 impact leads to introducing it, but that idea is incorporated in IMLEX by **UEF** from the beginning.

Sm4rtLab is totally new, revolutionary augmented reality environment combining science and teaching.

In the environment there is a photonics laboratory in which a scientist can remotely control the photonics research with the help of remote controlled lasers, lenses, microscopes and other components, from his/her own desk.



Consortium meetings & exchange activities

<p>Academic and Management Board (AMB)</p> <p>AMB shall take responsibility for the successful running of all Program related activities.</p> <p>1st AMB : July 5, 2020 2nd AMB: October 7, 2020 3rd AMB: November 30, 2020 4th AMB: January 28, 2021 5th AMB: March 3, 2021</p>	<p>Quality Assurance Board(QAB)</p> <p>QAB leads the quality management and quality enhancement policy design.</p> <p>1st QAB : September 2, 2020 2nd QAB: January 28, 2021 3rd QAB: March 11, 2021</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

After COVID-19 outbreak, all project meetings were held by using on-line meeting (Japan-Finland-France-Belgium)

Scholar exchange (Erasmus Scholars) : Scholars of participating university provided on-line intensive lectures to students at the other partner

On-line off-class exchange of students

2nd cohort (2021) students

- 8+α international students and 2 Japanese** were selected in March 2021.
(8 applicants selected and 23 applicants on reserve list among 102 applicants from EU side.)
- Less number of Japanese students than expected.

Planned activities in 2021

- 1st cohort international students will start studying in Japan in Sep.
- 2nd cohort international students will start program in Finland in Sep.
- 1st cohort Japanese students will travel to EU(not yet confirmed).
- 2nd cohort Japanese students will start studying in Japan in April.

Lessons learned

- Remote/on-line higher education has become popular method of provision of education, particularly in Japan, accelerated by the COVID-19 pandemic.
- Cross-Border remote/on-line education provision can be effectively conducted for joint degree program. Augmented reality method such as SmartLab (Sm4rtlab) at UEF, is found as useful method.
- On the other hand, on-site education, hands-on practice/experiment as well as real face-to-face interaction with teachers and peer students, are still essential.
- Intercultural experience, experience in real study/living in outside home-country are valuable in education abroad

Off-site (remote/online/augmented reality) and "On-site" modes can go together in Teaching and Learning. Quality gap may be narrowed as "off-site" mode of education is getting close to on-site mode of education.

- Augmented reality is an example of new mode of education, offering effective off-site labo-work.
- "Off-site study study abroad" may not completely replace "On-site study abroad" as it provides students with larger impact of learning and experience.

Unsolved issues



Struggle against COVID-19 impact

- International students have come to EU partner universities and started studies.
(1st semester at UEF in September and 2nd semester at UJM or KU Leuven in February.)
- While TUT students still study online in Japan despite having resident permit. Students have high hope to go EU partners.

In Japan, governmental warning on infectious diseases overseas, linked with scholarship releases for study overseas, border control on in-coming people, waves of increases of infection (state of emergencies)

- How could we balance between that we let the students losing study-abroad opportunities and that we take safer policy of not allowing the student travel abroad to avoid COVID-19 infection ?
- We will foresee that COVID-19 impact may go on for year(s) . Vaccination may help.
- “New Normal” way of the project, in particular, Japanese student dispatches (short-term stay plus on-line learning etc) needs to be found.

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 1

News

<https://jemaro.ec-nantes.fr/> <https://jemaro.st.keio.ac.jp/>

JEMARO Program for Next Generation Robotics

JEMARO : Japan-Europe Master on Advanced RObotics

JEMARO

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 2

Meeting Participants from Ecole Centrale de Nantes

Prof. Vincent FRÉMONT – JEMARO
Programme Coordinator – Ecole
Centrale de
Nantes, France

Prof. Fouad BENNIS – Director for
International Relations – Ecole
Centrale de
Nantes, France

JEMARO

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 3

Meeting Participants from Keio University

Prof. Toshiyuki Murakami
JEMARO Coordinator

Prof. Norihisa Miki
Chair, Committee for International Affairs of
Faculty of Science and Technology

Ms. Yasuko Shibata

Ms. Mami Kuroki

JEMARO

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 4

EU Consortium

Ecole Centrale de Nantes, France
University of Genoa, Italy
Warsaw University of Technology, Poland

JEMARO

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 5

What is a JEMARO?

Robotics is a key technology for future development of industry field and social infrastructure in Europe and Japan. Moreover, it is expected that robotics technology is applicable to important fields such as smart cities, smart homes, automated driving, medical robots, entertainment, rescue, human support, and transhumanism and so on. There is no doubt that the development of human resources in advanced robotics fields will be required worldwide. Therefore, in the proposed JEMARO program, three European universities and one Japanese university provide their respective resources for excellent education program and develop a novel education program. This is not achieved individually in each university. The purpose of JEMARO is to develop next-generation of advanced robotics engineers and to produce people useful for not only industry but also future society by creating an educational research system and collaborating with partner companies in each country.

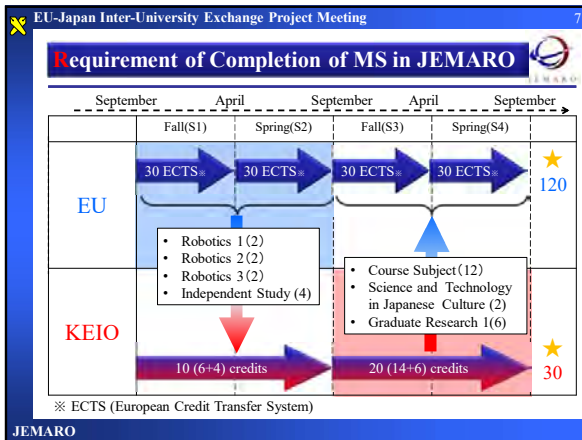
JEMARO

EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 6

Global Human Resource from JEMARO

- Global engineers who understand the background of different cultures and play an important role in international joint projects
- Engineering manager with advanced expertise to understand the field comprehensively

JEMARO

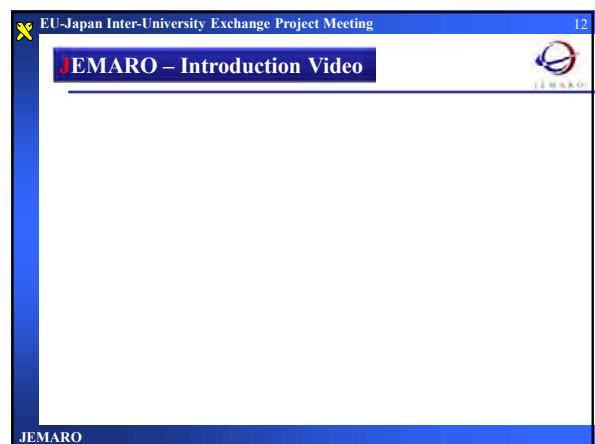
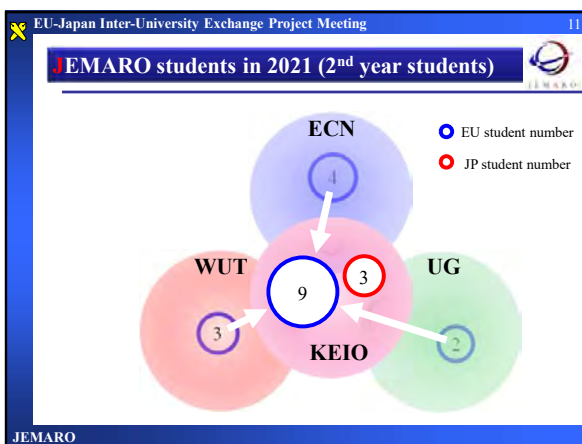
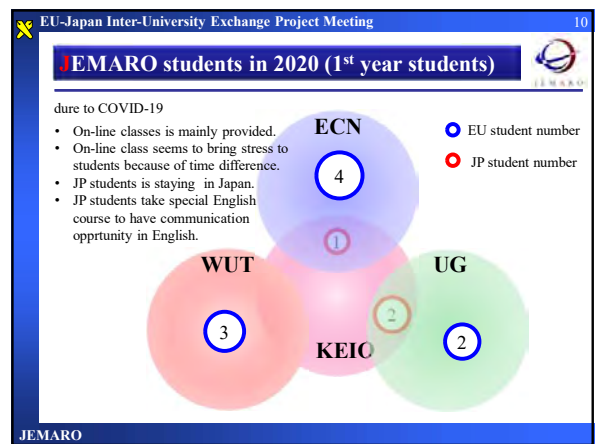
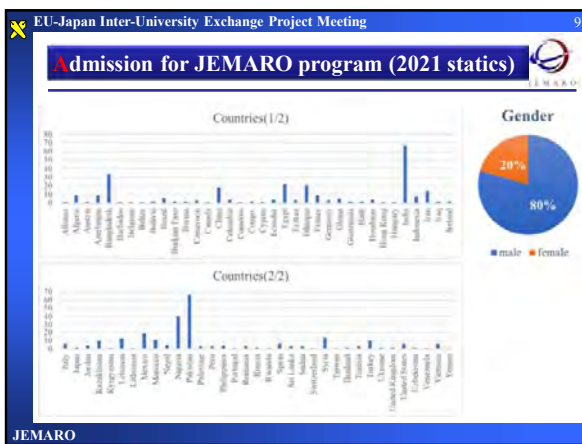


EU-Japan Inter-University Exchange Project Meeting 8

Admission for JEMARO program

Year	Applicants		Successful		Enrolled	
	EU+α	JP	EU+α	JP	EU+α	JP
2020	433		24		12	
	428	5	19	5	9	3
2021	527		In progress			
	525	2	In progress			

JEMARO



資料-2

シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの質の 保証について 発表スライド

2022年3月10日

慶應義塾大学理工学部・理工学研究科




European trends in Quality Assurance of joint programmes

Inter-University Exchange Project: Japan-EU Platform


David Crosier
European Education and Culture Executive Agency

10 March 2022

A brief history of quality assurance and joint programmes in Europe

Quality assurance systems and joint programmes are both relatively recent developments in European higher education (over the last 20 years)

Both have developed rapidly as a result of the Bologna Process



The Bologna Process: a reminder




- Launched in 1999: 29 countries sign the Bologna Declaration
- 2020: 50 countries
- Aim to create an open and inclusive European Higher Education Area (from 2010), based on shared values, a 3-cycle degree structure, quality assurance and recognition




Joint programmes in the European Higher Education Area

- Very few cross-border programmes existed in 1999/2000
- 2000 – 2010 saw pioneer European joint programmes: *culture of jointness*, open communication, shared academic values, curiosity in difference, common ownership and trust
- Different models for governance, curriculum development, mobility of staff and students, certification/degree award (double/multiple degrees)
- Catalyst in 2004 with the launch of Erasmus Mundus – a new European Commission programme supporting joint master (and later PhD) programmes, and providing funding to international students




Quality assurance in the European Higher Education Area

- Only a handful of countries had quality assurance systems at launch of Bologna Process
- Rapid change 2000 – 2010 (external QA agencies set up in 22 countries)
- Development of European Standards and Guidelines (ESG) (2005, and updated 2015) and European Quality Assurance Register (EQAR)
- Primary responsibility for quality assurance recognised as resting with higher education institutions



Why is quality assurance particularly challenging for joint programmes?

Joint Programmes are usually...	Quality Assurance systems are usually...
European/international	National (regional)
Inter cultural	Mono cultural
Experimental and Innovational	Based on norms / standards
Centred around concept of jointness	Centred around criteria unrelated to jointness



Quality Assurance for joint programmes: internal quality assurance challenges

- How is coherence ensured on (inter alia):
 - programme objectives; curriculum development; use of credits (ECTS); assessment methods; mobility concept and practice;
 - automatic recognition of learning between partners;
 - award of qualifications.
- Who takes decisions? When? On what basis?



External Quality assurance challenges..

- Countries have different external quality assurance requirements and different national criteria
- programme or institutional level quality assurance?
- Joint programmes have been confronted with requirements for partial/fragmented accreditation processes.
- Their specificities (cross border cooperation) are also not valued.

The solution was developed by accreditation agencies, universities and stakeholders working together...



European approach to quality assurance of joint programmes

- European Approach adopted by EHEA ministers in Yerevan, 2015
 - Key features: one QA agency undertakes a single, comprehensive evaluation
 - The QA agency must be registered on EQAR, and therefore follows ESG and makes use of other European tools (ECTS, Qualifications Frameworks)
 - Result of evaluation should be accepted everywhere
 - No additional national procedures
- > European quality assurance for European programmes



Status Quo in 2020



Progress has been slow:

European Approach permitted in 30 systems

But only 11 joint programmes have actually completed QA procedure using European Approach



Some questions

- Q. Is the European Approach for QA of joint programmes suitable for EU – Japan joint programmes?
- A. Yes. Although the approach was designed for resolving cross-border quality assurance challenges in Europe, it is also perfectly suited for such challenges beyond Europe.
- Q. Could the European Approach for QA of joint programmes be used in the case of EU – Japan joint programmes?
- A. If agreement is given by the public authorities in Japan and the participating European countries, then yes.



Some questions

- Q. Which agency could undertake the evaluation?
- A. Any agency listed in EQAR
- Q. Where to find more information?
- A. EQAR website
- <https://www.eqar.eu/kb/joint-programmes>



Thank you for your attention

Please contact me if you have
questions after today's event:
david.crosier@ec.europa.eu



Quality assurance at HIPS: From TUFs's point of view

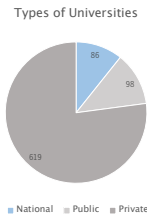
AOYAMA TORU
 VICE PRESIDENT FOR EDUCATION
 TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

HIPS: History in the Public Sphere



3 types of universities

- **National universities**
 - Financed by the national government
- **Public universities**
 - Financed by the local, municipal, or prefectural government
- **Private universities**
 - Financed by private individuals, organizations, or corporations



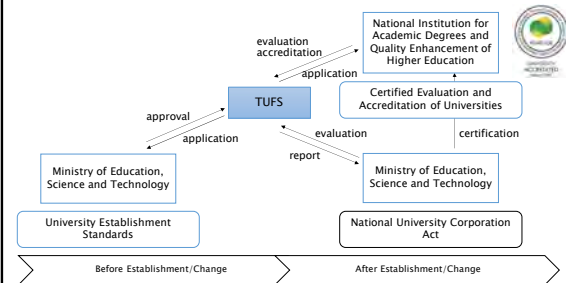
University quality assurance in Japan

- 1873
 - Tokyo School of Foreign Languages was founded
- 1947
 - School Education Act
- 1949
 - TUFs was established under the 1947 Act
- 1956
 - **University Establishment Standards**
- 1991
 - Deregulation of the University Establishment Standards
- 2003
 - **National University Corporation Act**
 - TUFs was incorporated under the 2003 Act

3 quality assurance schemes

- **University Establishment Standards (1956)**
 - Official requirements for establishing a university
 - Deregulation of the standards in 1991
- **Certified Evaluation and Accreditation of Universities (2004)**
 - Mandatory evaluation of all the universities by an independent certified accreditation body for every 7 years or less
 - Mostly educational and research aspects (curriculum, teachers etc.)
- **National University Corporation Act (2004)**
 - 6-year Mid-term Target and Mid-term Plan to be reported and evaluated
 - Mostly managerial aspect

How the schemes work



How the schemes affect the HIPS programs

- HIPS program as a DD program
 - The program was established within TUFSS's existing framework
 - Thus, in terms of quality assurance, no approval by the MEXT needed (before the establishment of the program)
- What if as a JD program
 - The program needs to be established as a MEXT-regulated program
 - Thus, approval by the MEXT needed (before the establishment of the program)
 - The process typically takes over a year
- After-the-establishment evaluation always apply

MEXT=Ministry of Education, Science and Technology

7

Thank you for your attention

Ver 20220510-03

8

Inter-University Exchange Project: Symposium for Strategic Cooperation and Support for Higher Education
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs"
March 10, 2022

Quality Assurance in IMLEX program

Jun Miura
Department of Computer Science and Engineering
Toyohashi University of Technology



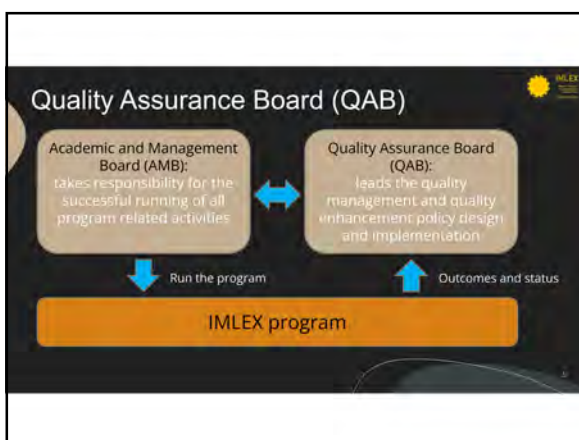
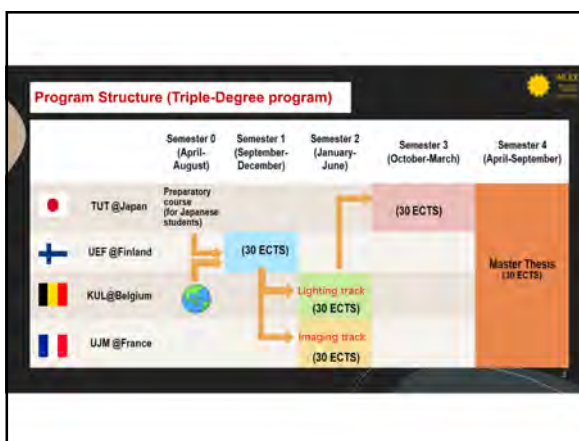

TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
https://www.tut.ac.jp/english/

IMLEX at a glance

IMLEX program aims to train experts who in addition to a solid **theoretical understanding of virtual reality** will also possess strong practical skills in **virtual reality applications**. Students on the IMLEX program will benefit from European research expertise combined with Japanese expertise in research addressing **robotics, cognitive science, lighting and imaging**.



- Eye-tracking for monitoring training effects and for novel VR interface (University of Eastern Finland)
- Image rendering for material appearance reproduction (University of Jueli Maastu)
- Human-centric Lighting for well-being enhancement (KU Leuven)
- Cognitive Science for understanding the reality for human (University of Jueli Maastu)



Current QAB members

- Julie Vermeersch (KU Leuven, chair)
- Alain Treméau (UJM)
- Erkki Pesonen (UEF)
- Jun Miura (TUT)
- Yoko Mizokami (Chiba University)
- Jan Van Riel (Trilux Benelux)
- Iacopo Catalano (Student representative)

Full partners: Julie Vermeersch, Alain Treméau, Erkki Pesonen, Jun Miura

Associated Academic partners: Yoko Mizokami

Associated Industrial partners: Jan Van Riel, Iacopo Catalano

QAB's missions (excerpt):

- To ensure the **implementation** of QA process to develop good practices and methodological innovation.
- To **disseminate** QA process, results of QA reviews, and yearly improvement based on the results.
- To ensure convergence of QA process with European Higher Education expectations.
- To enhance the quality of learning and teaching activities, learning outcomes, teaching coordination among semesters and partners.
- To ensure the **adequacy** of the educational program with academic expectations and industrial needs.
- To **involve all stakeholders** (students, alumni, teaching staff, etc.)

What we have done

- QAB meeting (online), 3 times / year
- Quality Assurance System and Procedures Handbook (QASPH)
- Define Key Performance Indicators (KPIs)
- Design questionnaires for monitoring and analysis
- Discuss issues and possible actions about QA related matters (esp. Covid-19 situation) with suggestions to AMB where necessary

QASPH (Quality Assurance System and Procedures Handbook)

- Reference guide for policies, principles and practices related to educational quality assurance in the IMLEX program
- Categories for QA
 - Program development, approval and validation
 - Student recruitment and admissions
 - Mobility and student guidance
 - Teaching and learning
 - Academic results and learning outcome evaluation
 - Socio-cultural and professional integration
 - Consortium collaboration



https://imlex.org/wp-content/uploads/2019/05/202110/IMLEX_QASPH_v19-upd18-19-01-2021.pdf

Key Performance Indicators (KPIs)

- KPIs are intended as criteria to check whether progress is being made, to monitor issues, and to make sure necessary aspects are being covered
- 17 criteria based on Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area (ESG)

Internal Quality Assurance		External Quality Assurance	
C1: A policy for quality assurance	C11: Addressing the effectiveness of the internal QA	C12: QA methodologies fit for the purpose	
C2: Processes for the design and approval of the program	C13: QA procedures reliable, useful, implemented consistently, published	C14: Peer-review experts including students and members	
C3: Students-centered teaching, learning and assessment	C15: QA criteria explicit and published, Applied consistently	C16: Reporting: published, clear and accessible report	
C4: Student admission, progression, recognition and certification	C17: Complaints and appeals: clearly defined and communicated to the institutions		
C5: Competences and qualifications of the teaching staff			
C6: Provision of learning resources and student support			
C7: Information management for effective management			
C8: Public information: clear, accurate, objective, accessible			
C9: On-going monitoring and periodic review			
C10: Undergoing external QA			

KPI examples

Criteria 1: A policy for quality Assurance

- KPI/C1/3: An Internal Quality Assurance process, implemented by the QAB as stated in the QASPH, reported to the AMB;

Criteria 2: Processes for the design and approval of the program

- KPI/C2/3: Checking by the QAB that Compulsory/Optional units defined in the program are available in each institution, as their syllabuses

Criteria 3: Students-centered teaching, learning and assessment

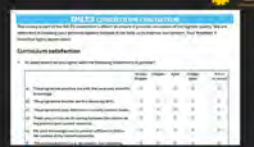
- KPI/C3/2: Monitoring by the QAB of the quality of learning and teaching activities, formal, non-formal/informal learning outcomes, course coherency and units sequencing, course learning outcomes, teaching coordination among semesters and partners.

Criteria 4: Students admission, progression, recognition and certification

QAB activities

KPI Criteria implementation

- Short-term and long-term criteria.
- Prioritize criteria, with considering the current pandemic situation and postponing where necessary.
- Questionnaires example:



Discuss QA related matters

- Analysis of questionnaire results
- Student activities under the pandemic situation



Summary


- IMLEX program
- AMB and QAB
- Defining KPI and implementing KPI criteria
- QAB activities


With the support of the Erasmus+ Programme of the European Union 


Japan-Europe Master on Advanced Robotics
Erasmus Mundus Joint Master Degrees
Agreement number 2019-1909/001-001




Quality assurance and jointness character of the Master program


 **Coordinators**

 Prof. Vincent FRÉMONT – Chief coordinator
Ecole Centrale de Nantes, France

 Prof. Toshiyuki MURAKAMI – Former Coordinator
Now Dean of Faculty of Science and Technology
Keio University, Japan

 Prof. Norihisa MIKI – Coordinator
Keio University, Japan

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 2




JEMARO programme from UE coordination side

 Japan-Europe Master on Advanced Robotics (JEMARO)

- The Japan-Europe Master on Advanced Robotics (JEMARO) is a 2-year integrated programme (120 ECTS or 30 Japanese Credits) offering courses in the area of advanced and intelligent robotics.
- By mastering Mathematical Modeling, Control Engineering, Computer Engineering, Mechanical Design, students are able to deal with robotic systems as a whole.



March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 4

 **JEMARO Consortium**

4 major Higher Education Institutions in Japan and Europe awarding master's degrees:


- Keio University (KEIO – Japanese Coordinator), Japan.
- Ecole Centrale de Nantes (ECN - European Coordinator), France.
- Warsaw University of Technology (WUT), Poland.
- University of Genoa (UNIGE), Italy.

2 HEIs as Associated Partners:


- Universitat Jaume I (UJI), Spain.
- Shanghai Jiao Tong University (SJTU), China.

8 industrial partners:



- YASKAWA, Soft Servo Systems, NTT Data, Motion Lib, Inc., BA Systems, PIAP-Space, PIAP, IRT Jules Verne.

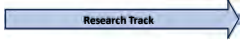


March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 5

 **MOBILITY SCHEME***

2 years, 2 diplomas, 1 programme

Year 1	Year 2	 One master's degree from a EU institution  One master's degree from Keio University, Japan
ECN	Keio	
UniGe		
WUT		



*The above mobility scheme may also be available in the reverse way (M1 in Japan and M2 in Europe) in the upcoming years.

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 6

ACADEMIC PROGRAMME

Available courses in M1 include: Modelling and control of manipulators, Advanced and Robot Programming, AI for Robotics, Computer Vision, Optimization, Embedded Systems, local languages.

Available courses in M2 include: Space exploration Engineering, Advanced System Electronics, Intelligent Machine Systems, Mixed Reality, Japanese language and culture...






In parallel, students will conduct a **2 year-long Research Track** established with one Japanese and one EU supervisor.


March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 7

A Success Story in Advanced Robotics

Historical links between JEMARO partners for Erasmus Mundus programme

- **EMARO: created in 2007, coordinated by ECN**
 - A unique program in robotics, and also in its form
 - Prof. Wisama Khalil, EMARO'Father
 - EMARO was selected by UE in 2008 for 5 years
 - ECN, WUT, UNIGE as full partners + SJTU, KEIO, AIT as associate partners
- **+ 2 years (not EU funded)**
- **EMARO+: selected in 2014 (UE funded)**
- **JEMARO: selected in 2019 (UE funded)**

-> significant experience in joint programme



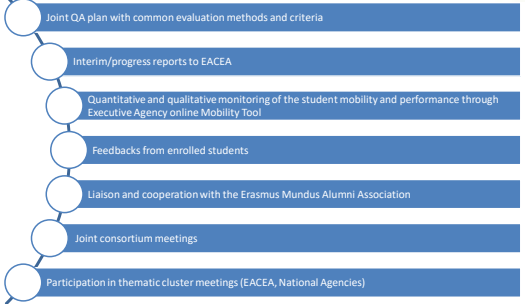
March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 8

JOINTNESS

- ✓ **Jointness means integration** -> Joint programmes are integrated transnational programmes, they should contribute to the integration and internationalisation of the European Higher Education Area (EHEA)
- ✓ EMJMs are expected to fulfil the following requirements:
 - Include a **jointly designed and fully integrated curriculum** adhering to the Standards for Quality Assurance of Joint Programmes in the European Higher Education Area (EHEA).
 - > These standards cover all the key aspects of joint programmes, in terms of joint design, implementation, delivery and quality assurance.
- ✓ EMJMs must ensure development and implementation of internal and external quality assurance systems/guidelines and mechanisms

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 9

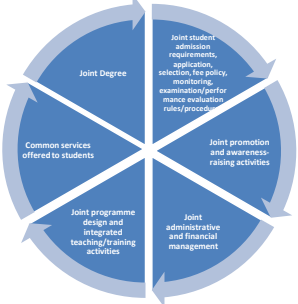
MONITORING QA MECHANISMS



- Joint QA plan with common evaluation methods and criteria
- Interim/progress reports to EACEA
- Quantitative and qualitative monitoring of the student mobility and performance through Executive Agency online Mobility Tool
- Feedbacks from enrolled students
- Liaison and cooperation with the Erasmus Mundus Alumni Association
- Joint consortium meetings
- Participation in thematic cluster meetings (EACEA, National Agencies)

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 10

QA PROCEDURE



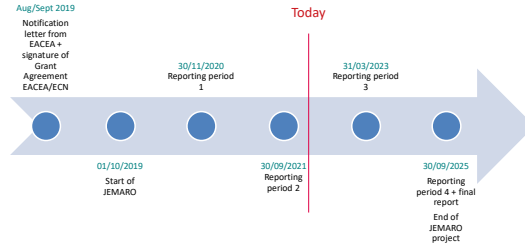
The QA procedure is a circular process with four main components:

- Joint student admission requirements, application, selection, fee policy, monitoring, examination/perfor mance evaluation rules/procedure**
- Joint administrative and financial management**
- Joint programme design and integrated teaching/training activities**
- Common services offered to students**

Additional components include **Joint promotion and awareness-raising activities** and **Joint Degree**.

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 11

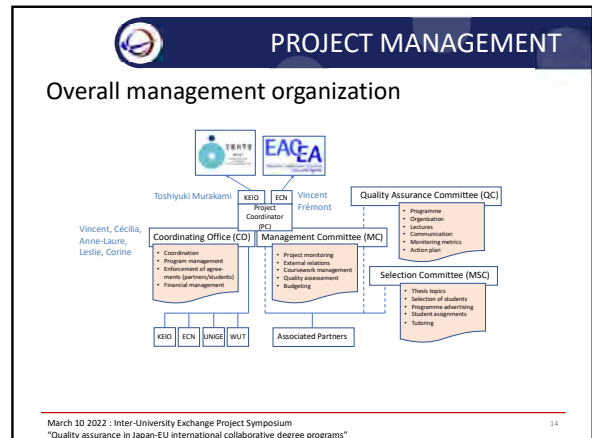
ECN-EACEA



Timeline of key events:

- Aug/Sept 2019: Notification letter from EACEA + signature of Grant Agreement, ECN/EACEA
- 01/10/2019: Start of JEMARO
- 30/11/2020: Reporting period 1
- 30/09/2021: Reporting period 2
- 31/03/2023: Reporting period 3 (Today)
- 30/09/2025: Reporting period 4 + final report, End of JEMARO project

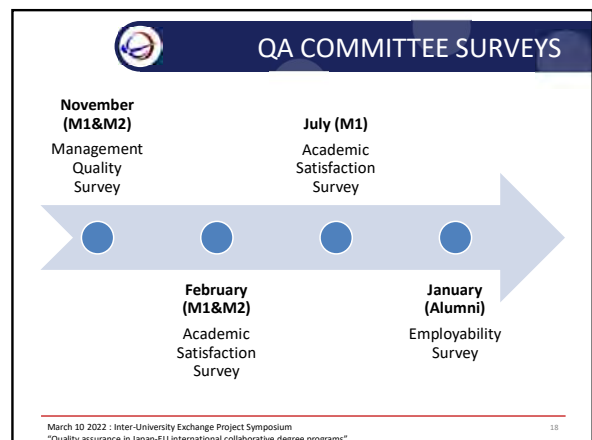
March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 12



- QUALITY ASSURANCE IN JEMARO**
- Local coordinations offices at each partner/institution:** local quality assurance and monitoring
 - Management Committee (MC):**
 - 8 members: JEMARO Coords. + Local Coords + 1 External Industrial + 1 External academics + 1 student. MC meets twice a year.
 - Define priorities, actions to be taken to improve the programme

- QUALITY ASSURANCE IN JEMARO**
- Quality Assurance Committee:**
- 8 members: one representative from each partner/associated institution + two external members (one industrial and one professional expert in quality)
 - meet once a year (July)

- QA COMMITTEE TASKS**
- Monitor the quality of the programme (academic, management, European Approach)
 - Selecting, developing, and updating the methods/tools
 - Collecting and processing all information related to quality checks of the programme and elaborating strategies for continuous improvement
 - Managing the promotional policies and assessing their quality and efficacy
 - Monitoring the adequacy and commitment of the personnel involved in the programme
 - Supervising and monitoring the quality of the infrastructure and major equipment
 - Monitoring and ranking of students' scientific and technical results





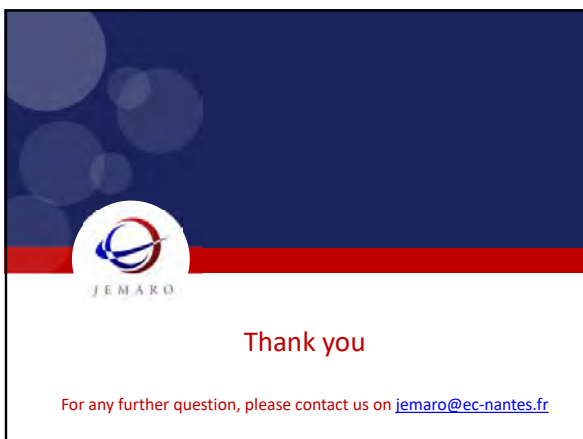
JEMARO JOINT DEGREE

1. **Definition:** a single document awarded by higher education institutions offering the joint programme and nationally acknowledged as the recognised award of the joint programme
2. **Goal:** replace our current double degrees by one joint diploma + diploma supplement (no more final certificate of completion)
3. **Objective:**
 - Progress towards the implementation of the JEMARO joint degree before the end of the Erasmus+ period (2025)

Advantages:

- A single document for the students -> more valuable
- Facilitate the europeanization of the higher education
- Facilitate the international student mobility as well as academic networking, collaborations, coordination between the universities
- Allow strong connection between legal and administrative frameworks and practice
- Give more visibility on the excellence of the consortium institutions members
- 1 unique diploma adapted to the EMIMD programme, not based on the institutions (system double degree)
- Joint degrees express the "jointness" also in the awarding of the degree

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 20



EUROPEAN APPROACH

1. Accreditation, 2 options:
 - Various national accreditations
 - One procedure, constructed especially for joint programmes:
 - The European Approach for Quality Assurance of Joint Programmes (EAQJIP), or the « European Approach » (EA)
 - > aims to support external Quality Assurance
 - Approved by the EHEA Ministers in Yerevan in May 2015

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 23

EUROPEAN APPROACH

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs" 24



EUROPEAN APPROACH

Procedure for External Quality Assurance of Joint Programmes (Source: Yerevan communiqué, 2015)

1. Self-Evaluation Report:
2. Review Panel
3. Site visit
4. Review Report
5. Formal outcomes and Decision
6. Appeals
7. Reporting
8. Follow-up
9. Periodicity

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs"

25



EUROPEAN APPROACH

Comparison of the 2 options:

1. The European Approach imply:
 - One central person/partner in the Consortium who organizes the accreditation procedure (others involved, of course)
 - One single Self-Evaluation Report (SER) to be produced
 - One review panel to be composed
 - One single site visit to be organized
 - One moment and accreditation valid for 6 years
2. Various national accreditations imply:
 - At all relevant partner universities there should be someone to organize the national accreditation
 - For each national procedure, at different moments: the start date and the duration of the accreditation will differ from the others

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs"

26



EUROPEAN APPROACH

"The European Approach may also be used for joint programmes that are offered by higher education institutions from both within and outside the EHEA. **Involved institutions from non-EHEA countries are encouraged to inquire whether their national authorities would accept the Standards (part B) and be able to recognise the decision of an EQAR-registered agency, if applicable.**"

Source: EQAR (European Quality Assurance Register for Higher Education) website

March 10 2022 : Inter-University Exchange Project Symposium
"Quality assurance in Japan-EU international collaborative degree programs"

27

資料-3

シンポジウム 日-EU 国際共同学位プログラムの導入と 実践 発表スライド

2022年10月7日

慶應義塾大学理工学部・理工学研究科



Implementation and Practice of Joint Degree Programmes: from Europe to the world

David Crosier
European Education and Culture Executive Agency

7 October 2022

Background: joint degree programmes and degrees in Europe

Relatively new phenomenon: emerging through European curriculum development projects and Erasmus mobility at beginning of C21

Bologna process viewed joint degree programmes as an ideal vehicle for EHEA objectives (connecting European higher education systems: open and inclusive higher education)

Catalyst for development of new joint degree programmes was Erasmus Mundus programme, 2004




Some observations on « European joint programmes »

- Erasmus Mundus programmes are portrayed as « European joint programmes »
- European funding has mostly been provided to encourage international students, leading to:
- « European joint programmes for (mostly) international students »
- No *tradition* of « European joint programmes for European students »
- However joint programmes for all students are now being supported through European University Alliances




Key feature of joint degree programmes

- **Quality culture and culture of jointness** in:
 - curriculum planning,
 - student and staff mobility,
 - setting of learning outcomes, use of credits, assessment
 - quality assurance measures,
 - degree award (hopefully)... **and everything else**




Requirements for success

- **Trust** between all partners: built on transparency and honesty
- Shared aims and objectives
- Recognising strengths of each institution
- Curiosity in exploring difference
- Cooperation and coordination: appropriate formal and informal structures
- Common ownership
 - > the whole is more than the sum of the parts



The challenge of/for Quality Assurance

Joint programmes are usually	Quality assurance systems are usually
European / international	National / regional
Inter-cultural	Mono-cultural
Experimental and innovative	Based on norms/standards
Guided by concept of jointness	Guided by criteria unrelated to jointness



Quality Assurance for joint programmes: internal quality assurance challenges

- How to keep focus on the priorities for the programme in a context of different national external requirements?
- Effective communication and coordination essential to maintain coherence in:
 - programme objectives; curriculum development; use of credits;
 - assessment methods; mobility concept and practice;
 - automatic recognition of learning between partners;
 - award of qualifications.
- Who takes decisions? When? On what basis?



External Quality assurance challenges..

- Countries have different external quality assurance requirements and different national criteria
- How to reduce administrative burden of QA procedures for universities, and have external QA that focuses on what is important to help the programme to develop and succeed?



Thank you for your attention

Please contact me if you have
questions after today's event:
david.crosier@ec.europa.eu



Master
Biology Agrosiences

International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health



Valerie.schurdi-levyaud@u-bordeaux.fr
<http://www.master-bio-agro-bordeaux.com>
<http://www.gip.isu.kuza.ac.jp/program/2016/0101/>




universit  BORDEAUX

筑波大学
University of Tsukuba

國立臺灣大學




You are what you eat.



Food acts as medicine.



Combines agricultural and medical sciences to train advanced professionals that can manage global-scale problems in sustainable agriculture, food production and health



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS




- Food processing
- Food science
- Agricultural economy
- Plant molecular genetics
- Plant Physiology
- Horticultural science
- Plant parasitic mycology
- Food security
- Microbiome
- Nutrition
- Chemology
- Plant breeding


Entrepreneur

- Environmental medicine
- Global health
- Microbiology
- Neurophysiology
- Stem cell biology
- Molecular cell biology
- Stem cell and nanotechnology
- Signal transduction
- Virology
- Toxicology




Pr. D. Rolin, U.Bordeaux, France Pr. Y. Komagai, U.Tsukuba, Japan





Agrobiomedical Sciences programme

S1
UT
Tsukuba
(UT, Japan)


S2
National
Taiwan
University
(NTU, Taiwan)

S3
Université
de
Bordeaux
(UB, France)

S4
Cooperation
Agreements
for 25
countries

- ✓ 3 universities, 1 semester in each university
- ✓ 5 French students, 5 Japanese, 5 Taiwanese
- ✓ 6th generation 2022-2024
- ✓ build personal learning program
- ✓ 1 joint diploma





Context of the establishment of the joint degree:

- an **initial scientific collaboration** between our laboratory and a laboratory of the University of Tsukuba on Agronomic Sciences topics
- an **initial link** established between the UT College of Medicine and the University of Taiwan (NTU)
- identification of **major issues and themes corresponding to a pool of jobs and future jobs** in relation to the contributions of each university
- a **political and strategic will of the institutions to set up this type of programme**
- long term work, (very) many meetings/email exchanges for the implementation, support on the UT science week
- **dynamic, willing and involved teaching teams**
- indispensable: **flexibility, understanding and cultural goodwill to resolve all difficulties**







1st GIP-TRIAD Conference (30 Sep 2014, Tsukuba)



4th Conference (18-19 Jan 2016, Bordeaux)



2nd Conference (15 Feb 2015, Tokyo)



3rd Conference (30 Sep 2015, Tsukuba)



5th Conference (20 Sep 2016, Tsukuba)





- Food processing
- Food science
- Agricultural economy
- Plant molecular genetics
- Plant Physiology
- Horticultural science



Agriculture **Medical Science**

- Plant parasitic mycology
- Food security
- Biotechnology
- Nutrition
- Dentistry
- Plant breeding

- Environmental medicine
- Global health
- Microbiology
- Neurophysiology
- Stem cell biology

- Molecular cell biology
- Stem cell and nanobiotechnology
- Signal transduction
- Virology
- Toxicology





Began in September 2017



✓ 6th students generation 2022-2024





Operational implementation of the joint programme:

- Establishing the **timing of the exchanges** according to the possible contributions of each university and the academic calendars of each
- assessment of **prerequisites and student recruitment strategies**
- identification of the **number of credits** needed to validate each semester and to validate the degree
- **student enrolment: payment of fees at each home university**
- establishment of the **official document validating the Master's degree** recognised by the 3 governments







Some follow-up points:

- Establishment of a "red thread" work carried out by the students during their stay in each university and presented during semester 4, each student is tutored by a professor in each university / Comprehensive report.
- regular online meetings of the three teaching teams (approximately every two months)
- evolution of the programme in relation to our self-assessments, evaluation of the programme in each of the universities

Teaching units

1 st semester University of Zabol	2 nd semester National Taiwan University	3 rd semester University of Bordeaux	4 th semester Specialized Subjects I Bordeaux
<ul style="list-style-type: none"> Foundation Subjects Introduction of Agrobiomedical Science Environmental Health Perspectives Entrepreneurship Training I, II English in Medical Science and Technology Specialized Subjects I Agro-Biomedical Science Laboratory Seminar I Research and Development for Agro-Biomedical Science I Specialized Subjects II Basic Toxicology Cancer Biology Critical Path Research Management etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Foundation Subjects Non-Entrepreneurial Training Specialized Subjects I Agro-Biomedical Science Laboratory Seminar II Research and Development for Agro-Biomedical Science II Biomedical Translation Food Camp System of Field and Laboratory Studies Internship in Taiwan I Specialized Subjects II Cellular Network of Biological Molecules Contemporary Issues in Global Health Agriculture of Taiwan etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Foundation Subjects Job or Internship Hunting including Technological Watch Specialized Subjects I International Scientific Seminars Negotiate Deal with Clinic & Biomedical Tools Field in Laboratory Practices with Data Management & Data Mining Specialized Subjects II Nutrition, Microbiome and Immunity Impact of Environmental Stressors on Crops Production Innovating & Advanced Plant Breeding Open Bioactivity Nutrition & Health Organization in Europe, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> Specialized Subjects I Internship

Agrobiomedical Sciences : and then?

PhD thesis in France
PhD thesis abroad
Ingenieur in quality certification, food company
R and D in food company
Ingenieur in agrosociences
Further studies in agrosocience or entrepreneurship




Towards International PhD-Education

Christoph Peters
 Institute of Molecular Medicine and Cell Research




UNIFREIBURG

Jointly awarded PhD Program (JDP)



16.11.2023



21.11.2023


UNIFREIBURG

Jointly awarded PhD Program (JDP)

- Course of study in the JDP program on average four years
- First year at home institution
- About 12 months at host institution
- At least one supervisor of each university
- Compulsory courses, examinations and reports
- Single final oral examination
- Thesis – in English – is main subject of oral examination
- Single degree from both universities

UNIFREIBURG

University of Freiburg: Leading Research University in Germany




Ranking 7: Overall DFG funding
 Ranking 1: DFG funding per professor

UNIFREIBURG

Faculty of Medicine, University of Freiburg

Research Areas



UNIFREIBURG

Collaborative Research Efforts (Selection)

University of Freiburg

Exc: Centre for Integrative Biological Signalling Studies
 Exc: Living, Adaptive and Energy-autonomous Materials Systems

- CRC 992: Medical Epigenetics
- CRC 1160: Immune-mediated pathology as a consequence of impaired immune reactions
- CRC 1381: Dynamic Organization of Cellular Protein Machineries
- CRC 1425: Heterocellular Nature of Cardiac Lesions: Identities, Interactions, Implications
- CRC 1453: NephroGenetics
- CRC 1479: Oncogene-driven immune escape
- CRC/TRR 167: Development, function and potential of myeloid cells in the central nervous system

UNIFREIBURG

Joint Symposia

2017 PAN Symposium
Freiburg, 14-16.11.2017

FLAN symposium 2018
Freiburg, 14-16.11.2018

Tokuron Seminars

Cancer 1: From Malignant Transformation to Local Progression

Cancer 2: From Invasive Growth to Metastasis

Cancer 3: Advanced Diagnostics and Novel Therapies

Christoph Peters
Institute of Molecular Medicine and Cell Research

PhD Candidates from Nagoya: Satoshi Nakano, MD

Satoshi Nakano M.D.
Nagoya University Graduate School of Medicine, Department of Pediatric Surgery
Nagoya University, CIBIG, Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Global Alliances

Research theme:
Comprehensive analysis of tumor micro-environment and oncogenic adaptation in sarcoma cells

Research Objective:
I will examine the regional heterogeneity in oncogene expression, tumor protein, mutations using ribosome-profiling(Ribo-seq) sarcoma tumors to elucidate the relationship between tumor micro-environment and tumor progression.

Methods:

- Using several patient derived cell lines of PAX3/PFOX1 positive RMS
- Taking cross sections of sarcoma tumors, and core and peripheral biopsies
- Geographically Mapping of biomarkers by IHC, IIS, and MALDI imaging
- Mass spectrometry and pathway analysis for regional differences in proteins and metabolites.

Collaborations:

Dr. Kuroki, Head of Gene Sequencing
Dr. Kuroki, Head of Proteomic Research
Dr. Kuroki, Head of Cell Culture

PhD Candidates from Nagoya: Shohei Iyoshi, MD

Translational Research

Gynecologic Oncology (Nagoya Univ.)

Proteomic Approach (University of Freiburg)

Dr. Iyoshi et al., J. Clin. Oncol. Adv.
Dr. Iyoshi et al., Adv. J. Cancer
Dr. Iyoshi et al., Cell Death

PhD Candidates from Nagoya: Shohei Iyoshi, MD

Projects for Ph.D - Joint Degree Program with Nagoya Univ (Japan) -

Tumor Biology
The role of omental adipocytes at tumor microenvironment of disseminated OvCa (Nagoya)

OvCa Peritoneal dissemination

01 Int. J. Cancer, in press

02 Cohort proteomics of malignant ascites from OvCa patients (Freiburg) **Diagnostics**

03 Development of novel therapeutic strategy based on membranous protease of OvCa cell (Freiburg) **Treatment**

PhD Candidates from Nagoya: Shohei Iyoshi, MD

JOINT DEGREE PROGRAM
NAGOYA UNIVERSITY
AND
ALBERT-LUDWIGS-UNIVERSITÄT
FREIBURG

International Research Training Group (IRTG), *in preparation*

- Combines innovative top-level research and structured PhD promotion in two countries
- Focused research programme and structured qualification programme
- Structured supervision strategy provided by an advisory committee
- Maximum funding of nine years (2 x 4.5 years)
- Funding for PhD fellowships and consumables, etc.
- Cross-border supervision of doctoral researchers
- Reciprocal research visits by doctoral researchers
- Two teams of professors from Germany and abroad (5 – 10 members each)
- Complementary expertise at both locations adds value to IRTG
- DFG funds projects at German university and partner country funds its own projects

- Possible applicants in Nagoya and Freiburg already identified

16.11.2022

13

UNIFREIBURG

Thank you very much for your attention!

16.11.2022

14

UNIFREIBURG



THE EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT PROGRAMMES

Hcéres - HIGH COUNCIL FOR THE EVALUATION OF RESEARCH AND HIGHER EDUCATION (FRANCE)

Sophie GUILLET
sophie.guillet@hceres.fr
Department for European and International Affairs

October 2022




THE EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT PROGRAMMES

1. CONTEXT AND PURPOSE OF THE EUROPEAN APPROACH
2. EVALUATION PROCEDURE
3. EVALUATION STANDARDS




THE EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT PROGRAMMES

1. CONTEXT AND PURPOSE OF THE EUROPEAN APPROACH
2. EVALUATION PROCEDURE
3. EVALUATION STANDARDS



CONTEXT AND PURPOSE

EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT DIPLOMA


- Adopted in 2015 in Erevan (Armenia) at the **Ministerial Conference of the Bologna Follow-up Group** on the basis of a proposal made by an ad-hoc expert group
- Compliant with the ESG** (European Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area)
- Consists in a **single** evaluation and accreditation procedure run by a single EQAR agency (EQAR= European Quality Assurance Register for Higher Education) :
 - Carried out with a **dedicated methodology and framework**
 - Automatically recognised** by the countries that are part of EQAR



PAGE 4

CONTEXT AND PURPOSE

MAP OF COUNTRIES EQAR-REGISTERED COUNTRIES (2020)




	✓	✓	✓	✓
Operational QA system nationwide	✓	✓	✓	
QA system fully aligned with the ESG (European Standards and Guidelines)	✓	✓		
All HEIs are subject to regular external QA by an agency that has successfully demonstrated compliance with the ESG through registration on EQAR	✓			

PAGE 5

CONTEXT AND PURPOSE

MAP OF COUNTRIES WHOSE JOINT PROGRAMMES WERE EVALUATED WITH THE EUROPEAN APPROACH (2022)



PAGE 6

CONTEXT AND PURPOSE

BENEFITS OF THE EUROPEAN APPROACH

- **Alleviates procedures** (no additional national criteria; alleged automatic recognition)
- Promotes the **jointness** of the programmes, focuses on the content
- **Enhances the quality** of the joint programme
- **Fosters international recognition** :
 - Enhance the European identity
 - Serves as a gateway to Europe
 - Attract students
- It is **sustainable** (online evaluation)

LIMITS OF THE EUROPEAN APPROACH

- Requires **human resources**
- Requires **financial resources**
- **Not recognised and implemented** by all European countries yet

Update and revision of the European Approach in the coming years

HCERES logo

PAGE 7

THE EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT PROGRAMMES

1. CONTEXT AND PURPOSE OF THE EUROPEAN APPROACH
2. EVALUATION PROCEDURE
3. EVALUATION STANDARDS

HCERES logo

PAGE 8

EVALUATION PROCEDURE

THE PROCEDURE STEP BY STEP

1. **Self-evaluation report** (ESG 2.3)
 - 2-3 months to write the SER after signing the agreement
2. **Expert panel** (ESG 2.3 and 2.4)
 - Training of the experts by Hcéres
 - Panel: at least 4 experts (at least 2 nationalities)
3. **Online visit** (ESG 2.3)
 - Meeting with all stakeholders, assess whether the programme complies with the standards of the European Approach
4. **Evaluation report** (ESG 2.3 and 2.6)
 - Relevant evidence, analysis and conclusions with regard to the standards
 - Recommendations for developing the programme further

HCERES logo

PAGE 9

EVALUATION PROCEDURE

5. **Formal outcomes and decision** (ESG 2.5)
 - Grants or denies the accreditation (with or without conditions), based on the standards
 - Each institution shares the evaluation report with its national agency/ministry to seek national accreditation
6. **Reporting** (ESG 2.7)
 - Publication of the report on our website and on EQAR
7. **Follow-up** (ESG 2.3)
 - If applicable, follow-up procedure to assess the fulfilment of conditions or follow-up actions on recommendations
8. **Periodicity** (ESG 1.10)
 - 6 years

HCERES logo

PAGE 10

EVALUATION PROCEDURE

TIMELINE

The evaluation process lasts **8-9 months**

- January: Hcéres and the consortium sign an agreement
- April: The consortium sends the self-evaluation report to Hcéres
- June: Hcéres expert panel carry out the online visit
- July: Hcéres sends the external evaluation report to the consortium to check for factual errors
- August: Hcéres publishes its external evaluation report on its website and on EQAR website

HCERES logo

PAGE 11

EVALUATION PROCEDURE

ONLINE EVALUATION

- **4-5 experts** from at least two countries involved in the consortium providing the joint programme:
 - 1 student expert
 - 2-3 academic experts
 - 1 expert from the socio-economic sector
- **2-3 half days**, depending on the time difference between countries

7 interviews on average

Stakeholders: Governance bodies, Quality assurance staff, Administrative staff, Teaching staff, Students, Alumni, Employers

HCERES logo

PAGE 12




THE EUROPEAN APPROACH FOR QUALITY ASSURANCE OF JOINT PROGRAMMES

1. CONTEXT AND PURPOSE OF THE EUROPEAN APPROACH
2. EVALUATION PROCEDURE
3. EVALUATION STANDARDS



EVALUATION STANDARDS


1 ELIGIBILITY	2 LEARNING OUTCOMES	3 STUDY PROGRAMME
4 ADMISSION RECOGNITION	5 TEACHING LEARNING	6 STUDENT SUPPORT
7 RESOURCES	8 TRANSPARENCY DOCUMENTATION	9 QUALITY ASSURANCE



PAGE 14

EVALUATION STANDARDS


1. ELIGIBILITY
 - **Status** : all partners are recognised as HEIs in their respective contexts
 - **Joint design and delivery** : to which extend the different partners were involved in this process ?
 - **Cooperation agreement** : admission and selection procedures, mobility of students and teachers...
2. LEARNING OUTCOMES
 - Aligned with the respective **national qualifications framework** of higher education system of each awarding degree partner.
 - Added value, synergy and **jointness**
3. STUDY PROGRAMMES
 - Curriculum
 - Credits
 - Workload



PAGE 15

EVALUATION STANDARDS


4. ADMISSION AND RECOGNITION
 - **Student admission** : process (from recruitment to selection procedures, and admission requirements)
 - The admission requirements need to **comply with national and institutional regulations**
 - Clear information on each step
5. LEARNING, TEACHING AND ASSESSMENT
 - **Alignment** between learning outcomes, learning and teaching activities and the assessment procedures in the programme
 - **Student centred learning** : diversity of needs
 - The programme consortium should regularly **evaluate and adjust the pedagogical methods** and modes of delivery
 - In which way does the programme allow **flexible learning paths**? Are there opportunities for a flexible organisation of learning and assessment?
 - How does the programme support **peer-to-peer-learning, inter-cohort-exchange or connection with alumni**?
 - What support is provided for **students with special needs** (e.g. caring responsibilities, disabilities)?




PAGE 16

EVALUATION STANDARDS

6. STUDENT SUPPORT
 - **Pre-arrival**: student guide, student handbook, information on national procedures
 - **Upon arrival**: welcome at the airport /welcome days, administrative support
 - **Other support services**: insurance, accommodation, student life
7. RESOURCES
 - **Staff**: relevant teaching staff of all involved institutions, staff resources for the coordination activities
 - **Facilities**
8. TRANSPARENCY AND DOCUMENTATION
 - Admission requirements
 - Curriculum, course catalogue, syllabi
 - Examination procedures
9. QUALITY ASSURANCE
 - **Joint internal quality assurance processes** in accordance with part one of the ESG



PAGE 17



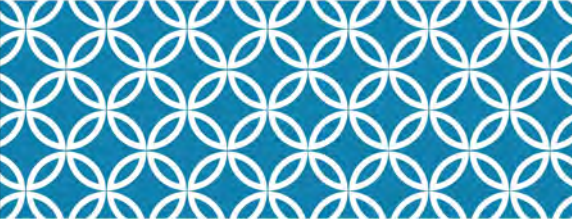
hceres.com
@Hceres_
Hcéres

資料-4

**INTER-CONSORTIA MEETING ABOUT EMJMDS
JOINT DEGREE AND EA #1 発表スライド**

2021年11月16日

慶應義塾大学理工学部・理工学研究科



INTRODUCING KEIO UNIVERSITY

ABOUT THE UNIVERSITY
ACCREDITATION SYSTEM OF MASTER'S PROGRAM
EMJMD AND INTERNATIONAL DOUBLE DEGREE MASTER'S PROGRAM

Inter-consortia meeting about EMJMDs joint degree and EA
2021/11/16

KEIO UNIVERSITY

- ✓ Private comprehensive education institution since 1858
- ✓ 6 campuses across the greater Tokyo area
- ✓ University hospital, affiliated schools from primary to secondary levels


Mita


Fuyufu


Yagam


Shiranomachi


SPT


Shiba-Koyoi



THE KEIO UNIVERSITY SYSTEM

10 Faculties:


- Letters
- Economics
- Law
- Business & Commerce
- School of Medicine
- Science & Technology
- Policy Management
- Environment & Information Studies
- Nursing & Medical Care
- Pharmacy

14+ Graduate Schools:

- Letters
- Economics
- Law
- Human Relations
- Business & Commerce
- School of Medicine
- Science & Technology
- Business Administration
- Media & Governance

- Health Management
- Pharmaceutical Sciences
- Media Design
- System Design & Management
- Media Design
- Law School

FACULTY OF SCIENCE & TECHNOLOGY



Mechanical Engineering

Electronics and Electrical Engineering

Applied Chemistry

Applied Physics and Physico-Informatics

Industrial and Systems Engineering

Mathematics

Physics

Chemistry

System Design Engineering

Information and Computer Science

Bioscience and Informatics

GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE & TECHNOLOGY

Fundamental Science and Technology	Integrated Design Engineering	Science for Open and Environmental Systems
<ul style="list-style-type: none"> • Mathematics • Physics • Molecular Chemistry • Applied Physics and Physico-Informatics • Chemical Biology • Biosciences and Informatics 	<ul style="list-style-type: none"> • Multidisciplinary and Design Science • System Integration Engineering • Electronics and Electrical Engineering • Material Design Science 	<ul style="list-style-type: none"> • Space and Environment Design Engineering • Environment and Energy • Applied and Computational Mechanics • Information and Computer Science • Open Systems Management

MASTER'S PROGRAM AT KEIO GST

30 credits in 4 semesters + Master's Thesis

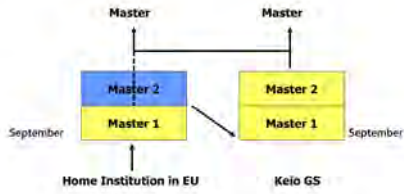
Courses in 4 categories:

- General Courses (2)
- Specialized Courses (2)
- Independent Study Course (4)
- Graduate Research Course (6)

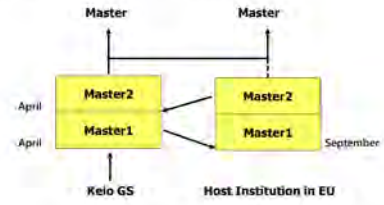
Mostly spent of laboratory for Master's Thesis = Research

Y1S1	5 Courses (10)	Independent Study (4) = 40 ECTS
Y1S2	5 Courses (10)	
Y2S1	Graduate Research (6) = 60 ECTS	
Y2S2		

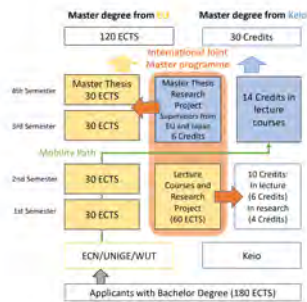
MASTER DD PROGRAM - INCOMING



MASTER DD PROGRAM - OUTGOING



JEMARO MASTER'S PROGRAMME



資料-5

EAIE 2023 発表スライド

2023年9月28日

慶應義塾大学工学部・理工学研究科

EAIE | ROTTERDAM
2023 | 26-29 SEPTEMBER

EAIE2023

Welcome to session 07.12

Challenges and opportunities in establishing joint degree programmes between the EU and Japan

Slide 1

Presenters

- CHAIR
 - VINCENT FREMONT, Ecole Centrale de Nantes, France
- SPEAKERS
 - TERESA ZIELINSKA, Warsaw University of Technology, Poland
 - SHINNOSUKE OBI, Keio University, Japan

EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 2

JEMARO: the Japan–Europe Master on Advanced Robotics

- Erasmus Mundus joint Master’s programme jointly developed by:
 - École Centrale de Nantes in France
 - Warsaw University of Technology in Poland
 - University of Genoa in Italy
 - Keio University in Japan



EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 3

JEMARO

- JEMARO stands for “Japan-Europe Master on Advanced Robotics”. It is a 2-year programme in the field of **advanced and intelligent robotics**.
- The master obtained the Erasmus Mundus label in 2019 as recognition for its excellent standards.




EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 4

Historical links between JEMARO partners for Erasmus Mundus programme

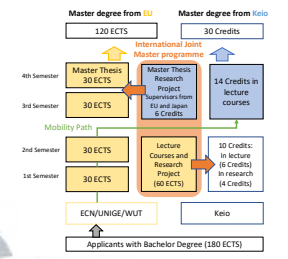
- EMARO: selected in 2007
- EMARO+: selected in 2014
- JEMARO: selected in 2019



EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 5

JEMARO Mobility Scheme



Master degree from EU: 120 ECTS

Master degree from Keio: 30 Credits

International joint Master programme

4th Semester: Master Thesis (30 ECTS) / Master Thesis, Research Project (Supervisors from EU and Japan) (6 Credits) / 14 Credits in lecture courses

3rd Semester: 30 ECTS

2nd Semester: 30 ECTS / Mobility Path: Lecture Courses and Research Project (60 ECTS) / 30 Credits: 16 Credits in lecture / 6 Credits in research / 8 Credits

1st Semester: 30 ECTS

ECN/UNIGE/WUT / Keio

Applicants with Bachelor Degree (180 ECTS)

Available courses in M1 include: Modelling and control of manipulators, Advanced and Robot Programming, AI for Robotics, Computer Vision, Optimization, Embedded Systems, local languages.

Available courses in M2 include: Space exploration Engineering, Advanced System Programming, Intelligent Machine Systems, Mixed Reality, Japanese language and culture...

In parallel, students will conduct a 2 year-long Research Track established with one Japanese and one EU supervisor.

EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 6

Contents

- Historical background and experience through EMARO
 - Challenges and opportunities of jointness
 - Extension to EU-Japan framework
- EU-Japan Inter University Exchange Project
 - Motivation and scope
 - Progress in development of joint degree program

Challenges: International jointness

Prepared and presented by Teresa ZIELINSKA

- Motivation of joint program in EU (Erasmus+)
- Experience and outcome of EMARO
- Extension to JEMARO
 - Larger diversity in system due to different culture, etc.
 - Research intensive programs in Japan vs courses in EU
 - Enhanced importance of cross-cultural experience (Pros and cons)
 - Academic as well as administrative challenges overcome so far

Motivation

- Long term and good cooperation,
- Intention to get added value: compared to typical double degree programs, joint programs
 - place more emphasis on each student,
 - offer higher quality content (specially designed),
 - have a strong emphasis on quality,
 - are strongly monitored,
 - have better international recognition and reputation.



Experience and outcome (challenges)



Joint international programs must combine proper degree of formality with efficient administrative processes,

starting from *ad hoc* practices,

to formally defined steps.



Experience and outcome




Need (and strength) for negotiations.


Administrative 'culture' often difficult to change, whereas this type of international agreement requires more flexibility.

Human factor


Those who serve



Those who are served










Slide 13

Human factor

- good academic scientist with international (teaching) experience and thorough knowledge of the subject,
- enables student from different backgrounds to meet educational needs, open, flexible interested in teaching in an international class,
- knows that culture can be defined in different ways,
- can distinguish cultural differences from personal characteristics,
- is able to evaluate student achievements with respect for different academic cultures.





Slide 14


Human factor

Adaptation embedded in the learning process

- special emphasis on fresh students (semester 1),
- local language classes offering an introduction to the local culture,
- understanding cultural differences in the group,
- helping to manage culture shock










Slide 15

Human factor

1. Learned good practices are transmitted to broad academic community (staff and administration)
2. Local weaknesses and limitations are not hidden to allow compensating them by other partners (or to solve)
3. All partners offer harmonised support, in that for managing and leveraging the students diversity



Slide 16

Human factor










Guide for Administrative Staff

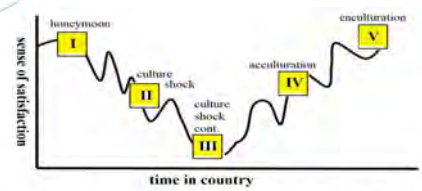





Slide 17

Human factor



adapted from 'Maximizing Study Abroad' Univ. of Minnesota



Slide 18

Those who serve

Those who are served

aggression occurs when I have no other way to express my needs

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 19

Those who serve

Human factor

Supporting the adaptation

It is unacceptable to announce that everything works better in our country than in the student's country [even if objectively in many aspects it does]

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 20

Those who serve

Those who are served

Please beware of our unconscious belief that words and gestures have the same meaning in other cultures.

High dynamic of movements, and other expressive reactions are not indicative of aggression but only of coming from a very expressive culture.

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 21

Those who serve

Human factor

Supporting the adaptation

Those who are served

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 22

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 24

Extension to JEMARO

- Existing cooperation (Erasmus Mundus)
- Larger diversity in system due to different culture, etc.
- Research intensive programs in Japan vs courses in EU
- Enhanced importance of cross-cultural experience
- Academic as well as administrative challenges overcome so far

EQUIS ACCREDITED ROTTERDAM UNIVERSITY

Slide 24

Wrap up



- Increasing the international recognition of the university,
- Improving local procedures, gaining knowledge about the world's academic institutions and their quality, learning about the best practices in assessing candidates.
- Deepening knowledge about cultural differences and how to deal with them,
- Cooperation, learning about the best practices.



- Scholarship programs are too short to be sustainable,
- Cultural differences can be troublesome to manage,
- Finding the best possible ways to collaborate and harmonize takes time.

Challenges: Towards JD framework

- Prepared and presented by Shinnosuke OBI
 - Motivation of Japanese government
 - Inter-university exchange programs for EU-Japan joint master programs
 - Comparison of JD and DD
 - Remaining challenges towards JD

Motivation of Japanese government

- Guideline for JD/DD issued in 2014 towards implementing joint degree programs in Japan
 - JDP consortium of Japanese universities
 - 27 running JD programs as of June 2023
 - DD is more popular with 349 programs
- Still long way to go for JD's

Inter-university exchange programs

- Inter-university exchange programs for EU-Japan joint master programs since 2019
 - JEMARO: Japan-European Masters on Advanced Robotics
 - IMLEX: Imaging and Light in Extended Reality
 - HIPS: History in the Public Sphere

Comparison of JD and DD

- Development of Joint Programs
 1. Student mobility
 2. Joint operation
 3. Quality assurance
- Comparison of JD and DD in terms of
 - Students' perspective, administrative viewpoints, quality assurance
 - Outcome and impact to the society/industry

EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 31

Experience of Keio University

- DD program first implemented in 2005
- Partnership with 17 institutions of 6 EU countries in 2023
- Participated by over 500 students and delivered 400+ degrees
- Strong contribution to the internationalization of the university
- Byproducts such as Erasmus Mundus, Erasmus+ with partners, joint research projects, joint publications, etc.

EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 32

Remaining challenges towards JD

- Each country has its own laws and regulations even in EU
- The procedure is demanding in both time and efforts of university

EAIE | ROTTERDAM
2023

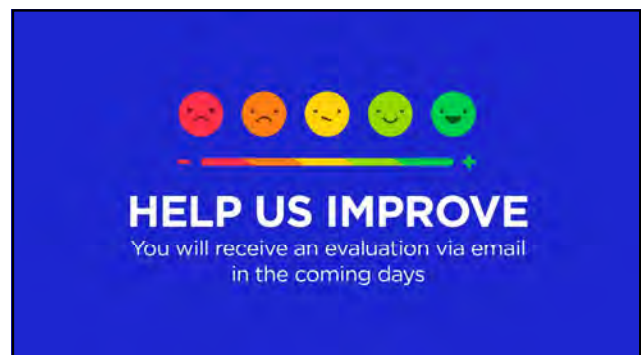
Slide 33

Summary

- Wrap-up by Vincent FREMONT
- Values of Cross-cultural experiences for student
 - At universities: Different systems of master course, grading system, research activities at labs
 - Job market: different style of job hunting, career-path design, working language
- Remaining issues
 - Quality assurance? Diploma policy?
 - Sustainability: Financial supports?
 - Students' perspective, reputation among industry, alumni network?
- Recommendations if you want to introduce JD
 - Do not wait for each country's policy, but not in rush, steady development, exchange information among consortia, etc.
 - Insist on jointness, partnership, complementarity, on selection process, course development and student mobility, quality assurance, etc.

EAIE | ROTTERDAM
2023

Slide 34



資料-6

APAIE 2024 発表スライド

2024年3月7日

慶應義塾大学工学部・理工学研究科

Challenges in Implementing Joint Degree Programs Across Continents

Vincent FREMONT, ECN, France
Taku SHINOHARA, TUFS, Japan
Shinnosuke OBI, Keio U, Japan

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Contents

1. Introduction: background to joint degree programs
 - Progress in EU and Erasmus+
 - Progress in Japan through Inter-University Exchange Programs
2. Practice and challenges in **JEMARO**, Japan-Europe Master in Advanced Robotics
3. Practice and challenges in **HIPS**, History in the Public Science
4. Summary
5. Discussion

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Introduction: definition

(European Ministerial Conference in Yerevan, 2015)

- **Joint programme:** an integrated curriculum coordinated and offered jointly by different higher education institutions, leading to multiple or joint degrees.
- **Joint degree:** a single document awarded by higher education institutions offering the joint programme and nationally acknowledged as the recognized award of the joint programme.
- **Multiple degree:** separate degrees awarded by issuing separate diplomas by the participating higher education institutions. If two degrees are awarded, it is "double degree".

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Progress in EU

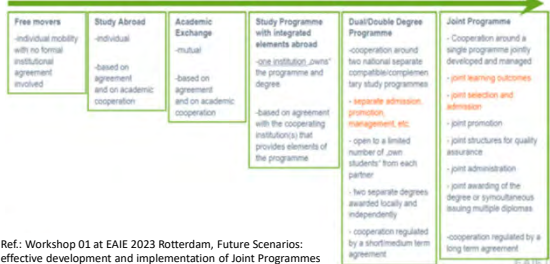
Ref.: Workshop 01 at EAIE 2023 Rotterdam, Future Scenarios: effective development and implementation of Joint Programmes

- Bologna conference in Berlin (2003): ministers agreed to support the development and quality assurance of integrated curricula leading to joint degrees
- Extension of Erasmus (1987) to Erasmus Mundus (2004)
- Erasmus+ Erasmus Mundus Joint Master Degrees (2014-2020)
- Erasmus+ Erasmus Mundus Joint Masters (2021-2027)
- European Strategy for Universities (2022) introduces Joint European Degree Label

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Increasing integration



Ref.: Workshop 01 at EAIE 2023 Rotterdam, Future Scenarios: effective development and implementation of Joint Programmes

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Progress in Japan (MEXT initiative)

- EU-Japan Pilot Program for Collaborative Education (2004)
- Global 30 Project (2009)
- Inter-University Exchange Programs with Europe (2012)
- Top Global University Project (2013)
- **Guideline for Joint/Double Degree Programs (2014)**
- Joint Master Program between Erasmus+ and MEXT Japan (2019)
 - 3 consortia were selected, including HIPS and JEMARO
 - Implementation of JD strongly encouraged
 - Scholarship provided by JASSO through short-term exchange program

Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
APAIE Perth: 4-8 March 2024



Guidelines for Building International Joint Diploma Programs Including Double and Joint Degree Programs (2014)

- Chapter 1: Overview
- Chapter 2: Outline of the Scheme
- Chapter 3: Points of Attention for the Establishment of JD Programs
 1. Basic Matters
 2. Basic Design of JD Programs
 3. Curriculum design, Examination for conferral of degree, etc.
 4. Other
- Chapter 4: Joint Educational Programs, including Double Degree



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



1. Basic matters

- JD programs aim to offer academic programs that cannot be offered by one single university in Japan or any foreign country through cooperation and collaboration between Japanese and foreign universities and the mutual use of shared educational resources.
- JD programs will be developed and implemented jointly by Japanese and foreign universities.
- The means of organizing JD programs will be regulated by the Japanese system to the extent possible, and may be affected by partner universities in foreign countries and the system of the countries concerned. Thus, JD programs can take various forms and must satisfy various requirements.



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



2. Basic Design of JD Programs

- Degree level, academic field covered and name
- Diploma
- Partner university(ies) in foreign country
- Inter-university agreement
- Selection, screening, etc. of entrants to JD program
- Student registry and record
- Size



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



3. Curriculum Design, Examination for Conferral of Degree, etc.

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> • Human resources to be developed • Language • Form of education • Classes with various types of media in a highly advanced manner • Requirements for graduation and completion • Earning of credits • Courses Jointly Designed • Grading | <ul style="list-style-type: none"> • Thesis • Degree examination for graduation • Supervision system • Academic staff • School site, buildings, facilities, equipment, etc. • Mobility of students (studying abroad and period of attendance at university) • Study environment |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



4. Other

- Tuition, scholarships, etc.
- Safety net
- Evaluation and quality assurance
- Recognition and evaluation by society

“It is extremely important to respect the viewpoint of students and have JD programs recognized and highly valued by society, including by private companies for which students will work in the future. The universities concerned shall promote, give account of, and make known the effectiveness and other aspects of JD programs to society.”



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



Challenges: comparison of master program

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>EU</p> <ul style="list-style-type: none"> • 120 ECTS in 4 semesters • Course intensive • AY starts in October • Tradition: student mobility across Europe • Progressive development to JP • Full support through funding by Erasmus+ | <p>Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> • 30 credits in 2 years • Research intensive • AY starts in April • Tradition: study abroad by individual basis, free mover • Traditional degree programs • Partial support only for study abroad part by JASSO |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



Towards a sustainable future for international education in the Asia Pacific
 APAIE Perth: 4-8 March 2024



With the support of the Erasmus+ Programme of the European Union

Japan-Europe Master on Advanced Robotics
Erasmus Mundus Joint Master Degrees
Agreement number 2019-1909/001-001

JEMARO – Learn about our programme

Japan-Europe Master on Advanced Robotics (JEMARO)

- The Japan-Europe Master on Advanced Robotics (JEMARO) is a 2-year integrated programme (120 ECTS or 30 Japanese Credits) offering courses in the area of advanced and intelligent robotics.
- By mastering Mathematical Modeling, Control Engineering, Computer Engineering, Mechanical Design, students are able to deal with robotic systems as a whole.

JEMARO – Learn about our programme

JEMARO Consortium

4 major Higher Education Institutions in Japan and Europe awarding master's degrees:

- Keio University (KEIO – Japanese Coordinator), Japan.
- Ecole Centrale de Nantes (ECN - European Coordinator), France.
- Warsaw University of Technology (WUT), Poland.
- University of Genoa (UNIGE), Italy.

2 HEIs as Associated Partners:

- Universitat Jaume I (UJI), Spain.
- Shanghai Jiao Tong University (SJTU), China.

8 industrial partners:

- YASKAWA, Soft Servo Systems, NTT Data, Motion Lib, Inc., BA Systems, PIAP-Space, PIAP, IRT Jules Verne.

JEMARO – Learn about our programme

A Success Story in Advanced Robotics

Historical links between JEMARO partners for Erasmus Mundus programme

- EMARO: selected in 2007
- EMARO+: selected in 2014
- JEMARO: selected in 2019

JEMARO – Learn about our programme

MOBILITY SCHEME*

2 years, 2 diplomas, 1 programme

Year 1	Year 2
ECN	Keio
UniGe	
WUT	

Research Track

One master's degree from a EU institution → Challenge: design of a joint degree → One master's degree from Keio University, Japan

*The above mobility scheme may also be available in the reverse way (M1 in Japan and M2 in Europe) in the upcoming years.

JEMARO – Learn about our programme

ACADEMIC PROGRAMME

Curriculum

- 1st semester courses in EU – 30 ECTS
- 2nd semester courses in EU – 30 ECTS

Modules	Modules
Research Track I	Research Track II
Modelling and control of manipulators	Mechanical design methods in robotics
Control of linear multivariable systems	Software architectures for Robotics
Real-time systems	Mobile robots
Signal processing	Artificial intelligence for Robotics II
Advanced and Robot Programming	Optimisation techniques
Computer vision	Nonlinear control techniques
Artificial intelligence for Robotics I	Human computer interaction
Mechanics of mechanisms and machines	Dynamic Model Based Control
Local language I	Embedded Systems
	Local language II

JEMARO – Learn about our programme

ACADEMIC PROGRAMME

Curriculum

- 2nd year courses at Keio (14 LC = 7 courses and 6 RC) + Master thesis (S4)

Modules	
Ultraprecision Machining and Metrology	MEMS: Design and Fabrication
Advance Course for Actuator Engineering	Space Exploration Engineering
Digital Wireless Communications	Computer Vision
Mixed Reality	Advanced Control Systems Design
Intelligent Machine System	Ad Hoc & Sensor Network
Design of Physically Grounded Communication System	Computational Structural Mechanics
Applied system design engineering	Medical Image Processing
Electromechanical Integration System	Control Engineering
Robust Control Theory	Advanced System Electronics
Local language	Research Track

- Students will devote time to the Research Track to conduct their own research and to earn Japanese Research Credits. For the second year, the Research Track will end with the Master's thesis defense.

JEMARO – Learn about our programme

Research Track

Co-supervision of the Research Track


- Integrated Research Track co-ordinated between European and Japanese professors. This will enhance research collaborations between EU and Japan partners.
- 3 research topics linked to research track: Signal Processing, Biological Information; Robotics, Human Interface; Control, Mechatronics.
- A research topic and the corresponding supervisor at KEIO are selected by the candidates during the application phase. The choice is justified in the letter of motivation.
- At their arrival, students should investigate a subject to work on and a co-supervisor is chosen at ECN, WUT and UNIGE.
- The Research Track will end with the Master's thesis defense.
- Challenges: match-making session between EU and Japan researchers, and remotely-based joint supervision.

JEMARO – Learn about our programme

Who can apply?

Holding a BSc (or equivalent) in a field related to Robotics

- Importance of **interdisciplinarity**
- Most fitted background: **Mechatronics**
- Graduated before July 31 for non-Europeans (September 30 for Europeans)



English Proficiency

- Native language
- Medium of instruction (official letter or mentioned on transcripts)
- Required score to TOEFL, TOEFL IBT, Cambridge, IELTS, TOEIC

JEMARO – Learn about our programme

How to apply?

Procedure detailed on <https://jemarko.ec-nantes.fr>

Identify a research field:

- Control-mechatronics
- Robotics-human interface
- Signal processing computer science, bioinformatics

Documents

- CV (Europass not compulsory)
- ID (national or passport)
- Proof of residence (no older than 12 months)
- Transcripts and latest degree/proof of degree completion
- Motivation letter (**template available**)
- Evidence of English proficiency
- Contact information of 2 referees (make sure it is correct)

JEMARO – Learn about our programme

SELECTION CRITERIA

Criteria	Grade	Evaluated by the coordinator (ECN)	Evaluated by the partners
C1 – Home institution quality*	/10	X	
C2 – Academic potential	/45 (25 min.)	X	
C3 – Degree relevance	/20		X
C4 – CV	/5		X
C5 – English	0 or 10	X	
C6 – LoM**	/15		X
C7 – LoR	/5		X
C8 – Gender	/1	X	

Cross-evaluation between partners

* From Webometrics
** To be assessed according to the template

JEMARO – Learn about our programme

Tuition & scholarships

Tuition fees

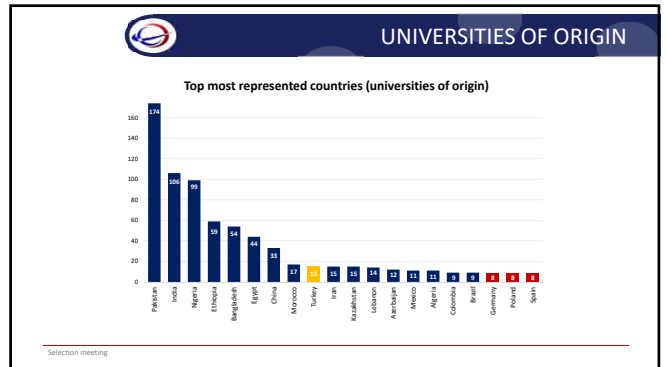
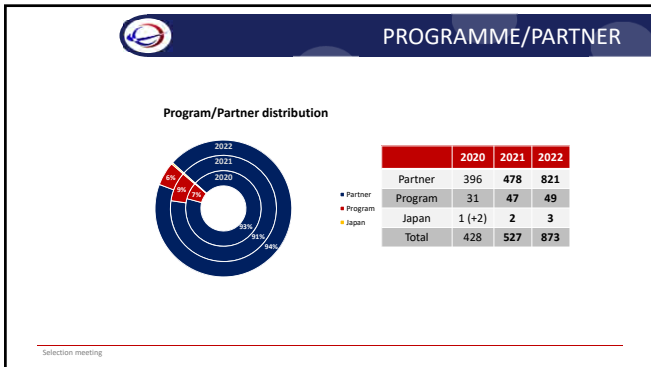
Partner country* students: €18,000
 Programme country* students: €9,000
 Keio students pay Keio tuition fees

Scholarships available (main way of attractiveness):

- Erasmus Mundus Scholarships:** full scholarship (tuition fees, monthly allowance, travel & installation expenses covered)
- Consortium Scholarships:** deduction of tuition fees
- JASSO:** for Japanese students
- Campus France, Study in Italy, Study in Poland scholarships**

* The definition of « partner country » and programme country » is given on <https://jemarko.ec-nantes.fr/english-version/admission/fees-scholarships>

JEMARO – Learn about our programme



Thank you

For any further question, please contact us on jemaro@ec-nantes.fr

**Double-Degree Master’s Program
History in the Public Sphere
(HIPS)**

Tokyo University of Foreign Studies
SHINOHARA, Taku, Vice President for Education

What is the program “History in the Public Sphere”?

Two-year master program that focuses on the ways the past is represented, contested, and negotiated in the public sphere, exploring various contexts from the early modern period to the present in a comparative and transnational way.

The Program

- addresses broader, entangled, and global aspects of the representation and uses of the past across different periods of history
- offers an infrastructure that allows students to study and practice public history in a comparative perspective both within and outside strictly national contexts
- integrates a multilateral exchange and cultural dialogue opening up a comparative dimension that is less present in the more conventional understanding of public history focused mainly on the national public

HIPS: History in the Public Sphere

- HIPS covers a wide range of history topics in the fields of *humanities and social sciences*.
- HIPS is based on the idea that *our contemporary society is connected to history* through multitude of histories, memories, pasts, or something “historical” in various daily events.
- HIPS encourages the students to re-examine the mechanisms and methods by which *the past is represented, contested, and negotiated in the public sphere*, which often transcends national borders.

HIPS: Four Themes

- History and the institutionalization of memory
- Visual representations and medialization of history→Capstone project
- History of inclusion and exclusion
- Entanglement between national, regional, and global frameworks of history

hips

Some examples from the passed projects/ Master Thesis, 2023

- Remembering and Forgetting Franco: The Evolution of Historical Memory in Spain
- A New Museum for a New Order: Political Foundations of the Museum of Modern Art of São Paulo
- Styling Socialist Consumption: Discourses of Sartorial Appearance in the 1960s Yugoslav Women's Magazine *Bazar*
- Sexuality, Morality, and Contested Heritage: Tracing the History of the Tawaifs of North India

hips



HIPS Consortium

- Tokyo University of Foreign Studies (TUFS)
- Central European University (CEU), Vienna, Austria
- NOVA University Lisbon (NOVA), Lisbon, Portugal
- University of Florence (UniFI), Florence, Italy
- Ludwig Maximilian University, Munich, Germany
- National Institute for Oriental Languages and Civilizations (INALCO), Paris, France
- L'viv Catholic University (L'viv, Ukraine), L'viv Center for Urban history, L'viv, Ukraine

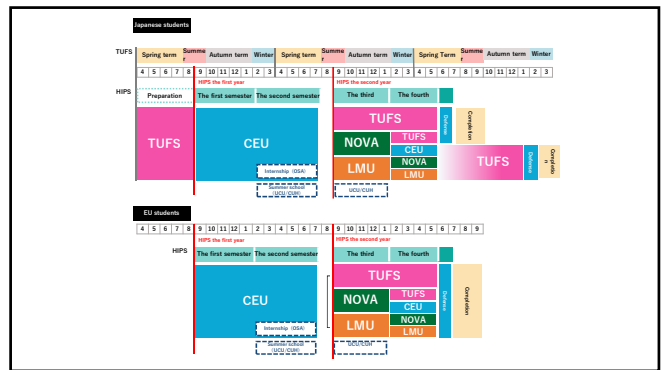
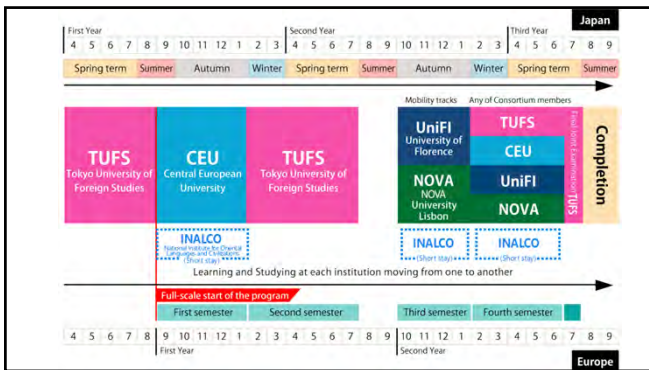


HIPS students as modern journeymen

- Mobility on a global scale
- Attaining learning experiences in various institutions
- Works are done in the field through firsthand observation
- Interaction with fellow students from different backgrounds



<http://www.dodedans.com/Ekbh37.htm>



Challenges



- Accommodating different academic calendars
- Translating Japanese credits to ECTS
- Harmonizing different academic cultures and philosophies, vis-à-vis the external evaluation

• Most important!

The Double Degree Program HIPS was created on the base of long academic cooperation between CEU and TUFS

The mutual trust is necessary to solve many problems in running the program beyond the essential difference of institutional structure, academic culture and philosophy among the consortium member universities

Ordinary model at TUFS	credits	In case of HIPS students	credits	ECTS	semester	
[TUFS]Mandatory courses	Fundament of International Studies	2	Core course I	2	4	Winter 2021
	Systems of International Exchange	2	Core course II	2	4	Spring 2021
	Research Thesis Progress	4	Research Thesis (Capstone Project and defense)	4	8	**Fall 2021 and Spring 2022
	Academic English	1	Academic English	1	2	Winter 2021
	Academic English	1	Academic English	1	2	Spring 2021
[TUFS]Mandatory elective courses		12	practical experience and skills at TUFS	2	4	Winter 2021
			[Institutional course] at CEU	4	8	
			[Institutional course] at UniFI/NOVA	4	8	
			[Institutional] Joint of ME course at CEU	2	4	
[TUFS]Elective courses		8	[HIPS]Mandatory elective course	2	4	Spring 2021
			[HIPS]Mandatory elective course	2	4	Spring 2021
			[HIPS]Elective course	2	4	Winter or Spring 2021
			[HIPS]Elective course	2	4	Spring or Summer 2021
				14	28	

Thank you!

Summary

- ✓ Complementary approach to the difference in style of master program
- ✓ Adjustment of mobility scheme to incorporate discrepancy in academic calendar
- ✓ Quality assurance based on mutual trust among HEIs
- ✓ Institutional support to cover inconsistency in scholarship policy

➤ Joint degree?



References

- Guidelines for Building International Joint Diploma Programs Including Double and Joint Degree Programs. Central Council for Education Working Group on the Internationalization of Universities, Japan (2014).
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/fieldfile/2015/04/17/1356863_1.pdf
- Euro-Asian/Pacific Cooperation in Erasmus Mundus. State of play report. European Commission, European Education and Culture Executive Agency, Erasmus Mundus Support Initiative, Lanzuela, M., & Fernández-Figares, I. (2024).
<https://erasmus-networks.ec.europa.eu/stateofplayjointdegreesem>



資料-7

HIPSプログラムの取組内容

慶應義塾大学工学部・理工学研究科

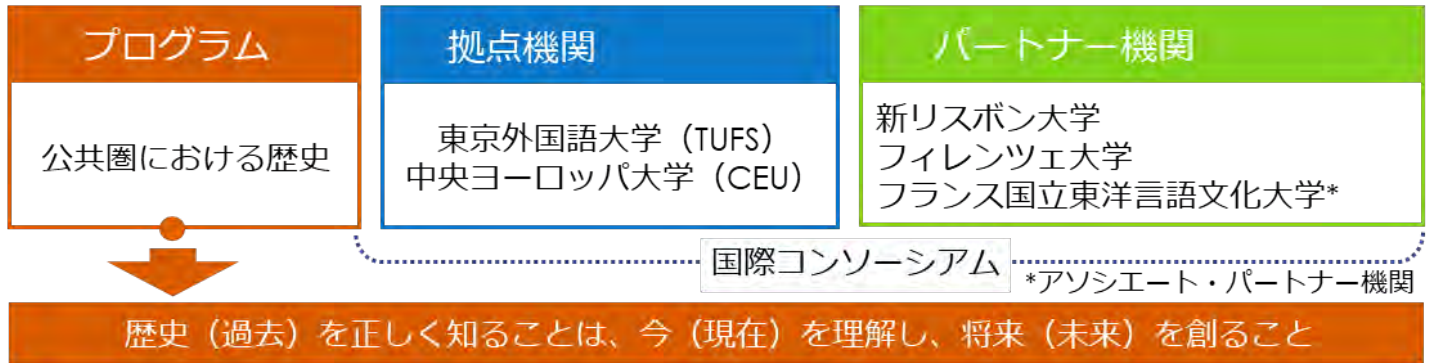
大学の世界展開力強化事業(2019年度選定) 東京外国語大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2019年度)

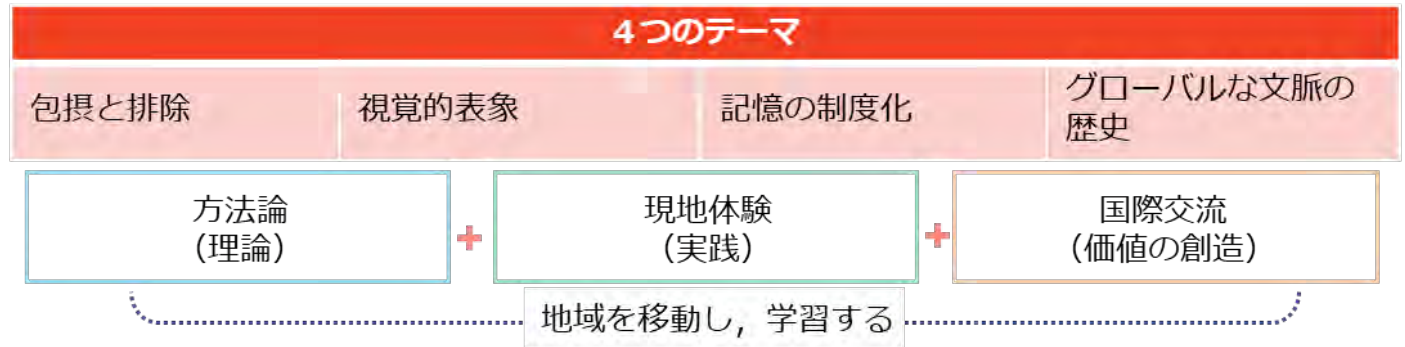
歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

【交流推進事業の概要】

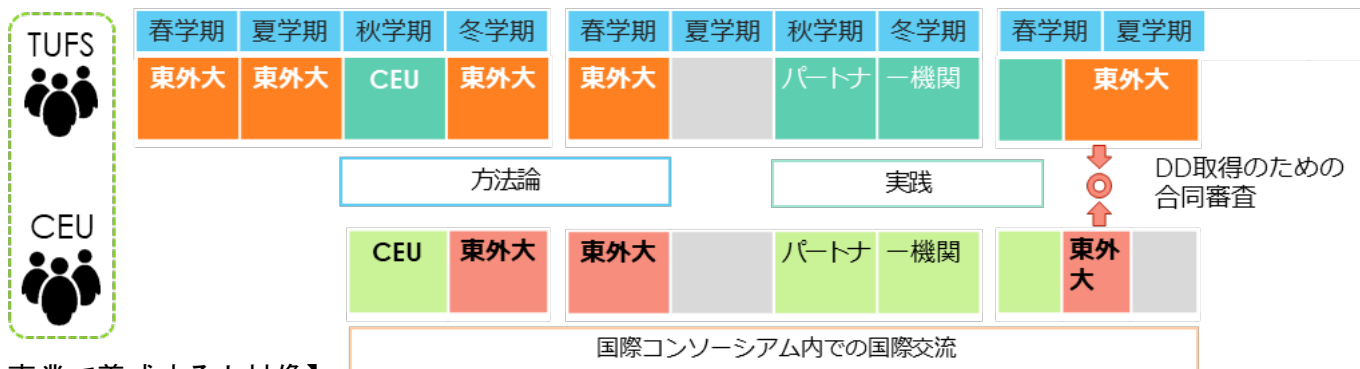
- 目的** 学術視点で歴史的知を創出し、実践に架橋できるグローバルな日欧専門人材を育成する
- 概要** 拠点機関を中心に国際コンソーシアムを構築し、ダブル・ディグリー (DD) プログラムを運用する体制の構築



応用歴史学を通じた過去と現在の理解



【交流プログラムの概要】



【本事業で養成する人材像】

公文書館、博物館・美術館、ジャーナリズム、放送メディア、デジタル・メディアのために歴史的知を生成、翻訳、伝達する分野で活躍することが期待されるほか、国際協力、国際ビジネス、地域活性化、観光業など、広い範囲で専門的知に基づく、公共的な価値としての歴史を現代社会に生かすことができる人材を養成する。

【本事業の特徴】

国際コンソーシアムの各機関での学習、研究に加え、文書館・美術館・博物館等でのインターンシップの機会を提供することにより、当プログラムで目指す人材像を育成する。また、学生は拠点機関からのダブル・ディグリーの取得に加え、パートナー機関を含むマルチプル・ディグリーの取得が可能である。

【交流予定人数】

	2019	2020	2021	2022	2023
学生の派遣	0	8	8	8	8
学生の受入	0	8	8	8	8

1. 取組内容の進捗状況(2019年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



コンソーシアム・ミーティング(2020年2月開催)

・本事業の初年度である2019年度においては、学内の事業推進体制及びコンソーシアム体制の構築を行った。10月～12月にかけて、本学の本事業担当教職員がEU側拠点大学を訪問してコンソーシアム構築に向けた協議を行い、1月には連携4大学によるコンソーシアム協定を締結し、2月には本学でキックオフミーティングを開催した。また、これらの取組の中で、EU・日本双方における教育研修施設およびインターンシップ先相互訪問を行うなど、学生の派遣・受入のための体制構築を進めた。

	2019	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	0	0

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本事業における日本人学生の派遣は2020年9月開始を予定しており、本年度においては、2020年度の学生募集に向けて募集要項を作成し、本学、駐日欧州連合代表部等Webサイトにて公開するなどプログラムの広報活動を推進した。

○ 外国人留学生の受入

本プログラムにおける外国人留学生の受入は2020年2月開始予定のため、本年度においては、中央ヨーロッパ大学と次年度以降の学生の派遣・受入数の取り決めを行った。



Webサイト「公共圏における歴史」および英語による本学紹介動画
(<http://www.tufs.ac.jp/htps/>)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・10月から12月にかけて教職員をブダペスト・ウィーンに派遣し、EU側拠点大学である中央ヨーロッパ大学との協議を行い、1月にコンソーシアム協定に調印して、ダブルディグリー・プログラム実施の枠組みを整えた。

・外部有識者による外部評価委員会を設置し、事業の健全な推進に向けた意見聴取の体制を整えた。なお、3月に開催を予定していた第1回外部評価委員会は、COVID-19の影響により次年度に延期した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・10月に学内外の学生に向けた本プログラムに関する第1回説明会を開催した。
- ・本学にプログラム実行委員会を立ち上げ、学生の派遣および受入に向けたコンソーシアム機関と本学の単位互換の調整を行ったほか、本事業の参加学生に向けた授業科目の選定を行った。
- ・本事業の参加学生が海外機関に滞在中も本学の教務手続きをオンラインで行えるよう、教務システムの改修を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ・Webサイト「公共圏における歴史」を立ち上げて本事業の取組を日本語と英語で掲載し、学生募集やイベント情報を発信できる体制を整えた。
- ・本学の特色を英語で紹介する動画を作成し本学、EU側コンソーシアムの両サイトで公開したほか、本事業のリーフレットおよびより詳細なパンフレットを作成し関係機関へ配布、上記Webサイト上でも公開した。



「公共圏における歴史」
パンフレット表紙

■ グッドプラクティス等

- ・2月にコンソーシアム機関である中央ヨーロッパ大学、フィレンツェ大学および新リスボン大学より教職員を本学に招聘し、コンソーシアムのキックオフミーティングを開催した。ミーティングには本学のプログラム実行委員会教員も出席し、各メンバー機関のプログラムの方向性を調整したほか、各機関とその所在都市についての情報交換等と、本学周辺地域の視察を行い、周辺地域の「公共圏における歴史」に触れたほか、受入学生の日本におけるインターンシップ先候補地の視察を行うなど、次年度以降の交流の環境整備を進めた。
- ・11月に本学職員が、駐日欧州連合代表部が主催した“Erasmus+ Information Session”にて、本事業を含めた本学の Erasmus+ プログラムに関する取組状況の発表を行った。これを機に EU プログラムへの申請を検討している国内大学から申請手続き等に関する照会を受けており、本学の経験を随時共有している。

2. 取組内容の進捗状況(2020年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



- ・コロナ禍により実渡航は派遣・受入ともに見合わせ、第1期生11名は9月から2月中旬まで中央ヨーロッパ大学(以下CEU)の、2月中旬以降は本学の授業を、オンラインで履修した。
- ・動画教材を作成し授業で活用した他、本プログラムに関心を持つ人を広く対象として学内外の研究者による公開講義等のオンラインイベントを開催し、「公共圏における歴史」という本事業の主題への理解を促進した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・東外大在籍学生より1名を選考した。学生は9月からCEUの授業を履修し、2月に行われた修士研究中間報告会にて研究成果を発表した。
- ・学生はCEUにおける学生代表の1人としてオンライン履修環境の改善等について教職員と意見交換を行うなど、プログラム運営に貢献した。

○ 外国人留学生の受入

- ・世界各地より10名がプログラムに参加し、2月から本学の授業を履修した。
- ・本事業参加学生のための集中講義を実施し、必修科目の基礎演習、アカデミックライティング、実習の事前研修のほか、複数の選択科目を開講した。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	8	1
学生の受入	8	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・4月よりコンソーシアム運営にビデオ会議を導入し、2か月に一度のペースでオンライン会合を実施した。これにより、日-EUの各大学教員間の連絡・連携体制が強化された。
- ・第1回外部評価委員会を7月にオンラインで開催した。事業1年目の点検と健全な事業推進に向けた意見を聴取し、指摘された課題の改善に努めた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・協定校および本学の教職員の連携により、オンライン履修の支援を行った。また、次年度以降のより円滑なプログラム運用に向け学生から質問や要望を聴取し、順次対応した。
- ・時差に配慮してオンデマンド型を併用したオンライン授業を実施した。同時に、渡航が可能となった場合に円滑に対面授業に移行できる体制を整えた。
- ・参加学生が海外からも必要な文献にアクセスできるよう、歴史分野に関連する英語の電子書籍を東外大図書館システムに拡充した。
- ・10月のプログラム開始に先立ち、参加学生に対する教育・生活面での支援を開始し、2月に本学での受入が始まるまでの期間にオンラインで支援・交流を行なう体制を構築した。



〈国内研修事前視察
(長崎、外海地区)〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本学ウェブサイトと連携して、事業ウェブサイトで説明会や公開講義等の情報を随時発信した。
- ・事業ウェブサイトにもオンラインで利用できる学修支援情報を拡充し、一部のオンライン講義については録画を公開している。また、これまでの活動履歴情報をまとめたアーカイブページを新たに作成した。
- ・情報配信希望者に対し、年間を通じてメールによる本事業の情報発信を行っている。
- ・事業パンフレットの日本語改訂版および英語版を作成し、学内外およびウェブサイト上での広報活動に活用した。

■ グッドプラクティス等

- ・授業内外でオンラインを活用し、説明会や学内外の講師による講演を年間を通して行った。これにより、本事業の主題への理解を促進するとともに、国内外の研究機関との連携を強化することができた。特に6月には、本学とCEUの教員によるシンポジウムを一般公開で開催し、EU側との連携強化にも繋がった。なおこのシンポジウムには学内外から70名が参加し、事業ウェブサイト上で録画も公開している。また、2021年6月には、コンソーシアム機関である新リスボン大学とフィレンツェ大学の講師による講演を行った。
- ・国内研修先である長崎を本学教員が訪問して、各地での事前視察・調整と教材作成を行った。これにより、オンラインでもプログラムを実施できる体制を強化した。また、長崎大学と明治大学の教員の協力を得て、オンラインによる事前学習講義を実施した。



〈TUFS-CEU合同シンポジウム動画
(事業webサイトより)〉

3. 取組内容の進捗状況(2021年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 令和元年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・9月から渡航を伴う学生の派遣を実施するとともに、受入については、コロナ禍の各国の状況と日本の入国要件を注視して対面・ハイブリッドへの移行も検討しつつ、プログラムの提供を行った。
- ・本プログラムの普及のため、学内外の研究者による公開講義や映像作品上映等のオンラインまたは対面のイベントを開催し、「公共圏における歴史」という本事業の主題への理解を促進した。



〈パネル展『リフカの日記: ウッチ・ゲットーの少女』〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・東大在籍学生より2期生4名を選考、3名を9月から2/3月まで中央ヨーロッパ大学(CEU)へ派遣した(辞退1名)。
- ・令和2年度から参加している1期生1名については、9月からフィレンツェ大学(UniFI)へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・世界各地より2期生10名がプログラムに参加し、2月からハイブリッドで本学の授業履修を開始、3月から順次渡航を伴う受入と対面授業を開始した。
- ・令和2年度から参加している1期生10名については、渡航を伴う受入の可能性を模索しつつ、7月までオンラインによる受入を行った。2月からの第4セメスター渡航先として本学を選択した4名については、来日が可能になり次第順次来日するものとして、ハイブリッドでの受入を開始し、3月に1名が来日した。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	8	3
学生の受入	8	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・コンソーシアムによるオンライン会議を2か月に一度のペースで開催し、教務、入試、質保証等に関し議論を深めた。これにより、日-EUの各大学教員間の連絡・連携体制が強化された。
- ・第2回外部評価委員会を8月にオンラインで開催した。事業2年目の点検と健全な事業推進に向けた意見を聴取し、指摘された課題の改善に努めた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・9月からの渡航を伴う派遣開始に向け、危機管理の指導等、渡航に向けた支援を行った。また、派遣中も、随時オンラインによる支援を継続した。コロナ禍の追加要件により奨学金の受給対象とならなかった日本人学生については、寮および航空券を本学が手配する等の支援を行った。
- ・前年度2月からオンラインでの受入となっていた1期生について、オンライン履修のためのサポートを充実させるとともに、来日に向けたシミュレーションと準備を行った。
- ・3月から留学生入国要件の緩和を受け、各学生の状況確認と準備を迅速に進め、来日できる学生から順次渡航を伴う受入を行うものとし、空港から本学への移動と一部学生の自主隔離、寮、保険加入、住民登録、銀行口座開設等の手配を支援した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

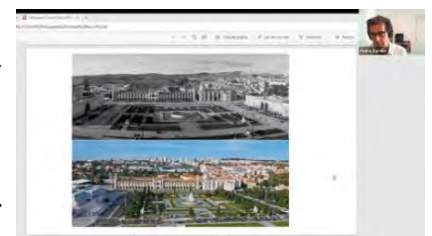
- ・4月に1期生11名が中心となり、応募を検討中の学生とのオンライン交流会、6月にはプログラムに参加する日本人学生が次年度以降の応募を検討する日本人学生に体験を語り相談などに応じる交流会を開催した。
- ・11月から12月にかけて、アフガニスタン情勢の歴史的・社会的背景、アラブの春や香港民主化運動などをテーマとしたオンライン講演会を開催し、学内外に公開するとともに、講師と学生の対話の機会を創出した。
- ・大学院進学を考える学生を対象に、プログラムの運営委員を務める4名の教員がプログラム内容を紹介する動画を作成し、大学公式YouTubeチャンネルにて公開したほか、情報配信希望者に対しては、年間を通じてメールによる本事業の情報発信を行っている。
- ・事業パンフレットの改訂版およびポスター、看板等を作成し、学内外およびウェブサイト上での広報活動に活用した。



〈プログラム紹介動画〉

■ ゲッドプラクティス等

- ・6月に、コンソーシアムを組むUniFIおよび新リスボン大学(NOVA)の研究者3名をゲストとするオンライン・オープンセミナーを実施し、1期生11名、2期生候補者7名、次年度以降の応募希望者等18名が参加した。講演については、録画を公開したほか、コンソーシアム各大学にも提供し、EU側との連携を深めた。
- ・1月から2月にかけて、ポーランドのガリツィア・ユダヤ博物館から貸与された写真パネル展『リフカの日記: ウッチ・ゲットーの少女』を開催し、渡航ができなかった学生に現地博物館と同様の形態での展示に触れる機会を提供した。また、関連して、パネル展を共催した名古屋外国語大学の教員等4名の講師によるオープンレクチャー(5回)や映画上映会(3作品4回)を実施した。



〈NOVA & UniFIオープンセミナー〉

4. 取組内容の進捗状況(2022年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・6月までに、順次1期生および2期生の実渡航による受入を行い、コロナ禍により延期されていた国内研修およびインターンシップの実地での実施を含むプログラムを行った。
- ・9月より、日本側2期生および3期生の派遣を実施した。
- ・2月より、EU側と日本側合わせて20名の3期生によるプログラムを実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・9月より、2期生3名のうち1名を新リスボン大学(NOVA)に、2名をフィレンツェ大学(UniFI)に派遣した。うち1名は、アソシエート・パートナーのフランス国立東洋言語文化大学(INALCO)にも滞在した。
- ・東外大在籍学生より3期生5名を選考、9月から2月まで中央ヨーロッパ大学ウィーンキャンパス(CEU-PU)およびブダペストキャンパス(CEU)へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・6月までに、2期生10名と1期生のうち4名の受入を行った。
- ・7月、修士論文・修士研究合同審査のため、1期生3名の短期受入を行った。
- ・2月より、休学中の1名を除く3期生15名の受入を実施した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・コンソーシアムによるオンライン会議を2~3か月に一度開催し、緊密な連絡・連携体制を維持した。
- ・7月、CEUから3名、NOVAから2名、UniFIから1名の教員を招聘し、1期生修士論文・修士研究合同審査および2期生修士論文・修士研究中間報告会を行った。
- ・審査はハイブリッド形式で行われ、日欧の教員延べ43名が出席した。2022年度内に10名がDDプログラムを修了した。
- ・第3回外部評価委員会を9月にオンラインで開催した。プログラムの取り組みの報告に対し、特にチューター制度による他学年のプログラム参加学生間との交流が高い評価を受けた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・派遣:9月の派遣開始に向け、渡航・滞在に向けた支援を行った。また、CEUのキャンパス移転に伴う査証取得手続きをサポートした。
- ・コロナ禍および国際情勢の影響による学生の予期せぬ経済的負担の増加に伴い、寮費または航空券代にかかる経済的支援を行った。
- ・受入:1期生および2期生については、可能な限り早く来日できるよう個別対応を行い、空港からの移動や一部学生の自主隔離等の手配を行った。
- ・3期生については、在留資格認定証明書および査証の手配等、2月の受入に向けた支援を行った。
- ・来日後の学生に対しては、入寮、保険加入、住民登録、銀行口座開設等の手配の円滑な実施を支援するとともに、学内での授業補助や翻訳業務等、学業の妨げにならないよう配慮しつつ希望する学生へ就業体験の機会を提供した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・前年度実施した写真パネル展『リフカの日記:ウッチ・ゲッターの少女』(ポーランドのガリツィア・ユダヤ博物館より貸与)を、4月、7月に再展示し、新入生や4月以降入国の受入学生にも展示に触れる機会を提供した。パネルは名古屋外国語大学でも展示され、プログラム担当教員が同大学を訪れてプログラムの広報を行った。
- ・4月、2022年度および次年度以降のプログラム応募を検討する学部生・大学院生と2期生の交流会を開催し、プログラムでの体験等を共有するとともに応募検討学生の相談に応じる機会を設けた。
- ・6月、学内外の研究者・学生をパネリストとして招き、CEUとのオンライン合同国際シンポジウム“University and Humanitarian Crisis”を開催した。運営にはCEU教員指導のもと、1期生も参加した。
- ・ユーゴスラヴィア内戦をテーマとして、12月に国内他大学の研究者2名によるオンライン・レクチャーを、2月には東外大開講科目「中央ヨーロッパ地域研究」との共催によるワークショップを開催した。

■ グッドプラクティス等

- ・コロナ禍により延期した1期生広島インターンシップおよび2期生長崎研修を6月に実施した。
- ・広島インターンシップにおいては、被爆体験講話のハイブリッド中継を1期生が組織することで、東京の2期生も質疑応答に参加可能にした。
- ・長崎研修では、長崎大学の協力を得て、同大学学生との交流やディスカッションを行った。
- ・コロナ禍により前年度にオンラインで長崎研修を行った1期生についても、修士論文審査のための来日に合わせて、7月に長崎を訪問する機会を設けた。コンソーシアム各校の招聘教員も同行し、共同指導を行った。
- ・研修・インターンシップ実施後にはアンケートを実施し、聴取した学生の意見を3期生長崎インターンシップに反映させ、プログラムの改善を行った。



〈プログラム修了式(1期生)〉

	2022	
	計画	実績
学生の派遣	8	5
学生の受入	8	16



〈長崎研修〉

4. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・7月まで、2期生および3期生の実渡航による受入を行い、国内研修、インターンシップ、3期生修士論文中間発表会を含むプログラムを行った。
- ・9月より、日本側3期生および4期生の派遣を実施した。
- ・2月より、EU側と日本側学生による4期生の日本プログラムを実施した。



〈修士論文・修士研究合同審査(2期生)〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・9月より、3期生5名のうち1名を新リスボン大学(NOVA)に、4名をフィレンツェ大学(UniFI)に派遣した。
- ・東外大在籍学生より4期生4名を選考、9月から2月まで2名を中央ヨーロッパ大学ウィーンキャンパス(CEU-PU)およびブダペストキャンパス(CEU)へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・7月まで、3期生15名の受入を行った。
- ・2月より、4期生13名と3期生のうち3名の受入を実施した。

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	8	4
学生の受入	8	13

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・コンソーシアムによるオンライン会議を2~3か月に一度開催し、緊密な連絡・連携体制を維持するとともに、自走化とErasmusプログラム再申請に向けた検討を行った。
- ・6月、CEU-PUを会場としTUFSSが主催する2期生修士論文・修士研究合同審査をハイブリッド形式で実施し、NOVAから1名、UniFIから2名、TUFSSから2名の教員が対面で参加した。年度内に12名がDDプログラムを修了した。
- ・7月、CEU、NOVA、UniFIから各1名の教員を招聘し、TUFSSにて3期生修士論文中間報告会を行った。
- ・第4回外部評価委員会を9月にオンラインで開催した。プログラムの取組の報告に対し、特に、これまでの取組により、学生へのアンケート結果における大学間での学びの連続性の向上が高い評価を受けた。
- ・2月~3月、Erasmus Mundus Support Initiativeによるセミナー等出席のため来日したCEUコーディネーターと次年度以降の事業実施について協議するとともに、4期生広島研修を引率し、教職員間の交流と学生へのヒアリングを合同で実施した。
- ・3月、これまでの取組の総括として、慶應義塾大学と連携してAPAIE 2024にて本学の共同学位プログラムへの取組について報告した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・派遣:9月の派遣開始に向け、渡航・滞在に向けた支援を行った。
- ・受入:在留資格認定証明書および査証の手配等、2月の受入に向けた支援を行った。
- ・来日後の学生に対しては、入寮、保険加入、住民登録、銀行口座開設等の手配の円滑な実施を支援するとともに、学内での授業補助や翻訳業務等、学業の妨げにならないよう配慮しつつ希望する学生へ就業体験の機会を提供した。
- ・希望する学生に対し、TUFSSが提供するオンライン日本語講座(OPJLC)やその他の言語を履修する機会を提供した。



〈広島研修(4期生)〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・4月、2023年度および次年度以降のプログラム応募を検討する学部生・大学院生とプログラム参加学生の交流会を開催し、プログラムでの体験等を共有するとともに応募検討学生の相談に応じる機会を設けた。また、10月には、2期生の修論紹介&体験報告及びプログラム説明会をオンラインで開催した。
- ・7月、3期生が主体となって、UniFIとの共催による国際ワークショップ「Fascism, Resistance and Memory in the 21st Century」をハイブリッド方式にて実施し、一般に公開した。
- ・7月、夏期集中講座の一環として、公共圏に関わる実践に取り組むキュレーターやアーティストを招いたワークショップ「空間の文化:人工物から風景へ」を実施し、一般にも開放した。中学生や学部生など幅広い層と「公共圏における歴史」の概念を共有することができた。
- ・10月、TUFSS海外事情研究所と共催で、スイスの建築事務所所属の建築家を講師とする講演会「浜口ミホの住宅革命」を開催した。講演会の記録は海外事情研究所所誌『クアドランテ』26号に収録され、電子出版物として広く公開した。
- ・3月、ガリツィア・ユダヤ博物館と共催で、バーチャルツアー&オンラインレクチャー「Reflections on the Jewish Past: Jewish Life, the Holocaust and Preserving These Memories in Poland」をハイブリッド方式で開催した。

■ グッドプラクティス等

- ・コンソーシアム及び学内で自走化・Erasmusプログラム再申請に向けた協議を進め、2024年度の本HIPSプログラム継続と学生募集を決定した。
- ・以前より研修生の随時受け入れを表明していた水俣病センター相思社において、初のインターンシップが実現した。また、東京都人権プラザにおいても、2024年4月にインターンシップを行うことが決定し、2024年度以降の本プログラム継続に向けたインターンシップ先の充実を図ることができた。

資料-8

IMLEXプログラムの取組内容

慶應義塾大学工学部・理工学研究科

【事業の名称】(選定年度2019年度)

近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム

【交流推進事業の概要】

人の知識・経験・能力を拡張するクロスリアリティ技術(拡張現実、XR)、その基盤技術であるイメージングやライティング、コンピュータレンダリングを含む情報技術を組み合わせた専門分野において、日欧複数の大学間連携を置き、学際的かつ革新的なプログラムを提供して、XRの創造とXRが拓く近未来を担う人材を育成する。また、日欧の関連分野企業を産業界パートナーとすることで、大学院教育における国際産学連携強化を目指す。

【交流プログラムの概要】

実用的な技術応用に関する基礎的かつ実践的なカリキュラムを4学期(日本側は準備学期を併せて5学期)にわたって提供する修士学位プログラムである。

- ・ 学期1: フォトニクス基礎コース (フィンランド)
- ・ 学期2: イメージングトラック (フランス) または ライティングトラック (ベルギー)
- ・ 学期3: 【それぞれのトラック】XR 概念の導入 (日本)
【統合共通モジュール】XR のコア技術と応用展開の修得
- ・ 学期4: 国際産学連携体制による修士研究 および 修士論文合同審査会 (豊橋技術科学大学)

修了生は日欧の各ホスト機関により複数の修士学位が与えられる。

【本事業で養成する人材像】

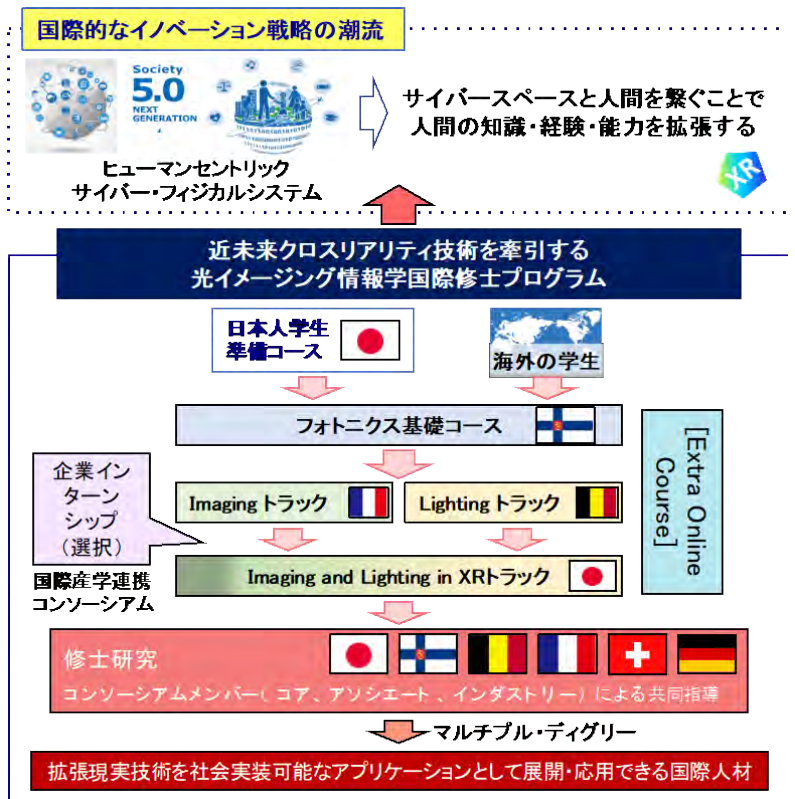
人の知識・経験・能力を拡張する XR 技術を創造し、社会実装可能なアプリケーションとして展開・応用できる人材、また、グローバルな社会認知能力という基盤の上に、問題解決能力を身につけ、XRが拓く近未来を牽引する人材の育成を目的としている。

【本事業の特徴】

本事業がカバーする XR技術は、欧州における「Industry 4.0」、日本における「Society 5.0」で根幹をなすコンセプト「ヒューマン・セントリックで情報の相互運用性、透明性が担保されたサイバー・フィジカルシステムによる人間拡張」において核となるテクノロジーであり、XR による近未来を担う人材の養成という本事業の目的は、こうした世界的なイノベーション戦略に合致するものである。また、日欧のリーディング企業が産業界のパートナーとして本プログラムに参画する国際産学連携コンソーシアム型のプログラム運営体制を構築することで、大学院教育における国際的な産学連携強化を目指し、実用的な技術応用に関する国際・学際的かつ実践的なカリキュラムを提供する、日欧マルチプル修士学位プログラムである。

【交流予定人数】

	2019	2020	2021	2022	2023
学生の派遣	0	8	8	8	8
学生の受入	0	8	8	8	8



1. 取組内容の進捗状況(2019年度)

【豊橋技術科学大学】

【近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム (IMLEX : Imaging and Light in Extended Reality Reality)】(採択年度 2019年度)

■ 交流プログラムの実施状況



(IMLEXプログラムロゴマーク)

コンソーシアム各大学の強みを生かしEU側は、東フィンランド大学(UEF)がフォトニクス基礎科目、サンティエヌジャンモネ大学(UJM)がイメージング関係科目、ルーベン・カトリック大学(KUルーベン)がライティング関係科目を担当することとし、各大学では、日本語を含む語学関係も学べることにした。日本側は、本学が千葉大学、宇都宮大学と連携し、XR関係の知識・技術を深めながら、文化関係科目も修得できることにした。また、欧州及び日本での企業インターンシップ参加を可能とし、企業関係者の参画も予定している。欧州側大学の参加学生は欧州圏以外の国出身の学生も参加する予定で、欧州側教員・日本側教員の短期相互派遣を毎年度実施することとしていること等、文化的文脈でも多様性のあるプログラムを構築した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

本プログラムの学生の派遣・受入は2020年度からとなるため、2019年度は学生の選考を行った。

○ 日本人学生の派遣

学内で学生募集を行ったところ、8名の応募者があり、学内選考を経て、3月のAcademic and Management Board(AMB)で8名全員が履修学生として採択された。

○ 外国人留学生の受入

欧州側は101名の応募者があり、3月のAMBで欧州側申請者は29名(内21名は補欠合格者)が履修予定学生として採択された。最終的に採択者の中から11名がプログラムを履修することになった。

	2019	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	0	0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

Quality Assurance Board (QAB) 及びAdministrative and Management Board (AMB) を設置し、各ボードのミッションを以下のとおり定めた。また各コンソーシアム大学を代表するAMB及びQABボードメンバーを配置した。

●AMBのミッションは、プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。

●QABのミッションは、プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。



(IMLEXプログラム イメージ)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・本プログラムの4月入学者について、修業年限を2年6月とする学則改正を行うとともに、プログラムの実施に関する規程を制定し、2020年度の学生受入に向けた学内ルールを整備した。

・IMLEXプログラムの実施に伴う情報・知能工学系での英語を活用した科目の充実、指導予定教員の特定、学生受け入れに先立つ、欧州側大学教員と日本側教員との相互訪問・交流を通じて、欧州大学と協働した体制を確立した。また、国内の連携大学(千葉大学、宇都宮大学)との間で、事業内容、プログラム科目の確認、受入学生の指導や事前準備等の協力を通じ、連携体制を構築した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

学生を受け入れる情報・知能後学専攻では英語を活用した科目を充実させた。

本プログラムのウェブサイトを作成し、カリキュラム等公開をしている。またプログラム紹介動画を製作し、同ウェブサイトや大学公式YouTubeで公開し、プログラムの普及に努めた。

■ グッドプラクティス等

○パートナー大学によるコンソーシアムの形成

10月に本学教職員5名を東フィンランド大学に派遣し、欧州側3大学とコンソーシアム運営組織設立にしたことにより、欧州との国際共同教育プログラムを実施する体制が確立でき、継続的な欧州の大学及び企業との協力関係を構築し、交流促進が期待できる。

2. 取組内容の進捗状況(2020年度)

【豊橋技術科学大学】

【近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム
(IMLEX : Imaging and Light in Extended Reality)】(採択年度 2019年度)

■ 交流プログラムの実施状況



(IMLEXプログラムロゴマーク)

2020年9月より、東フィンランド大学においてプログラムを開始した。日本から8名、欧州側大学から9名の学生が参加し、新型コロナウイルス感染症拡大のため、欧州3大学(東フィンランド大学(UEF)(フィンランド)、サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学(UJM)(フランス)、ルーベン・カトリック大学(KUルーベン)(ベルギー))は、オンラインでのプログラム実施体制を整備し、UEFがフォトニクス基礎科目、UJMがイメージング関係科目、KUルーベンがライティング科目を担当し、オンライン及び対面でプログラムを実施し、IMLEXが目指す人材養成を行っている。

日本人学生については、欧州への派遣準備は整っているものの、新型コロナウイルス感染症拡大のために渡航延期となっており、日本にてプログラム履修を続けている。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生の派遣に向け、英語事前教育、海外安全オリエンテーション等の渡航前教育を実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外渡航ができず、日本において、オンライン授業によりプログラム履修を行った。

	2020	
	計画	実績
学生の派遣	8	8
学生の受入	8	9

○ 外国人留学生の受入

新型コロナウイルス感染症拡大のため、EU側もオンラインを主体としてプログラムを開始することとなった。EU側学生は、2020年10月末までに全員が欧州入国し、現地でプログラム履修を行った。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

コンソーシアム内に設置されたAcademic and Management Board (AMB)は、2020年度に5回開催され、学生募集や履修管理に関するプログラム実施事項を議論した。また、Quality Assurance Board (QAB)も3回開催され、プログラムの質保証等に関し、議論を行った。

●AMBのミッション:プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。

●QABのミッション:プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。



〈IMLEXプログラムにおける
オンライン講義の様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面でのプログラム実施が困難となり、オンラインでの講義等実施のための体制を整えた。2020年度は、予定していた日本人学生の欧州渡航はかなわなかったが、日本にてプログラム履修を継続した。

・海外からのオンライン・遠隔教育の受講を効果的に行い、効果的なプログラム実施を確保するため、学内に学生向け海外オンライン・遠隔教育受講のための専用スペースを整備した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本学IMLEXウェブサイトの充実を図り、国内外の学生の情報源となるよう整備を行った。また、国内広報資料として汎用リーフレットを作成するとともに、学内広報資料としてのパンフレットを作成し、学生募集等の広報活動を行った。

■ グッドプラクティス等

○ パートナー大学によるコンソーシアム運営

2019年度に設立した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、定期的にAcademic and Management Board (AMB)及びQuality Assurance Board (QAB)を開催して、プログラムの運営を行っている。

○ コロナ禍におけるオンライン講義等の充実

2020年9月より、東フィンランド大学(UEF)でのプログラムが開始となったが、コロナ禍の影響により、オンラインでのプログラム開始となった。入学ガイダンスや全ての講義がオンラインで提供された他、バーチャルリアリティ、拡張現実、複合現実などの技術を用いた遠隔地での実験等のハイブリッド授業を行っている。

3. 取組内容の進捗状況(2021年度)

【豊橋技術科学大学】

【近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム (IMLEX : Imaging and Light in Extended Reality)】(採択年度 2019年度)

■ 交流プログラムの実施状況



〈IMLEXプログラムロゴマーク〉

第1期生(2020年入学)については、欧州側学生の渡日ができず、オンラインでの学修を行い、研究指導については、オンラインを活用するとともに、欧州の大学または企業において行っている。日本人学生は、当初予定のとおり、豊橋技術科学大学にて講義の受講及び研究指導を受けている。

第2期生については、2021年9月より、東フィンランド大学において、プログラムを開始した。日本から2名、欧州側大学から13名の学生が参加し、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながら、欧州3大学(東フィンランド大学(UEF)(フィンランド)、サンティエヌ・ジャン・モネ大学(UJM)(フランス)、ルーベン・カトリック大学(KUルーベン)(ベルギー))での学修を行った。UEFがフォトンクス基礎科目、UJMがイメージング関係科目、KUルーベンがライティング科目を担当し、オンライン及び対面でプログラムを実施し、IMLEXが目指す人材養成を行っている。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生(第2期生)の派遣に向け、英語事前教育、海外安全オリエンテーション等の渡航前教育を実施した。2021年8月末にフィンランドに渡航し、UEFでの学修を開始した。2022年1月からは、UJM及びKUルーベンへ移動し、プログラム履修を継続している。

	2021	
	計画	実績
学生の派遣	8	2
学生の受入	8	17

○ 外国人留学生の受入

新型コロナウイルス感染症拡大のため、第1期EU側学生の2021年度の渡日はできず、オンラインを主体としてプログラム履修を行った。第2期生のEU側学生は、2021年9月までに全員が欧州入国をし、現地でプログラム履修を行った。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

コンソーシアム内に設置されたAcademic and Management Board (AMB)は、2021年度に10回開催され(オンライン会議)、学生募集や履修管理に関するプログラム実施事項を議論した。また、Quality Assurance Board (QAB)も3回開催され、プログラムの質保証等に関し、議論を行った。

●AMBのミッション:プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。

●QABのミッション:プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。



〈IMLEXプログラムにおける
UEFでの講義の様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面でのプログラム実施に加え、オンラインでの講義等実施のために体制を整備した。2021年度は、日本の水際対策のため、予定していたEU側学生の渡日はかなわなかったが、欧州にてプログラム履修を継続した。

・2020年度に整備した学生向け海外オンライン・遠隔教育受講のための専用スペースを更に整備し、日本人学生及びEU側学生が共に学ぶことができるVR設備を整えたスペースを用意した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本学IMLEXウェブサイトの充実を図り、国内外の学生の情報源となるよう整備を行った。また、国内広報資料として汎用リーフレットを作成するとともに、学内広報資料としてのパンフレットを作成し、学生募集等の広報活動を行った。

■ グッドプラクティス等

○ パートナー大学によるコンソーシアム運営

2019年度に設立した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、定期的にAcademic and Management Board (AMB)及びQuality Assurance Board (QAB)を開催して、プログラムの運営を行っている。

○ コロナ禍におけるオンライン講義等の充実

2021年度も2020年度に引き続き、コロナ禍の影響により、オンラインも活用してプログラムを実施した。必要に応じてガイダンスや講義等をオンラインで提供するとともに、バーチャルリアリティ、拡張現実、複合現実などの技術を用いた遠隔地での実験等のハイブリッド授業を行っている。

4. 取組内容の進捗状況(2022年度)

【豊橋技術科学大学】

【近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム (IMLEX : Imaging and Light in Extended Reality)】(採択年度 2019年度)

■ 交流プログラムの実施状況



〈 IMLEXプログラムロゴマーク 〉

Withコロナの時代において、感染予防措置を講じながら、学生の派遣・受入を行っているが、第2期生の欧州側学生13名は予定通り来日することができ、2022年10月に豊橋技術科学大学での修学を開始した。

第3期生については、2022年9月から東フィンランド大学において、日本から8名、欧州側大学から13名の学生がプログラムを開始した。東フィンランド大学(UEF)がフォトニクス基礎科目、サンティエヌ・ジャン・モネ大学(UJM)がイメージング関係科目、ルーベン・カトリック大学(KUルーベン)がライティング科目を担当し、プログラムを実施し、IMLEXが目指す人材養成を行っている。

また、2022年9月には、本プログラム初の修了生15名(日本側7名、欧州側8名)が誕生し、豊橋技術科学大学、UEF及びUJMまたはKUルーベンとのトリプルディグリーを取得した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生(第3期生)の派遣に向け、英語事前教育、海外安全オリエンテーション等の渡航前教育を実施した。2022年8月にフィンランドに渡航し、UEFでの学修を開始した。2023年1月からは、UJM及びKUルーベンへ移動し、プログラム履修を継続している。

○ 外国人留学生の受入

第2期生のEU側学生は、予定通り2022年10月から、豊橋技術科学大学での修学を開始している。

	2022	
	計画	実績
学生の派遣	8	8
学生の受入	8	13

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

コンソーシアム内に設置されたAcademic and Management Board (AMB)は、2022年度に8回開催され(オンライン会議または対面)、学生募集や履修管理に関するプログラム実施事項を議論した。また、Quality Assurance Board (QAB)も3回開催され、プログラムの質保証等に関し、議論を行った。

●AMBのミッション:プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。

●QABのミッション:プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。



〈2022年9月に修了した第1期生(日本側)〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学が得意とするXR技術を用いた、センシング、AI・IoT、ロボット等の研究を活かした教材として速やかに教育現場で利用できるよう、VR実験室を整備した。VR実験では、IMLEX参加学生だけでなく、学部学生もIMLEX学生と共に授業を受けており、学部学生にとっては、欧州の大学で最先端の技術を学んできた修士学生の研究を目の当たりにし、交流もできる刺激のある授業となっている。学部学生が世界へ目を向けるきっかけにもなっている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本学の広報担当部署とも連携し、ツイッターなどソーシャルネットワークにて留学中の学生の様子を投稿した。また学内向けのパンフレットをデータ化することにより、多くの学生がパンフレットを自らダウンロードできるようにした。更には、本プログラムをよりよく内外に知ってもらうため、参加学生のプログラムインタビュー動画を作成し、本学のみならず、パートナー大学にも利用してもらい、広報活動を行った。

■ グッドプラクティス等

○ パートナー大学によるコンソーシアム運営

2019年度に設立した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、定期的にAcademic and Management Board (AMB)及びQuality Assurance Board (QAB)を開催して、プログラムの運営を行っている。2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大における水際対策等も緩和され、実際に欧州に教職員を派遣して、対面での会議や打合せを開催することができた。また引き続き、オンラインも活用し、コンソーシアム運営組織を通じて、EUとの連携強化を実施することができた。

○ オンライン講義等の充実

2022年度も引き続き、対面に加えて、オンラインも活用しながらプログラムを実施した。必要に応じてガイダンスや講義等をオンラインで提供するとともに、バーチャルリアリティ、拡張現実、複合現実などの技術を用いた遠隔地の実験等のハイブリッド授業を行っている。

5. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【豊橋技術科学大学】

【近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム (IMLEX : Imaging and Light in Extended Reality)】(採択年度 2019年度)

■ 交流プログラムの実施状況



〈 IMLEXプログラムロゴマーク 〉

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、感染への配慮をしつつ通常通りに学生の派遣・受入を行える年となった。感染予防には引き続き留意をしながら、第3期生の欧州側学生11名の受入れを行い、2023年10月より豊橋技術科学大学での修学を開始した。

第4期生については、2023年9月から東フィンランド大学(UEF)において、日本から4名、欧州側大学から9名の学生がプログラムを開始した。東フィンランド大学がフォトンクス基礎科目、サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学(UJM)がイメージング関係科目、ルーベン・カトリック大学(KUルーベン)がライティング科目を担当し、学生はそれぞれの大学が得意とする専門分野を最先端の装置を使用しながら、熟練された教員より学び、次世代を牽引するIMLEXが目指す人材の基礎を作り上げる。

また、2023年9月には、本プログラム2回目の修了生15名(日本側2名、欧州側13名)を送り出すことができた。今回はEU側の学生も修了式に出席できた初めての年となり、修了生に加え、家族等も列席した。引き続き、本格的なプログラム運営に努めていく。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生(第4期生)の派遣に向け、英語事前教育、海外安全オリエンテーション等の渡航前教育を実施した。2023年8月にフィンランドに渡航し、UEFでの学修を開始した。2024年1月からは、UJM及びKUルーベンへ移動し、プログラム履修を継続している。

○ 外国人留学生の受入

第3期生のEU側学生は、予定通り2023年10月から、豊橋技術科学大学での修学を開始している。

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	8	4
学生の受入	8	9

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

コンソーシアム内に設置されたAcademic and Management Board (AMB)は、2023年度に10回開催された(オンライン会議または対面)。本プログラムを2025年度以降も継続して運営するため、プログラムの構造改革、Erasmus+への申請などこれからのプログラム運営について議論した。また、Quality Assurance Board (QAB)も3回開催され、プログラムの質保証等に関し、議論を行った。

●AMBのミッション:プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。

●QABのミッション:プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。



〈2023年9月に修了した第2期生〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

今年度で2度目の学生の受入れとなった。受入れ学生が来日前、来日後に直面する問題について把握することができたため、留学生が日本での生活をスムーズに始められるよう、来日前オリエンテーションをオンラインにて2回行い、ビザ申請から本学での履修に関する事、その他手続きについて伝え、来日後は煩雑な市役所の手続きなどを円滑に行えるようにした。日本人の派遣では、留学後コミュニケーションに不安が無いよう、本学入学からプログラムが始まるまでの半年間、英語研修を引き続き行い、安全確保のため、アイラック(株)による危機管理オリエンテーションを行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本学の広報担当部署とも連携し、修了式をYouTubeで配信した。第1期学生及び第2期生には、修了後の進路の進捗確認を行い、ウェブサイトにこれまでの実績(受入れ・派遣)とともに掲載している。

今後のプログラムの継続を目指し、2025年開始のErasmus+プログラムに、EUの連携大学とともに申請を行った。コンソーシアムのフルパートナーとしてErasmusから基金を受けて留学プログラムを運営することは本学としては初めての試みとなり、学術的にも、事務的にもEU側との強い連携を更に求められる。Erasmusへの申請に伴い、パートナー大学、EUコミッションのメンバーが本学へ来学し、活発に意見交換が行われた。

■ ゲッドプラクティス等

○ パートナー大学によるコンソーシアム運営

2019年度に設立した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、定期的にAcademic and Management Board (AMB)及びQuality Assurance Board (QAB)を開催して、プログラムの運営を行っている。2023年度は、実際に欧州に教職員を派遣して、対面での会議や打ち合わせを開催することができた。プログラムの立ち上げから今年度で5年目となり、教職員の良好な関係から、様々な問題に対する対応は迅速で、質の高いプログラムを提供できている。

○ パートナー企業の充実

2023年度は2025年度からの新体制への期待からパートナー企業の更なる参画を求めた。これまでのプログラム運営の成果から、新たに多くの企業がアソシエイトパートナー企業として参加する見込みとなった。(参画予定機関: YLE Innovations(フィンランド)、産業技術総合研究所(AIST)人間拡張研究センター(日本)、ソニーコンピュータサイエンス研究所(日本)、Varjo(フィンランド)、See True(フィンランド)、OptoFidelity(フィンランド)、Speedernet(フランス)、Hexadrone(フランス)等)

資料-9

JEMAROプログラムの取組内容

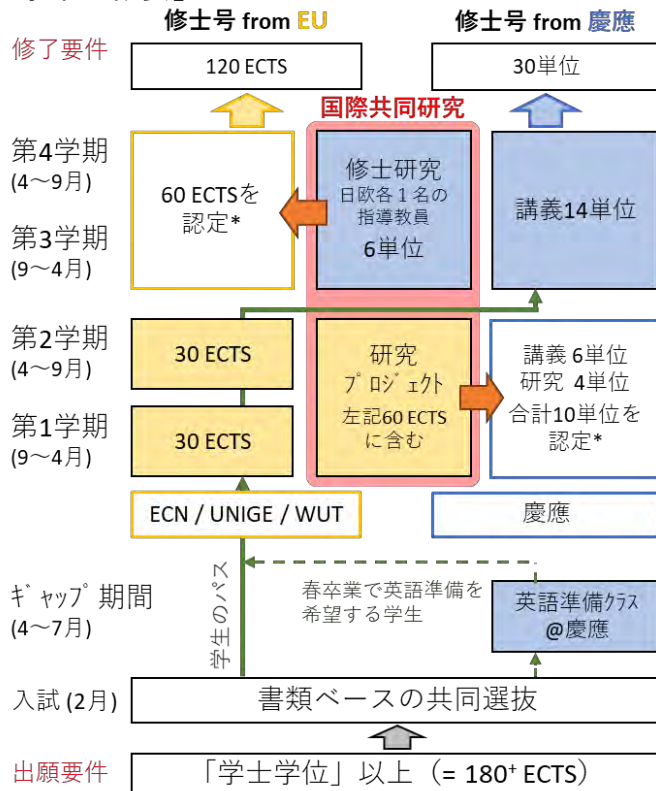
慶應義塾大学工学部・理工学研究科

大学の世界展開力強化事業(2019年度選定) 慶應義塾大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)

【交流推進事業の概要】



JEMAROコンソーシアム

定期ミーティング

- 出願者の共同選抜
- 国際共同研究テーマの立案と提示
- 相互補完的講義リストの更新
- 全世界向けの新入生獲得プロモーション戦略の検討
- プログラム参加学生による国際共同研究の進捗発表会
- プログラム参加学生との意見交換とプログラムへのフィードバック

【交流プログラムの概要】

日欧に限らず、産業界や社会基盤の発展のためにロボティクス技術の重要性が増している。世界中で広く利用されている産業用ロボットに留まらず、スマートシティ、スマートホーム、自動運転、医療ロボット、エンターテインメント、レスキュー、人間支援、身体機能の拡張など、身の回りのあらゆる場所でロボティクス技術への期待が高まっており、世界的に見て高度ロボティクス技術者の需要が高まることは疑う余地がない。このため、提案するJEMAROプログラムでは、欧州3大学(フランス Ecole Centrale de Nantes、イタリア University of Genoa、ポーランド Warsaw University of Technology)と慶應義塾大学がそれぞれのリソースを提供することによって、単独では成立しない教育・研究体制を構築するとともに、各国パートナー企業との協働体制を構築することで、次世代高度ロボティクス技術者を育成するとともに実社会に人的・技術的リソースを還元することを目的とする。

【本事業で養成する人材像】

- 異なる文化圏の背景を理解し、国際共同プロジェクトの中で中心的役割を果たすグローバルエンジニア
- 当該分野を俯瞰的に理解する高度な専門知識を持つエンジニアリングマネージャ

【本事業の特徴】

- JEMAROプログラムは以下に示す特徴を有する。
- 国際共同研究を中核としたカリキュラム
- ロボティクスに関する学際的基礎科目(必修)と高度専門科目(選択)の提供
- パートナー企業による研究課題や講義、インターンシップ、修了後の進路の提供
- 欧州の少なくとも1ヶ国と日本にそれぞれ1年間滞在

【交流予定人数】

	2019	2020	2021	2022	2023
学生の派遣	0	2	4	4	8
学生の受入	0	0	14	12	12

1. 取組内容の進捗状況(2019年度)

【慶應義塾大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)

■ 交流プログラムの実施状況



2019年9月に採択されたプログラムであり、2020年度からの本格的な学生派遣及び受入に向けて各システム構築中である。

3月に、EUパートナー大学との合同選考会が開催され、応募者433名のの中から厳正な審査過程を経て最終的に14名の受入れを決定した。

JEMARO学生交流研究室(JEMARO Student Exchange Laboratory)を学内に設置し、次年度からの学生交流及び研究のために、またWeb会議を自由にいつでも実施できるように、設備面の整備も進んでいる。

〈JEMARO Student Exchange Laboratory 内観〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2019年度はプログラムの準備期間であり、2020年9月より派遣開始予定のため0名。

○ 外国人留学生の受入

同じく2019年度はプログラムの準備期間であり、さらに初年度は欧州3大学のいずれかに在籍予定のため0名。

	2019	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	0	0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

EUの3大学と慶應義塾大学大学院理工学研究科の研究活動を中心とした共同研究体制を構築し、共著での論文発表も行える研究者育成を目標としており、入学者の質に関しても、必ず慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程あるいはKeio University International Graduate Program on Advanced Science and Technologyの入試による選考を経るものとしている。

欧州大学所属の学生の質も、これまでに慶應義塾大学がAssociate partnerとして参加してきたEMARO (European Master on Advanced Robotics)の選考プロセスに則って保証されている。

また、最終的な学生の受入れ決定は共通の審査基準で行っている。2020年3月6日に開催したWeb合同会議では、受入れ学生の決定とともに、COVID-19の影響を受け、教育の質を保ちつつプログラムを実施するための方針についての協議を行った。



〈2020年3月6日に実施されたWeb合同会議の主題〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対しては、他の交換留学生等と同様に寮や住宅の紹介、生活状況の提供、TAによるサポート体制などを整え、日本での学業に専念できる環境の整備に努めている。

日本人学生の派遣に向けて、現地受入校と緊密に連携を取り、大学の情報や受入国の基礎情報の提供等を行い、留学先での学業に専念できる環境の整備に努めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本プログラム独自の日本語版ホームページ(<https://jemaro.st.keio.ac.jp/>)及び、EU側英語版ホームページ(<https://jemaro.ec-nantes.fr/>)を開設し、相互にリンクを貼り公開情報の充実化を図っている。

また、大学の世界展開力強化事業(EU)採択校3大学において、慶應義塾大学がプラットフォーム構築大学として選定されており、採択校間の意見交換会・シンポジウムも予定している。

■ グッドプラクティス等

新型コロナウイルス感染症の影響によるプログラム変更を最小限に抑え、情報共有のためにJEMAROコンソーシアム・メンバーによるweb会議が月1回のペースで開催されている。また、毎年3月、7月に開催を計画しているコンソーシアム・ミーティングをWeb会議として2020年3月6日に実施した。

2. 取組内容の進捗状況(2020年度)

【慶應義塾大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)

■ 交流プログラムの実施状況



〈ECN(フランス)に到着した海外のJEMARO1期生〉

2020年度より学生の交流も始まり、本格的なプログラムスタートの年であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で日本からは渡欧がかなわず、日欧ともにオンラインによる実施となった。そのような状況下でも、プログラム全体の応募者は前年より100名近く増加し、3月にEUパートナー大学との合同選考会が開催され、応募者527名の中から厳正な審査過程を経て18名の受入れ(内日本人2名)が決定している。コロナ禍の交流事業で得た知見を、3月には幅広く採択校以外へもに向けたシンポジウムにて発表した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

当初、2020年9月より5名派遣開始予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため2名が辞退。またプログラムを継続した3名は(フランス1名、イタリア2名)国内にてオンラインによる授業となった。

○ 外国人留学生の受入

2年間のプログラムのうち、初年度は欧州3大学のいずれかに在籍のため2020年度の受入は計画通り0名。2021年9月より9名受入開始予定。

	R2(2020)	
	計画	実績
学生の派遣	2	3
学生の受入	0	0



JEMARO 紹介動画(日本語バージョン)

〈JEMARO 紹介動画(日本語バージョン)〉

https://www.youtube.com/watch?v=k6_2pSTVtCU

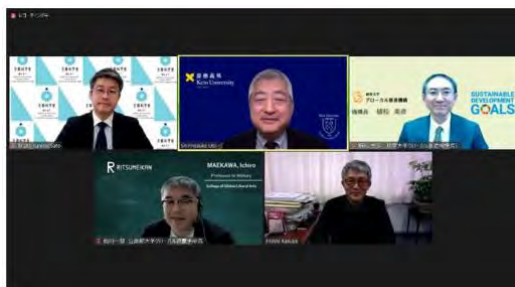
■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

学生の研究課題に対する意欲・興味を選考過程より重視し、プログラム開始前に日本での指導教員を決定。渡日の1年以上前から日欧両方の指導教員の下で研究に取り組める体制を整えている。EU側との連携に基づき、第1期生12名(内日本人3名)、第2期生18名(内日本人2名)の日本側指導教員の選定を終了しており、研究の共同指導体制の明確化を図っている。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

対象の外国人学生が全員初来日であり、オンライン冊子「Guide for Before Departure and Upon Arrival 2021」を配布し、寮の優先案内、査証手続き、生活情報等の提供を早期に行い、就学環境整備を進めている。また、オンライン留学中の日本人学生のために、「JEMAROプログラム特化型アカデミックスキル英語研修」を実施し、英語でのディスカッション・プレゼンテーションスキルの向上を図った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及



〈『共同学位プログラム協議会』設立に向けてシンポジウム第一部より〉

大学の世界展開力強化事業(EU)採択校3大学において、プラットフォーム構築大学として、採択校連絡会の開催(第1回:7月、第2回:3月)及び情報交換会を複数回実施し、学生派遣・受入に関する情報を共有。3月には、「『共同学位プログラム協議会』設立に向けて」と、「『The realities of managing international programs during the coronavirus pandemic(英語)』の二部構成のシンポジウムをオンラインにて開催した(<https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/iuep-eu-symposium/>)。JEMARO紹介動画を日本語版・英語版2本作成し、EU・日本のJEMAROサイト他広く広報活動を行った。

■ ゲッドプラクティス等

研究教育指導体制を整えるのと同時に学生公募のための広報資料(紹介ビデオおよびホームページの充実)の制作に力を入れた。その結果、応募者数の100名近くの増加、GoogleでのJEMARO検索ヒット数も141,000件(2021年6月28日検索)と、広報の成果が得られている。

3. 取組内容の進捗状況(2021年度)

【慶應義塾大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)

■ 交流プログラムの実施状況



〈JEMARO DAYS オープニング画面〉

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、前年度から引き続き日欧ともにオンラインによるプログラムの実施となったが、9月には2期生日本人2名を初めて欧州に派遣することができ、欧州側では実地での対面のプログラム参加が可能となった。

3期生の公募を実施した。プログラム全体の応募者は前年より350名近く増加し、3月にEUパートナー大学との合同選考会が開催され、応募者873名の中から厳正な審査過程を経て23名の参加(内日本人3名)が決定している。

大学における授業・研究に加え、9月に2日間にわたり「JEMARO DAYS」をオンラインで開催。外部ロボット関連産業関係者・企業等からも講師を招きJEMARO生を対象にセミナーイベントを実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2021年9月より初めての実地航空生として、2期生2名を派遣開始した(フランス1名、イタリア1名)。1期生が実地航空が叶わず、公募期間が外務省の渡航中止勧告及び国内の緊急事態宣言時期と重なり、留学への逆風が強い中、2期生2名の参加を確定できた。

○ 外国人留学生の受入

2020年9月より1期生9名(新型コロナウイルス感染症の影響で10名辞退)を受け入れた。入国制限のためそれぞれ出身国もしくは1年目国籍校所在国にて、オンラインによる授業履修・研究指導となったが、2022年4月以降順次入国予定である。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	4	2
学生の受入	14	9

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

11月に「EU-日本 国際共同学位情報交換会」を開催。欧州フランス、イタリア、ポーランド、ドイツ、ルーマニアの6大学、日本3大学の関係者が議論を行い、国際共同学位の認証評価(Accreditation)、質の保証に対する取り組みについて紹介し、ジョイント・ディグリー設置に向け効果的に相互理解を深めることができた。

(<https://iuep-eu.keio.ac.jp/council/20211116/>)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

9月より慶應義塾に就学予定の対象学生に向けて「JEMARO Course Guidebook 2021」を配布し、履修登録の方法や必修単位数、修論審査等についての疑問を解消しつつ、就学環境整備を進めた。

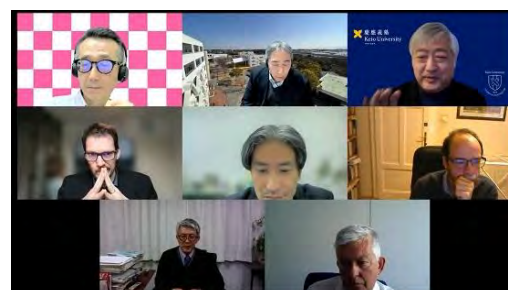
また8月には、派遣直前の2期生日本人学生のために、「JEMAROプログラム特化型アカデミックスキル英語研修」を実施し、英語でのディスカッション・プレゼンテーションスキルの向上を図った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

プラットフォーム構築大学として、採択校情報交換会を4回実施し、事業の進捗と課題を共有した。

3月に「日-EU国際共同学位プログラムの質保証について」をテーマに、大学の世界展開力強化事業日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムを開催した。欧州委員会教育文化総局(EACEA)からの登壇者による欧州における質保証の動向に関する講演が行われ、パネルディスカッションでは国境を越える「共同」学位をどう評価すべきかといった本質的な課題について活発な議論が行われた。

(<https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/20220323/>)。



〈プラットフォーム構築事業シンポジウムより〉

■ グッドプラクティス等

発信力を高めるためプラットフォーム構築事業のブランディングを行った。専門の業者が主導し、採択3大学の関係者への聞き取り、ワークショップを実施、共通のロゴやキーメッセージを策定した。これに則したデザインへwebサイトを刷新した。



〈プラットフォーム構築事業webサイトより〉

4. 取組内容の進捗状況(2022年度)

【慶應義塾大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム (JEMARO)

■ 交流プログラムの実施状況



〈 1月 2期生課題研究発表の様子 〉

前年9月よりオンラインによるプログラム参加となっていた1期生が、入国制限の緩和に伴い2022年4月より実渡航が可能となり、ようやく日本でも対面でのプログラム実施となった。7月の修論審査発表を経て無事9月に修了し、日欧2大学の学位を取得している。また同年9月には2期生16名が来日し、1月には課題研究発表も終えている。日本人学生においても、予定どおり2期生2名が1年目のカリキュラムを修了し帰国、続く3期生3名は9月に渡欧した。4期生の公募を実施した。3月にEUパートナー大学との合同選考会が開催され、応募者852名の中から厳正な審査過程を経て24名の参加(内日本人8名)が内定している。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

初めての实渡航生であった2期生2名(フランス1名、イタリア1名)は2021年9月に派遣し、帰国後2022年9月より慶應義塾にてプログラム2年目に就学している。また3期生3名(フランス2名、イタリア1名)を2022年9月より1年間の予定で派遣している。

○ 外国人留学生の受入

2020年9月よりプログラムに参加していた1期生9名は、入国制限の緩和に伴い2022年4月によりやく入国でき、7月の修論発表審査を経て、全員9月に修了した。EU圏のみならず米国・アジア圏含む9カ国より参加の2期生16名は2022年9月に来日し、慶應義塾にてプログラム2年目に就学中である。

	2022	
	計画	実績
学生の派遣	4	3
学生の受入	12	16

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

7月に第2回「EU-日本 国際共同学位情報交換会」を開催。フランス、イタリア、ポーランド、ドイツ、ルーマニアの欧州6大学、日本採択校3大学の関係者が参加した。認証団体からEuropean Approach (EA)におけるプロセスや評価基準の紹介、Erasmus Mundus国際修士プログラムの担当者からプログラムの実践やEAの実施経験の紹介があり、国際共同学位の認証評価(Accreditation)、質の保証に対する相互理解を深めることができた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

9月より就学の留学生に向けて「JEMARO Course Guidebook 2022」を配布し、履修登録の方法や必修単位数、修論審査等についての疑問を解消しつつ、就学環境整備を進めた。またプログラム参加学生のみが使用できる「JEMARO Room」の整備をし、参加学生同士が気軽に交流を行える環境を整えた。8月には、派遣直前の3期生日本人学生のために、「JEMAROプログラム特化型アカデミックスキル英語研修」を実施し、英語でのディスカッション・プレゼンテーションスキルの向上を図った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

プラットフォーム構築大学として、採択校同士の情報共有を目的として対面も含めた連絡会・情報交換会を4回実施し、進捗を確認した。10月に「日-EU 国際共同学位プログラムの導入と実践」をテーマに、大学の世界展開力強化事業日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムを開催した。欧州委員会教育文化総局(EACEA)およびフランスの研究・高等教育評価高等審議会(HCERES)からの登壇者による講演を軸とした2部構成とし、先行する日-EU間JDPの実例も2例紹介した。質疑応答を兼ねたパネルディスカッションでは、国際共同プログラムの質保証について活発な議論が行われた。(<https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/sdgs/20221007/>)。



〈 プラットフォーム構築事業シンポジウムより 〉

■ グッドプラクティス等

CNRS-AIST Joint Robotics Laboratory副所長を講師に迎えた2週間の集中講義ならびに産業技術総合研究所(AIST)つくばセンター見学の実施(6月)、ロボティクス関連の国際学会IROS 2022へ学生派遣(10月)、ロボット関連企業訪問(2社)と、学外への展開も積極的に実施。学生に先端研究に接し、人的ネットワークを広げる機会を提供した。



〈 京都での国際学会IROS 2022参加のJEMARO生 〉

1. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【慶應義塾大学】

【事業の名称】(採択年度 2019年度)

Japan-EU高度ロボティクスマスタープログラム (JEMARO)

■ 交流プログラムの実施状況



〈学位記を手にする2期生たちの様子〉

・2期生18名が修論審査発表を経て無事9月に修了し、欧州パートナー校と慶應義塾の学位を取得した。同9月に3期生19名が来日し、1月の課題研究発表も終え研究を継続している。4期生については、日本人学生8名派遣の目標を達成し、5期生はEUパートナー大学との合同選考会にて、日本人学生6名の派遣が決定した。
・EUパートナー校から教員4名を招聘、本学から教員6名を派遣し、セミナー、研究室訪問、課題研究発表審査会を実施した。本学教員の研究紹介動画を編集し、共同指導体制の拡充にむけた教員間の交流を深めた。
・ロボティクス関連の国際学会やイベント(IFToMM World Congress 2023, Mecatronics & AISM2023, 2023国際ロボット展)への参加・学生派遣、ロボット関連企業訪問も行き、産業界との連携を行った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2022年9月～2023年8月まで3期生3名(フランス2名、イタリア1名)を派遣し、帰国後本学にてプログラム2年目で学んでいる。2023年9月より1年間、4期生8名(フランス3名、イタリア3名、ポーランド2名)を派遣している。プログラム初のWUTへの派遣も実現した。

○ 外国人留学生の受入

3期生19名(EU圏のみならず南米・アジア圏含む12カ国より参加)を2023年9月より受け入れている。また、9月まで在籍していた2期生16名は、7月の修論発表審査を経て、全員無事修了している。

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	8	8
学生の受入	12	19

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・日欧4大学から成るコンソーシアムによる合同マネージメント会議を対面、オンラインで年4回開催し、プログラムの確実な運営と、継続的な改善を行っている。
・本交流プログラムの質の維持、向上のためにJEMAROプログラムQuality Committeeを設置した。これまでの活動内容を示すエビデンス資料を集積し、日欧・産業界の視点から外部評価委員3名による客観的な評価を受けた。2019年から2023年まで、計78名の学生(内日本人学生16名)が参加した、質の保証を伴った国際共同修士プログラムとしての実績が評価された。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・単位の付与・相互認定、学位授与に至るプロセスを説明したStudent Agreement、Student Handbookを入学前の学生も閲覧できるウェブサイトで公開している。また、来日前の留学生に向けてJEMARO Course Guidebook 2023を配布し、本学での履修登録の方法や必修単位数、修論審査等について案内した。
・JEMARO生専用Roomの共用機器のアップグレードも行い、学生の交流・学修を行う環境を維持した。4期生日本人学生へは、「JEMAROプログラム特化型アカデミックスキル英語研修」を渡航前に実施し、英語でのプレゼンテーションスキルの向上を図った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

・プラットフォーム構築大学として、採択校同士の情報共有を目的とした連絡会・情報交換会を2回開催し、各プログラムの取組、国際会議での発表、事業報告書について協議した。
・各国の国際教育関係者が集う2つの国際会議にてセッションを企画し、JEMAROとプラットフォーム構築事業を通じて得られた知見や成果を報告した。EAIE 2023では、JDプログラムの設置と質認証に関わる日欧の違いをECNとWUTの代表者と紹介した。APAIE 2024では、日欧の国際共同学位プログラムの発展に向けた情報提供を東京外国語大学とECNの代表者と共に行った。 <https://jemaro.st.keio.ac.jp/iuep-eu/activity/>



〈EAIE2024における発表メンバー〉

■ ゲッドプラクティス等

・卒業生・企業関係者も出席するJEMARO Daysを対面で実施した。学生・修了生がチームに分かれ3日間課題に取り組むロボットコンテストを開催した。JEMAROを通じて得た専門知識を活かし、多様なバックグラウンドのチームメイトと協働する機会を提供することができた。
・日本人派遣生へアンケートを実施。本プログラムを通じて、ロボティクスに関する広く実践的な理解、多様な学生との交流を通じた国際的価値観やコミュニケーション能力が獲得できたことが示された。進路も国際的なキャリアへの志向が強まった。今後の継続に向け、5名のインタビュー動画を作成し公開した。



〈国際学会IFToMM参加のJEMARO生〉



慶應義塾大学

Keio University

Tokyo, Japan